平成23年旭市議会第3回定例会委員会会議録目次

決算審査特別委員会 平成23年9月9日（金）

付議事件	1
出席委員	1
欠席委員	1
委員外出席者	1
事務局職員出席者	1
開会	2
委員長の互選	2
副委員長の互選	4
閉会	5

決算審査特別委員会 平成23年9月15日（木）

付議事件	7
出席委員	7
欠席委員	7
委員外出席者	7
説明のため出席した者	7
事務局職員出席者	8
開会	9
決算審査の日程及び各議案の審査方法について	10
議案の説明、質疑	11
議案の採決	79
散会	79

決算審査特別委員会 平成23年9月16日(金)

付議事件	8 1
出席委員	8 1
欠席委員	8 1
委員外出席者	8 1
説明のため出席した者	8 1
事務局職員出席者	8 2
開議	8 3
議案の説明、質疑	8 4
議案の採決	1 1 5
閉会	1 1 7

建設経済常任委員会 平成23年9月21日(水)

付議事件	1 2 1
出席委員	1 2 1
欠席委員	1 2 1
委員外出席者	1 2 1
説明のため出席した者	1 2 1
事務局職員出席者	1 2 2
開会	1 2 3
議案の説明、質疑	1 2 4
議案の採決	1 3 1
所管事項の報告	1 3 1
請願の審査	1 4 2
請願の採決	1 4 5
意見書案の説明	1 4 5
閉会	1 4 8

文教福祉常任委員会 平成23年9月22日(木)

付議事件	151
出席委員	151
欠席委員	151
委員外出席者	152
説明のため出席した者	152
事務局職員出席者	152
開会	153
議案の説明、質疑	154
議案の採決	164
所管事項の報告	166
陳情の審査	168
陳情の採決	177
閉会	179

総務常任委員会 平成23年9月26日(月)

付議事件	183
出席委員	183
欠席委員	183
委員外出席者	183
説明のため出席した者	183
事務局職員出席者	184
開会	185
議案の説明、質疑	186
議案の採決	192
所管事項の報告	194

決算審査特別委員会

平成23年9月9日（金曜日）

決算審査特別委員会

平成23年9月9日（金曜日）

付議事件

委員長の互選

副委員長の互選

出席委員（9名）

委員長 向 後 悦 世
委 員 滑 川 公 英
委 員 平 野 忠 作
委 員 太 田 將 範
委 員 飯 嶋 正 利

副委員長 伊 藤 房 代
委 員 景 山 岩三郎
委 員 島 田 和 雄
委 員 宮 澤 芳 雄

欠席委員（なし）

委員外出席者（2名）

議 長 林 一 哉

副議長 嶋 田 哲 純

事務局職員出席者

事務局 長 堀 江 通 洋
主 査 榎 澤 茂

事務局 次 長 向 後 嘉 弘

開会 午後 1時31分

○議会議務局長（堀江通洋） どうも本会議でお疲れのところご苦労さまでございます。

それでは、決算審査特別委員会を開催するに当たり、委員長が選出されておられませんので、旭市議会委員会条例第10条第2項の規定により、委員長が選出されるまでの間、出席委員の中の年長者でございます滑川公英委員に座長を務めていただきたいと思います。

それでは、滑川委員、よろしく申し上げます。

（座長 滑川公英 座長席に着席）

○座長（滑川公英） ただいまご指名をいただきました滑川公英でございます。

委員長が選出されるまで、しばらくの間、会議の進行を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

ただいまの出席委員は9名、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開会いたします。

本日、林議長、嶋田副議長に出席をいただいております。代表しまして、林議長よりごあいさつをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（林 一哉） 委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。

ただいま本会議におきまして9名の皆様方に、決算審査特別委員会の委員ということで選任をいたしましたわけでございますけれども、これから正副委員長の互選があるわけでございますので、ひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

決算審査特別委員会自体は、平成22年度の決算という大変重要な審査があるわけでございますけれども、どうか十二分なる審査をお願い申し上げまして、簡単ではございますけれども、あいさつに代えさせていただきます。ひとつよろしく願いいたします。

○座長（滑川公英） どうもありがとうございました。

それでは、案件でございますが、決算審査特別委員会の正副委員長の互選についてでございます。

初めに、委員長を互選いたしたいと思います。

委員長の互選はどのようにしたらよろしいのでしょうか。指名推選という方法もあろうかとは思いますが、ご意見がございましたらよろしく願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 私は、今このメンバーを見まして……

（発言する人あり）

○委員（景山岩三郎） 方法。失礼しました。指名推選でお願いしたいと思います。

○座長（滑川公英） いかがでございましょうか。指名推選でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○座長（滑川公英） ご異議なしと認めます。

よって、委員長は指名推選とすることに決しました。

それでは、どなたか推薦をお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 私は、向後悦世委員、ぜひ委員長をやってもらいたいと思います。どうでしょうか。よろしくをお願いします。

○座長（滑川公英） 向後委員。

○委員（向後悦世） 今、年長者ということで滑川委員に座長を務めていただいておりますが、期数から言って3期で、年から言っても景山岩三郎委員が3期の中で2番目の年長者ということで、座長の次の年長ということでございますので、ぜひ委員長のほうをよろしくお願ひしたいと思いますので、どうぞよろしく。

○座長（滑川公英） そのほかには。

平野委員。

○委員（平野忠作） 私も向後悦世委員と同じ考えでございますので、ぜひとも景山岩三郎委員になっていただきたいと、このように思っています。

○座長（滑川公英） そのほかには。

島田委員。

○委員（島田和雄） 私は、前は建設経済委員長の滑川委員が委員長をされたということで、今回は文教福祉委員長の向後悦世委員が適任ではないかなというふうに思っております。

○座長（滑川公英） そのほかには。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 私も、今、島田委員と同じような考え方でございまして、去年、滑川委員長、私、副委員長やりましたので、今年はぜひ文教の委員長のほうにお願いしたいなど思って指名させていただきました。

○座長（滑川公英） いかがいたしましょうか。

平野委員。

○委員（平野忠作） 今の景山委員の意見も尊重しまして、私は本来であれば年長の景山委員と言ったんですけれども、役職上、委員長をやっていますから、向後委員にお願いしたいと。何か、変わったみたいで申し訳ないけれども、妥当なあれかと思って。すみません、どうぞよろしくお願いします。

○座長（滑川公英） では、推薦人がどちらかという向後委員のほうにというのが数が多いと思うので、ぜひ向後悦世委員に決算審査委員長をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、ここで委員長と交代します。

（委員長 向後悦世 委員長席に着席）

○委員長（向後悦世） ただいま皆様方のご推挙により、委員長を務めさせていただくことになりました向後悦世でございます。どうぞよろしくご協力のほどお願いいたします。

引き続き、決算審査特別委員会副委員長の互選を行いたいと思います。

副委員長の互選はどのようにしたらよろしいでしょうか。

滑川公英委員。

○委員（滑川公英） 委員長が推薦だったので、ぜひ推薦でお願いできればと思います。

○委員長（向後悦世） 指名推選ということでございますが、それでよろしいでしょうか。

ただいま指名推選ということで、おはかりいたします。副委員長は指名推選ということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） よって、副委員長は指名推選とすることに決しました。

それでは、どなたか推薦をお願いいたします。

伊藤房代委員。

○委員（伊藤房代） 委員長が文教福祉ですので、総務か建設のほうで副委員長の役をやっていただければよろしいかと思えます。

○委員長（向後悦世） ほかに意見はありませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） できれば、私、伊藤房代委員に同じ3期ということでお願いできればと思いますが。

○委員長（向後悦世） そのほかに何か意見ありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） では、伊藤房代委員にお願いしたいということでございますので、どうぞよろしく申し上げます。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 異議なしと認めます。

よって、伊藤房代委員が副委員長に決定いたしました。

ここで、副委員長にごあいさつをお願いいたします。

○副委員長（伊藤房代） ただいま皆様から副委員長ということでご推薦をいただきました。

頑張ってまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

ただいまの正副委員長の当選結果については、この後、本会議において議長より報告していただきます。

次に、事務局より連絡事項がございますので、よろしくをお願いいたします。

事務局長。

○議会事務局長（堀江通洋） 一応、正副委員長を決めていただきましたので、直ちに本会議のほうに移らせていただきます。議長のほうから報告をさせていただきます。

きょうの散会后、また集まっていただきまして、決算審査特別委員会の日程と審査方法について打ち合わせをしたいと思いますので、散会后、またここに集まっていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ただいま事務局より連絡がありましたとおり、本日散会后、お集まりいただきますようお願いいたします。

以上をもちまして決算審査特別委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

閉会 午後 1時42分

決算審査特別委員会

平成23年9月15日（木曜日）

決算審査特別委員会

平成23年9月15日（木曜日）

付議事件

決算審査日程について

決算審査方法について

《付託議案》

議案第 1号 平成22年度旭市一般会計決算の認定について

出席委員（9名）

委員長	向 後 悦 世	副委員長	伊 藤 房 代
委員	滑 川 公 英	委員	景 山 岩三郎
委員	平 野 忠 作	委員	島 田 和 雄
委員	太 田 將 範	委員	宮 澤 芳 雄
委員	飯 嶋 正 利		

欠席委員（なし）

委員外出席者（2名）

議長	林 一 哉	副議長	嶋 田 哲 純
----	-------	-----	---------

説明のため出席した者（79名）

副市長	増 田 雅 男	教 育 長	茅 田 哲 雄
秘書広報課長	伊 藤 浩	行 政 改 革 推 進 課 長	林 清 明
総務課長	神 原 房 雄	企 画 政 策 課 長 兼 被 災 者 支 援 室 長	米 本 壽 一
財政課長	加 瀬 正 彦	税 務 課 長	佐 藤 一 則
市民生活課長	齊 藤 馨	環 境 課 長	浪 川 敏 夫
保険年金課長	石 毛 健 一	健 康 管 理 課 長	高 山 重 幸

社会福祉課長	渡 辺 輝 明	子 育 て 課 長	林 芳 枝
高 齢 者 課 長	石 井 繁	支 援 課 長	横 山 秀 喜
農 水 産 課 長	堀 江 隆 夫	商 工 観 光 課 長	北 村 豪 輔
都 市 整 備 課 長	伊 藤 恒 男	兼 支 配 宿 舎 人	増 田 富 雄
会 計 管 理 者	花 香 寛 源	建 設 課 長	佐 藤 清 和
庶 務 課 長	加 瀬 寿 一	下 水 道 課 長	菅 谷 充 雅
生 涯 学 習 課 長	高 野 晃 雄	消 防 長	野 口 國 男
監 査 委 員 長	馬 淵 一 弘	学 校 教 育 課 長	加 瀬 恭 史
事 務 局 長	5 1 名	体 育 振 興 課 長	
の 他 担 当 員		農 業 委 員 会 長	
職		農 事 務 局 長	

事務局職員出席者

事 務 局 長	堀 江 通 洋	事 務 局 次 長	向 後 嘉 弘
主 査	榎 澤 茂		

開会 午前10時 0分

○委員長（向後悦世） おはようございます。

本日はお忙しいところ、ご苦勞さまでございます。厳しい暑さも続いている中ではあります。慎重なる審査よろしくお願ひいたします。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願ひます。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願ひます。

ただいまの出席委員は9名、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開会いたします。

なお、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願ひいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 1分

（傍聴者入室）

再開 午前10時 1分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、林議長と嶋田副議長に出席をいただいておりますので、代表して林議長にごあいさつをお願ひいたします。

○議長（林 一哉） おはようございます。

委員の皆さん方には、本当に大変ご苦勞さまでございます。本会議におきまして、決算審査特別委員会に付託いたしました議案は10議案ではございますけれども、非常に内容も多岐にわたりまして、いろいろ大変な審査であるわけではございますけれども、どうか十二分なる審査をしていただきまして、皆さん方にひとつご理解を賜りますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますけれども、あいさつとさせていただきます。よろしくひとつお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長ほか担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

増田副市長。

○副市長（増田雅男） おはようございます。

本日は、決算審査特別委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

本日からの特別委員会に審査をお願いいたしますのは、平成22年度の一般会計、特別会計、公営企業会計の各決算議案10件でございます。そのうち本日は一般会計の審査をお願いするわけでございますが、執行部といたしましては、委員の皆様方のご質問に対しましては簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案認定くださいますようよろしく審査をお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

本日はご苦労さまでございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

ここで、増田副市長は所用のため退席いたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 5分

（副市長退席）

再開 午前10時 5分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

決算審査の日程及び各議案の審査方法について

○委員長（向後悦世） それでは、決算審査の日程及び審査方法について協議いたします。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○議会事務局長（堀江通洋） それでは、決算審査の日程と各議案の審査方法についてご協議をお願いしたいと思います。

まず、決算審査の日程についての協議でございますが、予定では9月15、16、20日の3日

間を予定しておりますので、事務局案としましては、議案第1号の一般会計決算の審査は、審査内容が多岐に及ぶことから、9月15日、本日の1日の日程で審査をしていただきまして、次の16日に議案第2号、国保会計の決算から議案第10号、国民宿舎会計の決算までの特別会計及び企業会計の決算を、議案第2号から順次審査をしていただき、20日の日を予備日としてはどうかと思いますが、ご協議をいただきたいと思います。

次に、各議案の審査方法についてですが、議案第1号の一般会計決算の審査方法については、審査内容が多岐に及びますので、事務局案としましては、例年同様に歳出の款ごとに区分をいたしまして、初めに1款議会費から2款総務費まで、次に3款民生費から4款衛生費まで、次に5款労働費から8款土木費まで、そして9款消防費から14款予備費までの4つに区分して、それぞれ歳入歳出を併せて審査してはどうかと思います。

また、議案第2号から議案第10号までの特別会計及び企業会計決算の審査方法については、議案ごとに歳入歳出を併せて審査してはどうかと思いますが、併せてご協議をお願いしたいと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 事務局の説明は終わりました。

ただいま事務局の説明のとおりとすることに異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 異議ないようでございますので、そのように決定させていただきたいと思っております。

議案の説明、質疑

○委員長（向後悦世） 続いて、本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月9日の本会議におきまして本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成22年度旭市一般会計決算の認定について、議案第2号、平成22年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、議案第3号、平成22年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、議案第4号、平成22年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について、議案第5号、平成22年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、議案第6号、平成22年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、議案第7号、平成22年度旭市農業集落排水事業

特別会計決算の認定について、議案第8号、平成22年度旭市水道事業会計決算の認定について、議案第9号、平成22年度旭市病院事業会計決算の認定について、議案第10号、平成22年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定についての10議案であります。

本日は、議案第1号の1議案を議題といたします。

それでは、本日の日程についてでございますが、議案第1号の平成22年度旭市一般会計決算の認定のみを本日1日の日程で審査を行います。

審査方法については、歳出の款別に大きく4つに区分して、歳入歳出を併せて順次審査を行いたいと思います。

初めに、歳出の1款議会費と2款総務費を、次に3款民生費と4款衛生費、次に5款労働費から8款土木費まで、最後に9款消防費から14款予備費までの4つに区分して、区分ごとに一括して説明をいただきまして、質疑につきましても区分ごとに一括して行いたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

また、会場の都合により、担当課の入れ替えを、ただいま申し上げました4つの区分ごとに行いたいと思いますので、併せてお願ひしたいと思います。

それでは、議案第1号の審査を行います。

議案第1号の歳出、1款の議会費と2款の総務費について、担当課より補足して説明がありましたらお願ひいたします。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、財政課から議案第1号の補足説明を申し上げます。

本会議におきまして、補足説明を既に申し上げているところでございますが、そのほかに私からは2点ほど追加して説明させていただきまして、その後、各課から所管する事務事業について説明という形をとりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

決算書の356ページをお願ひいたします。

平成22年度旭市一般会計実質収支に関する調書でございます。

改めて申し上げますと、歳入の総額は291億8,498万3,000円、歳出の総額が265億6,565万1,000円で、歳入歳出の差引額が26億1,933万2,000円となりました。

この額から翌年度へ繰り越すべき財源として繰越明許費に係る分として12億2,703万8,000円、これは去る6月議会の報告第1号として繰越明許費繰越計算書でご報告申し上げましたとおりでございます。東北地方太平洋沖地震災害救助費をはじめとする31事業に係るものであります。

次の事故繰越しに係る分が6,892万9,000円でありまして、これにつきましても6月議会の報告第2号の事故繰越し計算書で報告申し上げました道路新設改良事業をはじめとする10事業に係るものでございます。

この2つの繰越し財源の合計が12億9,596万7,000円で、これを差し引きました実施収支が13億2,336万5,000円でありまして、この額が平成23年度に繰り越されたものでございます。

次に、もう1点でございますが、起債についてご説明申し上げます。

少し戻っていただきまして、48ページをお願いいたします。

20款の市債であります。収入済額、これは右側のページになります。36億2,090万円となっております。この中で合併特例債の対象となったものを申し上げます。

2目衛生費の備考欄1の水道事業一般会計出資債3,710万円、それと次の51ページの4目1節道路橋梁債につきましては、備考欄1番の蛇園南地区流末排水整備事業債から8番の南堀之内遊正線整備事業債までのすべての事業債が合併特例債でございます。

2節の都市計画債につきましては、備考欄の3番及び4番の文化の杜公園整備事業債、次の5目消防債につきましては、備考欄1番の消防施設整備事業債、これは消防庫でございますが、これが合併特例債でございます。

次の6目教育債につきましては、1節小学校債の4事業債、それと2節の中学校債の2つの事業債、それから3節の保健体育債の1事業債のすべてが合併特例債でございます。

以上が合併特例債の対象になっておりまして、これを合計いたしますと合併特例債は16億5,670万円で、借入額全体の45.8%を占めております。

なお、これらの合併特例債につきましては、元利償還金の70%が交付税措置されるものでございます。

続いて、一番下になりますが、7目臨時財政対策債について申し上げます。収入済額は17億6,700万円で、前年度比5億8,600万円、49.6%の大幅な増となっております。借入額全体の48.8%を占めておりまして、この臨時財政対策債につきましては、地方交付税の代替財源として許可されるもので、元利償還金の100%が交付税措置されるものでございます。

以上、2点につきまして補足説明を申し上げます。

それでは、順次各課からご説明申し上げますので、よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 総務課長。

○総務課長（神原房雄） それでは、総務課の所管の説明をしたいと思います。

初めに、きょうお配りしました平成22年度人件費決算についてと一般会計の人件費決算に

ついてという2枚ぺらがあると思います。よろしいでしょうか。平成22年度人件費決算についてということで、右上に議案第1号、総務課と書いてあるぺら2枚でございます。

では、この決算の資料をご覧いただきたいと思います。

この資料につきましては、一般会計決算書の各款の2節から4節までの給料、職員手当等、共済費のそれぞれ集計したもので、22年度決算と21年度決算を比較しております。

なお、この表には常勤の特別職も含まれております。

初めに、給料でございますが、給料は22年度27億185万5,400円、21年度27億6,500万756円ということになりまして、比較差し引きについては6,314万5,356円の減というふうになりました。

次に、職員手当ですが、22年度13億4,798万7,260円、21年度13億5,194万687円、比較しまして、差し引き395万3,427円の減となりました。各手当の詳細につきましては、後ほど説明をいたします。

次に、表の下から3行目の共済費でございます。22年度8億2,926万7,235円、21年度8億857万6,245円、比較しまして差し引き2,069万990円の増となりました。

合計では22年度48億7,910万9,895円、21年度49億2,551万7,688円、比較しまして差し引きは4,640万7,793円の減と、22年については4,640万7,793円の減というふうになったものでございます。減額となった主な要因でございますが、職員数が前年度と比較しまして7名の減というふうになったこと、それから人事院勧告による期末・勤勉手当の支給月数の引き下げによる減によるものでございます。

続いて、職員手当の各手当の内容でございます。

初めに、扶養手当ですが、決算額は記載のとおりでございます。支給人数は347名、1か月当たりの1人の平均は約1万8,300円というふうになっています。減の要因でございますが、支給人数の減という部分でございます。

次、住居手当、支給人数は289名、1人1か月当たり約9,500円というふうになっております。これは増でございます。増の要因につきましては借家居住者数の増ということで、職員が借りているという借家が増えたという部分でございます。これは主には結婚という部分だと思います。

次に、通勤手当でございます。支給人数は601名、1人1か月当たり約5,600円というふうになっております。

次に、時間外手当です。支給人数は279名、1人1か月当たり約3万1,000円となっております。

ます。時間外勤務時間数については、1人1か月当たり約12時間というふうになっております。これについては約3,970万円の増というふうになっており、大幅な増というふうになっています。これについてはご存じのとおり今回の震災、3月11日の震災という部分がありまして、災害対応、それから今年は国体の開催もございました。そういうことの中で時間外の勤務時間数が増加したという部分でございます。

次に、管理職手当です。支給人数は188名、1人1か月当たり約3万2,900円というふうになっています。減となった理由は、管理職手当の定額化による経過措置率が100分の50から100分の25に減少したことによるところです。

次に、期末手当です。支給人数は716名、支給は6月と12月の年2回でありまして、1人1回当たりの平均は約44万3,300円というふうになっています。約4,880万円の減というふうになった理由でございますが、これについては人事院勧告による支給月数の減と給料総額が減になったという部分でございます。

次に、勤勉手当です。支給人数は705名、1人1回当たりの平均は約22万7,100円というふうになっております。期末手当、勤勉手当の支給人数が違いますのは、特別職のほか産休、育休等の関係でございます。約1,988万円の減となった理由につきましては、期末手当同様、人事院勧告による支給月数の減と給料総額の減によるものでございます。

次に、児童・子ども手当でございます。支給人数は175名、1人1か月当たり約1万8,800円というふうになっています。約2,282万円の増となった理由につきましては、支給対象拡大による支給人数の増によるものでございます。

次に、宿日直手当です。支給人数は24名、1人1か月当たり約4,200円というふうになっております。前年度と比較して、ほぼ横ばいでございます。

次の休日勤務手当、支給人数は71名、1人1か月当たり1万6,200円、ほとんどが消防職員でございまして、前年度と比較して、ほぼ横ばいということでございます。

次に、特殊勤務手当、支給人数は93名、1人1か月当たり約2,700円、これもほとんど消防職員でございまして、前年度と比較して、ほぼ横ばいというふうになっています。

最後に、夜間手当、支給人数は120名、1人1か月当たり約5,300円、186万円の増となった理由につきましては、これも災害対応に係るものでございます。

なお、2枚目の資料につきましては、病院会計を除いた全会計分の人件費決算資料ということですので、参考として添付してございます。

以上で人件費決算について終わらせていただきまして、続きまして、平成22年度旭市一般

会計歳入歳出決算に関する説明資料のほうをお願いしたいと思います。

一般会計歳入歳出決算に関する説明資料、これの23ページをお願いいたします。決算書と説明資料というふうが一番最初に配られたものです。

主な施策に関する事項ということで23ページから各課の事業が載っておりますので、この23ページ、総務課分になりますので、ちょっと説明したいと思います。

事業名につきましては、庁舎改修事業であります。決算額は2,381万5,000円、財源の内訳は国庫支出金が1,500万円、残りの881万5,000円については一般財源でございます。

事業内容については、中ほどの事業概要欄をご覧くださいなのですが、平成21年度の繰越事業というふうになってございます。そのうち海上支所サーバー室改修工事1,501万5,000円でありまして、国の地域活性化・きめ細かな臨時交付金を活用しての事業でございまして、全額国庫補助ということでございます。

次の消防署海上分署移設工事784万8,750円、それからその下の海上支所事務室間仕切り工事95万775円につきましては、市の単独事業でございます。

合計2,381万4,525円でございます。これらの工事の執行によりまして、支所の有効活用、それから職場環境の改善が図られたというところでございます。

繰り越しとなった理由でございますが、この事業につきましては、平成21年度の3月補正の予算計上でございます。工事執行に当たり、時間が短いということの中で繰越事業というふうになっております。

以上です。

○委員長（向後悦世） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） それでは、同じその資料に基づきまして、説明資料ですね、今、総務課長23ページやりました。25ページをお開きいただきたいと思います。

これは企画政策課が所管している事業でございます。4本ほど説明いたしたいと思います。では、初めに25ページです。

定住自立圏構想策定事業です。これはビジョン懇談会をやりまして、最終的に旭市定住自立圏共生ビジョンの策定を行ったというものであります。22年度の事業としましては、事業費はここに書いてございますように業務の委託料です。461万1,684円、業務の委託先は社団法人日本観光協会というところであります。

なお、共生ビジョンの策定の状況ですが、県内では旭市だけということになります。全国

では49団体あるということでございます。

続きまして、26ページ、次のページをお願いしたいと思います。

これは医療福祉・食・交流の郷づくり事業であります。実施事業としましては1、2、3と振ってございますけれども、1つ目として幽学の里で米作り交流事業ということで、幽学の里で米作り交流事業協議会という協議会をつくりまして、補助金の交付先は旭市都市農漁村交流協議会という団体に対しましての補助金でございます。

2つ目ですけれども、花交流事業です。これにつきましては旭市花卉生産者協議会というところの補助金であります。

3つ目といたしまして、江戸川区・旭市中学生スポーツ交流事業です。これは実行委員会をつくりまして、卓球、野球の競技を行った補助金でございます。

続いて、27ページをお願いいたします。

地域資源価値創造事業でございます。これにつきましては、事業内容、このほとんど業務委託料ということでございますけれども、具体的には風景写真ガイドブック、風景写真を使ったガイドブック5万部を作ったり、プロモーションビデオを作ったり、あとは先進地視察をやったり、講演会をやったりということで、地域資源を見出したというものであります。

続きまして、29ページです。

電算システム運用事業につきましては議案質疑でもありましたので、ここは省略させていただきます。飛んで32ページお願いいたします。

32ページにはコミュニティバス等運行事業というのが載っております。これは市内の各地区のコミュニティバスの運行事業であります。4地区を合計しますと、ここに実績がございます。10万4,385人というのが22年度の利用者の実績でございます。

経費の主なものですけれども、これにつきましては委託料、これは千葉交通株式会社ですけれども、そこに委託した委託料でございます。合わせますと5,548万7,608円ということであります。

それともう一つ、干潟地区で試行運行を行いました。備品購入費のところにコミュニティバス車両1台というのがあります。1,209万9,090円ということでございますけれども、これはその車両を購入したものでありまして、ほぼ100%の補助金を使つての購入でございました。

以上、簡単ですけれども、説明いたします。

○委員長（向後悦世） 市民生活課長。

○市民生活課長（斉藤 馨） それでは、2款総務費のうち市民生活課で所管している事業の主なものについて申し上げます。

この事業なんですけれども、3事業ございまして、22年度は企画課のほうで行っていた事業なんですけれども、23年6月の組織の再編に基づきまして、市民生活課に移った事業でございます。

それでは、決算に関する説明資料28ページをお願いいたします。姉妹都市・友好交流市村宿泊助成事業でございます。決算書につきましては78ページ、1項7目企画費、備考欄6番になります。

まず本事業でございますけれども、旭市山の家 の廃止に伴いまして、旭市の姉妹都市であります長野県茅野市、また友好交流市村であります沖縄県中城村に宿泊する市民や各種団体に対し、宿泊費用の一部を助成すべく平成22年度から実施した事業でございます。助成額につきましては事業概要にも書いてございますけれども、宿泊費用の2分の1以内、大人、中学生以上でございますけれども、1泊につき3,000円、子ども、小学生以上でございますね、2,250円、未就学児1,750円を上限として助成するものでございます。実績としましては、ここに書いてあるとおりなんですけれども、1会計年度におきまして、1人につき2泊までを助成するものでございます。

それでは、続いて決算に関する説明資料30ページをお願いいたします。

次に、コミュニティ育成事業でございます。本事業につきましては、各区が行っております地区集会施設の建設や修繕及び地区住民コミュニティ意識の醸成を図ることを目的といたしまして行う事業に対し、補助金を交付したものでございます。内訳でございますけれども、地区集会施設の修繕が5件で合計389万円、コミュニティ育成事業が1件で250万円でございます。

なお、コミュニティ育成事業、コミュニティ助成事業につきましては、宝くじ助成によるものでございます。

それでは、次に隣の31ページでございます。

市民まちづくり活動支援事業、この本事業につきましては、市民の自主的で創意あふれる事業を行う団体に対しまして補助金を交付するものでございます。事業概要の中段に記載がしてございますけれども、スタート支援に対する補助金とステップアップにつながる事業に対する補助金の2種類がございます。22年度におきましては、スタート支援についての申請はございませんでした。ステップアップ支援事業としまして、ここに記載のとおり4団体に

対しまして合計112万9,000円を交付しております。

なお、補助金の交付に当たりましては審査会を開催し、事業の提案がありました事業提案者からプレゼンテーションを行っていただき、その内容も含め質疑を経て選考したものでございます。

以上で市民生活課に関連します主な事業の補足を終わります。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

それでは、1款議会費と2款総務費について質疑に入ります。

質疑がありましたら一括でお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） どうもご苦労さまです。先ほど定住自立圏の説明がありました。ここにも内容もいろいろ書いてあります。3月11日の地震以来、いろいろ考えも恐らく変わってきたと思うんですけども、これからどのような事業に進んでいくのか、考えとビジョンがあったら、ひとつお願いいたします。

姉妹都市の件なんですけれども、この実績というのは141件というのは141人ということいいですかね。

（発言する人あり）

○委員（景山岩三郎） いいですか。じゃ回答ありませんから1つだけお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 景山委員さんから、これからの事業どんなものだという話がありました。これ委員さんにお配りしてあります共生ビジョンであります。この中に一つ一つ事業を入れてございます。写真つきで細かに説明してございます。

それでは、景山委員さんには主な内容ということでよろしいでしょうか。お答えをさせていただきたいと思います。これからはということでありましたけれども、現在もこれからもということでご理解をさせていただきたいと思います。定住自立圏の方針に基づきまして推進する具体的な取り組みの事業であります。

まず1つ目は、これ結構量がありますので、本当にかいつまんで申し上げます。

1つ目は、ICTを利用した地域連携システムの構築、これは中央病院に関連したものでございます。それから、1つには救急業務の高度化事業ということであります。これは、その消防と中央病院との連携の話ですね。それから、給食センター統合改築事業、これ今現在

進めております。それから、文化振興があったり、観光振興があったり、旭市のブランド創出の支援があったり、あと産業関係があったりという、このかなり多くの事業をこれから進めていこうということで、このビジョンの中に具体的に載せてありますので、回答にさせていただきます。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） 2点質問させていただきます。

この説明資料なんですけれども、6ページ、7ページあたりなんですけれども、財政指標、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率、この辺が示されているわけなんですけれども、将来負担比率が上昇しているということなんですけれども、そのほかの2指標につきましては徐々に下がっているということで、財政状況が改善されてきつつあるなというふうな感じは持っております。

しかしながら、今、特例期間中ということの中での国の支援を受けての中での財政運営でございますので、今まで以上に注意して運営していただきたいなというふうに思っているわけでございますが、その中で何点か質問させていただきますけれども、実質公債費比率が下がり続けているわけでありまして、これにつきまして、下がっている理由と今後の見通しですか、それから逆に将来負担比率は同じような、若干考え方が違うと思っておりますけれども、上昇している。これもやっぱり上がっている理由と見通しについてお伺いします。

それと、できれば数字ですか、数字が分かれば両方とも、この指標も標準財政規模ですか、これに対しての借金の返済とか将来の負担の額とかだろーと思っておりますので、その辺について数字が分かればお伺いをします。

それと、もう1点は9ページですけれども、5-4表ですか、市債現在高と交付税算入見込額、これ19年度から22年度まで表になっていますけれども、これを見ますと一般会計の市の実質負担額ですか、これが19年度から毎年10億円くらいずつ、実質負担額として10億円くらいずつ、96億円、85億円、75億円、66億円ということで、毎年10億円くらいずつ実質的な負担額として減っているわけなんですけれども、これはいいことだと思います。22年度の市の公債費は31億円支出したわけなんですけれども、旭市が実質負担額としては幾ら負担したのか、それをお伺いします。

それともう1点、先ほどの定住自立圏構想のお話がありましたけれども、この構想とこれから復興計画ですか、これが市のほうで示されてくると思いますが、これらの同じようなと

申しますか、定住自立圏の中にもうたわれているようなことが、また復興計画の中にも取り入れていくというようなことがあるんじゃないかと思えますけれども、その辺について、もし分かればお伺いします。

○委員長（向後悦世） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、6ページから7ページにかけてということで、まず実質公債費比率が下がっている理由、それから見通しと、それから将来負担比率が上昇しているけれども、この見通し、それから標準財政規模の数字ということで、まずお答え申し上げます。

実質公債費比率の状況でございますけれども、この下がっている理由なんです、確かに今、借り入れている起債、これが交付税算入されるものを非常に多く借り入れてきていると。それと分母に反映されるもの、これはそれぞれ標準財政規模と交付税に算入された公債費等が分母になります。分子のほうにも交付税に算入された公債費等が入るんですけれども、それは上下に入るとということで、それぞれマイナスになると。標準財政規模が今若干の伸びがあります。これは、まさしく普通交付税が増えていたりということがあります。そういった中で下がってきている。これは、そういう状況がまずあります。

それと、あと個別に地方債の元利償還等、これは分子が増える要因あるんですけれども、これについては、その影響額は比較的多くないと。実際には2億円程度ぐらいの影響額で来ておりますので、交付税算入される額の影響額のほうがより下げる要因のほうに働いているということです。実質単年度の計算を見ますと、実質公債費比率については22年度は14.51%ということで、相当下がっている状況にあるということです。

次の将来負担比率なんですけれども、これも分子分母それぞれあって、これは上がっているということなんですけれども、上がる一番大きな要因なんです、病院事業のほうに非常に大きな借り入れをしております。これがやはり影響額として出ております。21と22の分子に組み込まれる病院事業の数字なんですけれども、これが72億円ほど増えています。まさしくこれが一番大きな要因であろうかと思っております。その中でも交付税に算入されるものがあって、それはよく影響するんですけれども、それを差し引いても若干の上昇があるということです。

将来の見通しなんです、病院事業これで終わりましたので、この先、何年かこの程度の推移でいくのではないかという見通しはあるんですが、当然今116.5ということでございま

すので、その辺の数字というのはもう少し上がる見込みはありますけれども、それほど大幅には増えないだろうという見通しを立てております。

それと、標準財政規模の数字でございますが、22年度は179億4,931万9,000円というこの計算上の数字出てまいります。これは標準税収入額と、それから普通交付税額、それから臨時財政対策債の発行可能額、これを足し込んだものになります。ちなみに21年度は167億561万4,000円という金額でございました。

それから、9ページの一般会計の実質負担額、下がっているのかどうかということでございます。31億円ぐらい実際に払っていて、実質負担額はどんどん減ってきているよということで、22年度に31億円払いまして、ではそのうちのどれだけを一般財源で負担しているのかというのは、計算上出すのは非常に難しいものと思っております。

ただ、22年度の中で一般会計において、起債の残高に対して交付税の算入される割合というのは75.5%まで上がっておりますので、単純に31億円に75.5というのを掛けていただきますと、23億4,000万円ぐらいが何らかの形で措置されているだろうと。そうすると、実質8億円程度が持ち出しになっているのかなというそういう表面上の計算はできるのかなと思っております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 委員さんからは定住自立圏構想と、今骨子案というか、たたき台をつくって、いろいろな意見を聞いて策定しています復興計画との絡みはどうなんだということでありました。

復興計画につきましては、今たたき台をいろいろな意見を聞いて策定している段階で考えられる事業があります。一方、定住自立圏のほうは、もうこのビジョンにきちんとつけた事業名がありますので、主な事業をこんなところでダブっていますよ、こんなことをダブっていますよということを説明して回答に代えさせていただきたいと思えます。

なお、後期の基本計画があつて、復興計画がこの下にあります。定住自立圏があつて、復興計画が横並びの計画、そんな形をちょっと想像してもらって、当然ダブっている事業がありますので、幾つか申し上げたいと思えます。

例えば観光事業というものが定住自立圏、このビジョンの中に載っております。これも復興のために観光にということで、事業を復興計画にも入れていきます。具体的には来年1月に策定します復興計画という中で細かく載せていくわけですがけれども、今はあくまでもたた

き台として議論しているというものであります。例えばそのほかに道の駅の施設の設置事業だとか、あとは道路につきましても、飯岡海上連絡道路だとか、こういったことにも復興のためにということで具体的に載せてあるわけでありまして。

あとは例えば市民体育祭をやる、スポーツ交流なんかも復興のためにということで、復興計画に載せてございますし、このビジョンにも載せてある。そんな幾つかダブったところもありますということで回答に代えさせていただきたいと思っております。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 標準財政規模は、これ、いただきましたよね。今いただいて数字は分かっていたんですけども、これが分母になりまして、分子の部分の数字、例えば将来負担比率ですか、これはどういった、数字の内容ですよ、どういったものが幾らになっているのか、その辺をちょっとお伺いしたかったんですけども、その将来まだ若干増えるかなといったような中での、それはどういうのが増えるのかなというように、その辺お伺いします。

○委員長（向後悦世） 財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、将来負担比率のまず分子の数値、どういうものが組み込まれるかということをお願いしたいと思います。

まず、地方債の現在高というのが大きく入ってきます。22年度末272億幾らというのがあります。それと、公営企業債等繰入見込額、要するに公営企業等に将来的に繰り出して負担しなければいけない部分というのがあります。これがちなみに21年度が143億円ほどでございましたけれども、22年度は215億円ほどになるという、これはまさしく中央病院の増の分があると。それから、組合等の負担見込額というのもあります。ここでは衛生組合とか広域水道企業団の分があって、約1億5,800万ほど。それから、退職手当の負担の見込みというのがあります。退職する職員のための負担というのは将来の負担に当たりますよということで、この数値が41億4,800万円ほど。それから、設立法人の負担額等の負担見込みということで、例えば土地開発公社、ここでは食肉公社の分の約1割、ここで1億円ほど見られます。

それと、あとその中で充当可能な基金、今のところまでが足し込まれて、そこから今度、充当可能な基金という、市が持っているいわゆる貯金と基金ですね、これを差し引くことができます。これが36億9,400万円で、あと充当可能な特定歳入というのもあると、この中では例えば都市計画税であるとか貸付金等の償還分を見ることができる。これが約9億円差し引かれます。交付税の基準財政需要額に算入される見込みの数字、要するに交付税に入るお金も上から差し引くことができますよということになりまして、これは306億円ほ

ど差し引くことができ、分子の合計は183億円ほどになります。こういう計算がされまして、将来負担比率というのが出てまいります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑ありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） それでは、ご質問させていただきます。

説明資料の26ページ、27ページ。

まず26ページのほうから、医療福祉・食・交流の郷づくり事業ということでございます。その中で中段の四角に囲まれている中で、幽学の里で米作り交流事業、花を活用した交流事業、江戸川区・旭市中学生スポーツ交流事業、これはよく分かるんです。その中でこの「医療福祉」という名前がついている中で、全然その事業が見えてこないんですけれども、これはどのようにお考えでしょうか。

それと、この江戸川区と旭市のスポーツ交流事業ですが、何か江戸川区ばかり来て旭市があまり行かないと聞いているんですけれども、それは今の実態はどのようになっているか。

それと地域資源価値創造事業、これは実施事業、中段ですね。文化・観光資源発掘調査、旭市地域ブランドづくり委員会と書いてありますね。このメンバーは何人くらいなのか。それと、中央病院と地域の連携を模索する勉強会というけれども、どのようなことをやっているのか、これは地域医療連携とちょっと違うと判断してよろしいものでしょうかですね。

それと、また市民による旭ブランドを構築するための実践活動、具体的にどのようなものがあつたかということで、分かるだけでも結構ですので、何かこれ結構金額もかかっているようですので、よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） それでは、まず1点目、26ページですね。医療福祉・食・交流とは書いてあるものの、医療が全然出てきていないよということであります。たまたまこの名前が医療福祉、三郷構想の名前であるわけです。22年度の企画費の中で出たのがこれだけですよということですので、この中には医療は残念ながら出ておりません。この辺は何でと言われちゃいますと、たまたまこれは医療関係の中で、この予算の中ではなかったということで、その辺は割り切ってお理解をお願いしたいと思います。

それから、定住自立圏関係であります。

1つ目に、江戸川区との交流をやっているような……

(発言する人あり)

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 失礼しました。やっぱり26ページですね、江戸川区との交流をやっていますよということでありました。じゃあ、江戸川区から旭市に来ているけれども、旭市から江戸川区に行っているのかということのご質問と思います。残念ながら、旭市から江戸川区には行っていないということであります。これは旭市をPRしようということで江戸川区の子どもたちを呼んで卓球や野球の交流をやっているんですけども、将来にわたって旭市を知ってもらおうと、あのときはよかったなということを知ってもらおうということで呼んでいました。そういった事業であります。

今は、じゃどうなっているのか。確かに22年度は江戸川区を呼んで、こういう事業をやりました。やりましたけれども、これからはスポーツという面で江戸川区だけじゃなくて、もっと広くスポーツをとらえまして、違った交流をしていこうかなというふうな形で考え方を変えていきたいなと思っております。

あとは、今度は27ページ関係でしょうか。ブランドづくり委員会、何人という話がありました。14人です。これはいろいろな団体の方に入ってもらいまして、地域のブランドづくりを議論してもらったわけがございます。

それから、中央病院との地域の連携のこと、勉強会とかつてありますけれども、これはどうということというご質問でありました。中央病院と農業は旭市の資源です。中央病院って、確かに病院ですけども、もっと世間に出てもらいたいとか、地域に出てもらいたいとか、そういうことの意味がありまして、連携を図って勉強会をやったということ。中央病院って、すばらしい資源でもあるし、財産でもあるものであります。それを外にもっと出てもらうという意図でもって、中央病院の先生方とこの勉強会やったり、そういったことをやりましたということであります。

あと、金額が多いけど、具体的にどんなことをやったということをもうちよっと詳しく申し上げます。大きく分けて4つに分けました。

「暮らし」おこしとしまして、市民のための地域づくり講座を行いました。これは富士宮焼きそばというのがありましたんですけども、ああいった地元の方を講師に招いて、こんなことをこの地域でやったんだよということを講演してもらった。

それから、「観光」おこしとしまして、プロモーションビデオ、ホームページから立ち上げまして、動画の旭市を宣伝するためのビデオをつくって、ホームページからも動画の旭市PR版ビデオを見れるようにしました。

それから、人材育成としまして、先進地を視察して、今度は逆に宇都宮市のほうを先進地としまして、向こうの地元のギョウザだとか、そういったものがどんな形で発展しているんだというところを見てもらいました。

それから、伝えるメディアチャンネルの開発としまして、風景写真を毎年今やっています。今度第3回目になるんですけれども、それを使ったガイドブックを5万部作らせていただきました。あとはホームページをもっと旭市のための情報発信のためのという、そういったことをやろうとしました。こういったことが併せて業者に委託しましての金額であります。

以上です。

○委員長（向後悦世） 平野委員、よろしいですか。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 議案の審査は途中でありますが、ここで11時15分まで休憩いたします。

休憩 午前11時 4分

再開 午前11時15分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

ほかに質疑はありませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） この決算書の79ページなんですけど、これは議案質疑にも出ていたんですけど、電算業務ということで委託料も含めて3億3,000万円ということは、やはり極めて大きな金額なものですけど、例えばホームページにつきましても、骨格さえ作ったら、あとのリニューアルというのはすべてできるわけですよ、職員の方々で。それで、情報管理班の職員が5人いてやっているというようなお話でしたが、そうすると、この前、くどいお話ですけども、3月の放射能汚染のときに、そのことについて市長にもお願いしたところ、市長はすぐやれるという話だったのが、最終的には11品目、旭市があると。その情報がたれ流しになって、あのようなマスコミとか新聞とかテレビに報道されて旭市がたたかれたというのが現実の話なんですよ。

それで、その後ですね。例えばほかの市町村だと、必ず月の初めに人口データが出ていま

したよね。旭市の場合は今回は出ていますけど、それまではずっと半月遅れで出ていたわけですね。そういうことというのは職員が知っているわけであれば即リニューアルができるわけですが、できないというのは、その体制にあるのか。ないしは企画政策課長も言っておりましたけれども、これからはそういうことを24年度の予算にフィードバックして考えていくということがあるんですか、その3億3,000万円をもっと少なくするという考えは。

決算だから仕方ないんですけども、やはりもう今年のことは今年で終わっちゃうんですから、23年度も終わっちゃうんですから、それで議会でも例えば絶えず中継ができるようなサーバーの変更とか、そういうことを来年度予算でという話がありますけれども、そういうことについてリンクして、情報管理については総務課のほうでちゃんとやっていただけるのでしょうか。

それともう一つですね、先ほどの平野委員も質問していたんですけども、旭市の地域ブランドづくり委員会というものの内容の中間発表とか、そういうのがあれば、ぜひ議会にもお示し願いたいと思うんですけども、ほとんどの例えば中央病院の経営検討委員会というのは、ほとんど出ていましたよね。それから、行政改革の委員会についても、来ればちゃんと議事録が出ましたけれども、これについてはゼロなもので、多分、大分、注目している人があるので、そういうことはやっているのか。その2点について、ちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（向後悦世） 滑川委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） それでは、最初にホームページの関係であります。議案質疑でも全体としては約3億3,000万円かかっていますよという、その内容であります。その体制のことを今申されました。これについては研修をしたり、いろいろなことでやっているんですけども、体制、遅いというのは各課でもってリニューアルするのが遅いという意味なんでしょうけれども、その辺のところはさらに研修を積んで、そんなことのないようにいきたいということを申し上げたいと思います。現に研修を重ねているんですけども、でも各課でもって遅いと言われないようにしていきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

それから、24年度、これから先こんなにかかるようじゃ駄目だよと、もっと抑えるような考えはないのかということのご質問だと思います。それは、もちろん大切なことでありますので、抑えるような形でどんなことができるのかということは常に考えていきたいと思ひます。

ので、その辺もよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、ブランドづくり委員会のご質問がございました。ブランドづくり委員会で当然22年度やって事業の何か結果を出したんだろうと。何か冊子としてあれば、議会にも報告しろよということでもございました。それもごもっともでございます。事業報告書として当然まとめてございます。これだけの大金をかけてやったんですから、それはどういった形で出せるのかなということは、もう一度内部で詰めてみたいと思ひます。会議録とか、いろいろなものをまとめたのはいいんですけども、議員の皆さんにこんなことをやりましたよということと言えるような何かを出せばなということでも、もう一度中で詰めてみたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） ブランドづくりについては、ぜひお願ひしたいんですよ。例えば農水産課が担当していました道の駅の検討委員会のコンサルですか、あれも430万円くらい出しましたけれども、5月の終わりには全部に配付されているわけですよ、結論として。これ見ますと、相当金額が多いのに何も出ていないんじゃないか、何やっているんだというのが本当の話じゃないでしょうか。早急にお願ひしたいと思ひまして、質問終わります。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） それでは、1点、コミュニティバスについてお伺ひします。

今年のたしか4月、許認可、陸運局からいただいたと思うんですけども、今後見直しがあるということはあるんでしょうか。それと見直されるのであれば何年くらい後に見直しがあるんでしょうか。お願ひします。

○委員長（向後悦世） 宮澤委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） コミュニティバスの見直しの関係であります。

今、各地区で走っている距離と走っている時間と、それぞれ違います。市民の方からも、もう少しここまで走ってよというのあれば、乗っている方々からすればちょっと90分長過ぎるよなど、もう少し何とかならないのと、行きたいところにもう少し早目に行きたいんだよなど、いろいろな意見があります。

委員さんからは、じゃ見直しするんだったら、いつごろ考えているんだということですけども、取りあえず今の形で進めたいなど。要望はいっぱい来ています。来ていますけれど

も、今の形で進めたい。じゃ、2年後にどうするんだという具体的なまだ案はありませんけれども、取りあえず公共交通ということで、ころころ時間が違う、コースが違うでは困りますので取りあえずは進めたい。さっき言ったように時間が違う、距離が違うというのはちょっと見直していきたい。何年後にどうするということの回答はできませんけれども、その辺のところはご理解をお願いしたいと思います。

○委員長（向後悦世） 宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） 実は企画政策課のほうに説明を求めて行ったんですけども、全くそのとおりで、実は驚いたのは、地元の皆さん、そんなに大勢の方が要望しているわけじゃないですけども、ごく少数の方なんですけれども、確かに合併して、うちのほうにバスが来ないと、山の中だから取り残されちゃったと、そんな心配、現実問題ありまして、いろいろ説明したんですけども、企画政策課のほうに聞きに行ったら、実によく詳細に詳しく、こういったところをこういうふうに通って一筆で通れる範囲ということで、よくこれ計画されているんです。自分から説明するんですけども、片一方のほうは、もう何でかんで納得できないと。それだけでは納得できない。でも、それ通るに当たっては3か所くらいバス停抜かなければしょうがないんだという説明しても、それでも通してくれと。ですから、ちょっとそちらのほうは難しいんですけども、もう一方のほうはよく分かったと。うちのほうへ通すために、いろいろそっちからもこっちからもいろいろやってくれたけれども、通れないならあきらめるべと。あきらめたけれども、あきらめ切れないから今後見直しできないかと、そういう話が地区で、これは1名の方じゃなくて、その地区でありますので、ちょっと聞いてみようと思いました。分かりました。ありがとうございました。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） 85ページ、出会いの場創出事業とその下の婚活サポート事業、この大きな違いをひとつよろしく説明いただきたいと思います。

○委員長（向後悦世） 市民生活課長。

○市民生活課長（齊藤 馨） それでは、飯嶋委員さんのほうから出会いの場創出事業と婚活サポート事業ということで、その違いはということでございます。

目的としましては、2つの事業は、若者の定住化と後継者の結婚対策ということで、同じことを目的としている事業でございますけれども、なぜ2つの事業が違っているのかということ、婚活サポート事業につきましては、国のほうの安心こども基金、すなわち県のほうから

補助金がまいます。それをもって行う事業については別事業でここに載せなければならぬということで、事業が2つに分かれております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、1款議会費と2款総務費についての質疑を終わります。

それでは、1款議会費と2款総務費の担当課は退席してください。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前11時27分

再開 午前11時35分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、3款民生費と4款衛生費について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（渡辺輝明） それでは、社会福祉課に関連する事項につきまして、補足説明を申し上げます。

お手元の決算に関する説明資料のほうお開きいただきたいと思います。

33ページになります。

社会福祉施設運営事業関係につきまして、決算書では107、109ページでございます。

あさひ健康福祉センター、海上ふれあいサポートセンター及び飯岡福祉センターについて、指定管理者制度による施設の管理及び運営を委託したもので、それぞれの委託先や利用状況につきまして記載のとおりでございます。前年度と比較いたしますと、飯岡福祉センターの開館日数及び利用者数は減少しておりますが、この要因は東日本大震災により飯岡福祉センターが避難所に指定され、利用が制限されたものであります。

次に、34ページの地域生活支援事業でございます。決算書では113及び115ページでございます。

この事業は、障害者自立支援法に基づきまして、障害者の皆さんが地域において自立した日常生活が送れるように、さまざまな事業を実施したものでございます。前年度と比較いたしますと事業費が1,696万円余り増加しておりますが、この主な要因として委託料において相談支援事業に新たに療育支援コーディネーター配置モデル事業が実施されたことや日中一時支援事業における利用回数の増及び扶助費において日常生活用具給付等扶助費の件数の増によるものでございます。

続きまして、35ページの自立支援給付事業でございます。決算書では115ページでございます。

この事業は、障害者自立支援法に基づきまして、障害者の皆さんが介護や自立訓練等の各種サービスを利用された結果、それぞれのサービスごとの給付費をまとめたものでございます。サービスごとの給付費と利用人数につきましては、この表に記載したとおりでございます。特に給付費の多いサービスは、施設入所支援給付費や生活・療養介護給付費でございます。前年度と比較いたしますと、事業費が7,725万円余り増加しておりますが、この要因といたしましては、ほとんどのサービスにおいて利用人数が増加したものが原因でございます。

なお、3,540万円ほどの執行残が生じておりますが、積算時点では生活・療養介護等において、市内の事業所の形態が新しい体制に移行することを見込みまして予算計上いたしましたが、新体制に移行できなかったことにより、執行残になったものでございます。

続きまして、36ページの長寿祝金支給事業でございます。決算書では119ページでございます。

長寿祝金支給条例の一部改正に伴いまして、従前は80歳以上のすべての高齢者に祝金を支給しておりましたが、平成22年度より80歳、88歳、99歳の節目の年齢を迎えた方及び100歳以上の高齢者の方を対象とし、支給されたものでございます。支給額及び支給人数は、この表に記載したとおりでございます。

以上で社会福祉課に関連する事項について補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、高齢者福祉課のほうからご説明させていただきます。

同じく決算に関する説明資料をお開きください。37ページでございます。

地域包括支援センター運営事業に関してでございます。地域包括支援センター運営事業の上の財源内訳のところの特定財源のその他1,107万円は、これは要支援1及び2に指定され

た者の介護予防給付ケアプラン作成収入でありまして、作成件数は2,590件でございます。

次に、事業内容でございますが、旭市地域包括支援センターにおいて高齢者の健康保持及び生活の安定のために必要な相談・支援、介護支援専門員への支援、要支援1、2に該当する方の介護予防ケアマネジメント等の事業を行いました。

この委託料でございますが、ただいまご説明いたしました2,590件の作成件数のうちの一部を居宅介護支援事業者に委託した費用でございます。委託事業所数が18件、作成委託件数は初回、2回目合わせて1,298件でございます。

事業費につきましては、556万9,760円でございます。この先ほどご説明いたしました1,107万円につきましては、作成のケアプラン作成収入、このうちの収入額2,590件のうちの1,290件をうちのほうの地域包括支援センター以外の先ほどの18事業所に委託しているものでございます。

その他事務費等につきましては、これは公用車等の維持管理費として20万2,701円となっております。決算額につきましては577万2,461円になります。

一番最初にご説明いたしましたその他の1,107万円から決算額577万2,461円を引きますと一般財源が529万8,000円マイナスになりますが、この譲与分の財源につきましては、老人福祉関係職員給与費のほうへ充当されております。

次に、38ページをお開きください。

生きがい活動支援通所事業でございます。これは、介護認定非該当者を対象にデイサービスセンターで日常動作訓練や健康チェック、入浴、食事をし、要介護状態への進行を予防することを目的として実施している事業でございます。これは委託事業として実施いたしております。利用者の実人員につきましては36人で、平成22年度延べ利用回数が1,404回でございます。事業費につきましては478万7,200円で、対前年度と比較いたしますと179万3,820円、27.3%の減となっております。

次に、軽度生活支援訪問事業でございますが、こちらにつきましては同じく介護認定非該当者に対するホームヘルパー派遣による家事援助やひとり暮らし高齢者世帯及び高齢者世帯の訪問調査並びに見守りを実施しているものでございます。これも同じく委託事業として実施いたしております。旭市社会福祉協議会のほうに委託をいたしております。実利用者につきましては16人で、延べ利用回数が1,404回、事業費のほうが295万9,360円でございます。対前年と比較いたしますと177万5,500円、37.5%の減となっております。

次に、家族介護慰労金支給事業でございますが、これは要介護4または5と認定され、日常生活自立度がB2以上の区分に該当する65歳以上の者を同居して介護している介護者に対し、支給するものです。この事業ですが、平成21年度まで実施してきました介護老人福祉手当支給事業に代わりまして、平成22年度から開始した事業でございます。給付者は142人ございまして、そのうち要介護4の方が59人、要介護5が83人でございます。給付額は月額8,000円で、事業費は905万6,000円でございます。これは、10月と4月の年2回に分けて支給いたしております。

次に、外出支援サービス事業でございます。これは一般の交通機関を利用することが困難な方に、医療機関への受診や入退院の送迎を行うものでございまして、これも旭市社会福祉協議会のほうに委託して実施している事業でございまして、利用者実人員は42人で延べ利用回数は1,167回でございます。事業費のほうは363万4,450円で、そのうち委託料が303万4,200円、車両維持管理費が60万250円となっております。委託料は1回につき2,600円となっております、対前年度と比較いたしますと27万9,033円、7.1%の減でございます。

以上で高齢者福祉課のほうの説明は終わりにいたします。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、子育て支援課のほうからご説明申し上げます。

引き続きまして、説明資料の39ページをお開きください。決算書では129ページになります。

乳幼児紙おむつ給付事業は、子育て家庭の経済的負担を軽減するために、市の単独事業として平成22年度から開始した事業でございます。満2歳になるまでの乳幼児を対象に、月額3,000円分の紙おむつ購入券を給付するものです。22年度の利用実績としては、延べ1,588人に対して4万7,877枚の購入券を給付したもので、実利用枚数は3万5,921枚となりました。

続いて、40ページをお願いいたします。決算書では131ページになります。

子ども手当給付事業は、これも同じく平成22年度から開始した事業で、中学校終了までの子どもを対象に月額1万3,000円を支給するものです。22年度は延べ8万2,886人に対して、10億7,751万8,000円を支給いたしました。支給月としては、6月、10月、2月の年3回となっております。

次に、41ページをお願いいたします。

保育所運営費は、公立保育所14か所の運営及び維持管理に係る費用並びに私立保育所6か所及び管外保育所22か所の保育の実施に係る経費となっております、主なものとしては公

立保育所の臨時保育士の賃金、それから私立保育所への運営委託料並びに管外保育の委託料となっております。

続いて、42ページをお願いいたします。決算書では137ページになります。

保育所施設改修事業は、私立のおうめい保育園の改築事業に係る補助金でございます。補助金総額は1億1,533万9,000円で、県が事業費の2分の1で7,689万3,000円、市が4分の1で3,844万6,000円を交付したもので、事業主負担は残りの4分の1となっております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 健康管理課長。

○健康管理課長（高山重幸） それでは、健康管理課に關します項目につきまして決算に関する説明資料によりご説明をさせていただきます。

決算資料の43ページをお願いいたします。

健康増進事業関係についてご説明いたします。決算書は153ページ、155ページになります。

これは健康増進法に基づきまして特定健診を除く各事業を実施するもので、事業費は8,298万3,894円であります。

次に、事業概要ですが、主な事業につきまして、がん検診につきまして申し上げます。

胃がん検診では受診者4,599人、がんが発見された方6人。子宮がん検診では受診者3,135人、がんが発見された方3人。乳がん検診では受診者6,328人、がんが発見された方8人。肺がん検診では受診者8,965人、がんが発見された方5人。大腸がん検診では受診者4,755人、がんが発見された方6人。前立腺がん検診では受診者1,805人、がんが発見された方が12人。すべてのがん検診合わせますと、がんが発見された方は40人となっております。

健康相談・教育事業及び成人健康診査事業の実施によりまして、健康の保持と生活習慣病の予防、健康づくりの意識の高揚が図られ、またがん検診事業におきましては、がんの早期発見・早期治療に貢献できたものと考えております。

続きまして、説明資料の44ページをお願いいたします。

感染症予防対策事業についてご説明いたします。決算書では155ページになります。

これは、予防接種法に基づく各予防接種及びワクチン接種費用の助成を実施するもので、事業費は7,727万2,740円となっております。

次に、事業概要ですが、予防接種は現在、個別接種と集団接種での対応をしております。個別接種は市内各医療機関で麻疹・風疹混合ワクチン接種、第1期から第4期まで合わせまして2,239人、日本脳炎ワクチン、第1期、第2期合わせまして1,516人の方が接種をしてお

ります。集団接種は旭と海上保健センターで実施しておりまして、BCG、三種混合、ポリオ、二種混合を合わせまして合計96回、4,483人が接種しております。

次に、ワクチン接種費用助成でございますが、季節性インフルエンザは65歳以上の方が対象で1回1,000円の助成を行っており、9,612人の方が接種をしております。また、生活保護者並びに市民税非課税世帯を対象としまして713人の方が全額公費負担で接種しております。

平成23年1月から開始されました子宮頸がん等ワクチン接種費助成につきましては、小児用肺炎球菌ワクチン接種882人、ヒブワクチン接種761人、子宮頸がんワクチン接種442人となっております。

続きまして、説明資料の45ページをお願いいたします。

母子保健事業についてご説明いたします。

決算書では157ページ、159ページになります。事業費は1億5,512万2,131円であります。

次に、事業概要ですが、乳幼児健康診査事業につきましては乳児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査、2歳児歯科健康診査等、対象年齢を定めた集団で行う健診を飯岡保健センターで実施いたしました。各健康診査の受診は乳児健診96.1%、1歳6か月健診96.2%、3歳児健診91.7%、2歳児歯科健診89.0%となっており、いずれも県平均を超える状況であります。

なお、健診後のフォローや未受診者の把握等は地区ごとに担当保健師が対応し、指導を行っております。また、医療機関での実施につきましては、乳児健康診査1回、妊婦健康診査14回の助成をし、健診費用の軽減を図りました。

育児支援事業につきましては、各種学級・教室の開設や相談・指導を実施いたしました。妊娠時に実施する両親学級では、妊娠、出産、育児に関する知識の普及を図るとともに、妊娠初期から仲間づくりを勧めております。育児学級では発達面で心配のある子に対して、遊びを取り入れながら悩みを解決する親子遊び教室の開催、育児の仲間づくりや情報交換をすることで母親の孤立した閉じこもりをなくす子育て学級等を行っております。また、新生児訪問につきましては、健やかな成長と子育てを応援するため、乳児のいるすべての家庭を対象に訪問指導を行っています。

乳幼児医療助成事業につきましては、助成対象はゼロ歳児から小学校3年生の子どもまでで、1億80万8,057円の助成を行い、保護者の医療費負担の軽減を図りました。

以上であります。

○委員長（向後悦世） 議案の審査は途中でありますが、昼食のため午後1時10分まで休憩い

たします。

休憩 午前 11時57分

再開 午後 1時10分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

3款民生費と4款衛生費について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） それでは、環境課所管に関する補足説明を申し上げます。

説明資料に従ってご説明申し上げたいと思います。

46ページをお開きいただきたいと思います。

まず合併処理浄化槽設置促進事業でございますけれども、これは決算書で161ページでございます。

本事業は、個人住宅に設置する合併処理浄化槽の設置費の一部を補助し、水質の汚濁防止に寄与しようとするものでございまして、決算額は2,152万2,000円でございます。そのうち特定財源1,334万円ということで、国が516万、県が818万ということになっております。昨年度の設置基数でございますけれども、41基でございます。この横に1本線がございまして、上が設置事業補助金ということになっておりますけれども、ここへは国・県それぞれ3分の1ずつ補助金がございます。下の転換事業補助金、ここへは県が2分の1ということになっております。

以上でございます。

続きまして、47ページでございますけれども、環境美化推進事業、これにつきましては決算書の163ページでございます。

これは、きれいな旭をつくる会を通じまして、市内の環境の美化を図ろうとするものでございまして、428万7,000円の支出をしてございます。主な事業といたしましては、ごみゼロ運動だとか海岸清掃、そういったことをやっております。

続きまして、48ページでございます。住宅用太陽光発電システム設置助成事業でございま

すけれども、これは決算書で169ページでございます。

これにつきましては、地球温暖化の保全等を目的とし、省エネ型社会の実現並びに自然エネルギーの有効利用の促進を図るため、住宅用太陽光発電システムを設置する方に対し、その一部の補助をしようとするものでございまして、284万8,000円の支出でございます。昨年度は33基の設置者に対し、補助をいたしたところでございまして、本事業は平成22年度から24年度までの3か年の事業となっております、その最初の年ですね、22年度が最初の年でございます。

続きまして、49ページでございます。塵芥処理施設運営費でございまして、決算書でいきますと171ページでございます。

これは一般廃棄物を適正に収集・処理し、クリーンセンター及びグリーンパークの安全な運営及び維持管理をしようとするものでございまして、決算額4億5,422万6,000円でございます。そのうち特定財源として手数料が2億4,329万1,000円、再利用の販売としまして、諸収入でございますけれども、3,257万7,000円、合わせて2億7,586万8,000円ということでございます。主なものにつきましては、廃棄物の収集・処理等について2億1,244万2,282円、それと施設の維持管理費として2億3,619万3,933円ということでございます。

私のほうからは以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

それでは、3款民生費と4款衛生費について質疑に入ります。

質疑がありましたら一括でお願いいたします。

伊藤房代委員。

○委員（伊藤房代） 1点お伺いいたします。

民生費の決算書の123ページ、備考欄6でございます。緊急通報体制等整備事業750万4,595円の中の委託料でありますけれども、緊急通報システム事業委託料738万6,492円の市全体の利用者人数と地区別の人数についてお伺いいたします。

○委員長（向後悦世） 伊藤房代委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、伊藤委員の緊急通報装置の利用者、それと地区別の人数ということで、ご質問に対しお答えいたします。

平成22年度末現在におきまして、緊急通報装置の利用台数ですが、台数は……。ちょっとお待ちください。設置台数が平成23年3月末設置台数221台でございます。申し訳ござい

せん。ちょっと地区別には出ておりませんが、平成22年度末で221台の設置台数となっております。

○委員長（向後悦世） 伊藤委員。

○委員（伊藤房代） 今じゃなくても結構ですので、後ほどまた教えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 民生費の説明資料の34、35、生活支援事業と自立支援事業、毎年毎年随分上がっていますが、この委託料というのはどこへ委託出しているのか、ちょっと説明できれば、どことどこ言ってもらいたいんだけど、お願いいたします。

○委員長（向後悦世） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（渡辺輝明） サービスの内容といたしましうか、サービスのそれぞれによって委託先等が異なります。例えばグループホーム等の運営の助成ですと、グループホーム、今ケアホームですね、こちらのほうやっておりますNPOのあおぞらさん、それからロザリオの聖母会さん、はんどいんはんど東総さん、そして社会福祉法人の創成会さん、あとひだまりの家とか、あるいはふくろうというような形ですね。そういう形で今のケアホーム、それからグループホームですとロザリオの聖母会さんというような形で、グループホームですとそういう形があります。

それから、例えば児童デイサービスでいきますと、ロザリオさんがやっておりますふたば保育園あるいは匝瑳市にございますマザーズホーム、それから香取市にあるコスモスの花、それから短期入所等ですと佐原の聖家族園、マーガレットホーム等々で、結構これ数が多いものですから、後で委員さんのほう、もしあれでしたらそういう形になっておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） じゃ課長さん、その後でひとつお願いします。

それとね、この移動支援事業委託料56人、5,471時間というのは自己申告かい、これは、あっちの。

○委員長（向後悦世） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（渡辺輝明） 移動支援のほうの関係は、事前にご本人等が時間等、要望がございまして、それに伴って事業者さん等と一緒に、例えば通院とか買い物とか、そういう関係でございまして、ご本人の申請という形になろうかと思っております。

○委員長（向後悦世） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 民生費の39ページの紙おむつ事業、課長さん、このおむつ事業は始まって1年ちょっとかな。それで、若いお母さんらも大分いいですねというあれがすごく多いんですけれども、それで当然来年も継続するでしょうから、その中で担当課のほうとしていろいろな意見を聞いていると思うんですよね。どういう意見を聞いていますかね。ちょっと分かりましたら教えてください。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、紙おむつ給付事業については、たしか去年の地区懇談会でも出ておりましたけれども、紙おむつだけじゃなくて、ミルクとかほかのものにもというお話が若干聞こえてきてはおります。ただ、その制度そのものが今、景山委員おっしゃるように22年度から始まった事業ですので、もうちょっとしばらくこの紙おむつという形でやっていきたいなと思っています。

それで、ただご存じのように子育て新システムが平成25年度にはスタートするというところで、今、国のほうが着々と準備を進めておりますけれども、それになりますと、今、介護保険でやっているような市が特別会計をつくって、市がいろいろな保育サービスを提供するか子ども手当をやるとかという形に仕組みが変わってまいりますので、そのときには市町村の上乗せ事業として市が独自にいろいろな事業を取り込めるよということが今考えられておりますから、そのときがやっぱり制度を見直すというか、新たな制度をつくるのか分かりませんが、変え時としてはそこまでかなというふうには今思っております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） それでは、何点かご質問をさせていただきます。

決算書の113ページ、説明欄の20の扶助費ですね。福祉タクシー利用助成金ということで、これは何名くらいがご利用なさっているのか、その内容と人数等が分かれば、まず第1点お願いします。

それと、2番目として123ページ、説明欄の2番の生きがい活動支援通所事業478万7,000円、この委託料の13番ですね、そのやはり内容ですね。

それともう1点、125ページの説明欄の8番の外出支援サービス事業、委託料で360万円以上となっていますけれども、これはちょっと似ているような名前なんですけれども、全然別

個のものでしょうか。どういうものか、その違いと内容が分かればひとつ。その3点ですか、よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（渡辺輝明） 福祉タクシー利用助成事業でございますが、これは障害者の方、一般の方といいましようか、身体とか、そういう方と、それから透析の方ですね、それで枚数が異なります。一般の方の場合ですと月2枚で、その月数分、年間ですと例えば24枚という形になります。それから、透析の方は月8枚という形で掛ける12枚で96枚ですか、そういう形になりますけれども、それで利用されている方ですが、一般の方が472人、透析の方が99人という形で、571人の方がご利用されています。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） まず、すみません、平野委員のご質問のお答えの前に、先ほど伊藤委員さんからご質問ありました緊急通報装置の関係でお答えさせていただきます。

まず大変申し訳ありません。設置台数、私、221台と回答いたしました、申し訳ございません。これは前年度の数値でございます、198台に訂正をお願いいたします。申し訳ございません。それと、地区別の台数というご質問でございましたので、地区別に旭地区が133台、海上地区が25台、飯岡地区が30台、干潟地区が10台、合計198台でございます。

どうも失礼いたしました。

それでは、平野委員さんのご質問で、生きがい活動通所支援事業、これの内容ということでございますが、これはまず介護認定において自立と認定された65歳以上の高齢者に対しまして、週2回を限度としてデイサービスセンターで日常動作訓練や健康チェック、また入浴、食事を実施し、要介護状態への進行を予防する事業でございます。事業の内容につきましては、そのデイサービスの内容でございますが、生活指導、日常動作訓練、趣味、生きがい活動を行ったり、また健康チェック、入浴サービス等を行っている事業でございます。

それと、外出支援サービスのほうでございますが、この外出支援サービスのほうは、在宅の高齢者に、自分で外出できないというような状況のある方ですね、その在宅の高齢者等に対しまして外出支援サービスを実施することにより、高齢者等の社会参加を促進し、健康の増進及び福祉の増進を図ることを目的といたしております。

この内容でございますが、移送用車両を利用しなければ外出困難な方ですね、これがおおむね65歳以上の高齢者を対象といたしております。それと、あと身体障害者手帳に1級、2

級、または3級と記載されている下肢不自由なおおむね40歳以上の方を対象といたしております。この外出支援サービスの内容といたしましては、医療機関への受診または入退院のための送迎等を実施しているものでございます。これは社会福祉協議会のほうに委託をして実施いたしているものでございまして、利用回数、これは旭市の区域内で利用は週1回ということになっておりまして、これは費用の負担がございまして、片道300円、非課税世帯は100円というような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

島田委員。

○委員（島田和雄） まず説明資料の39ページですけれども、乳幼児紙おむつ給付事業ですけれども、この中で給付乳幼児数1,588人となっておりますけれども、これは対象者の数がどのくらいになるか分かりませんが、こういったようなカウントの仕方かどうか、ちょっとその辺お伺いします。

それと、45ページの母子保健事業関係なんですけれども、この中で乳幼児医療費助成事業ですが、これは小学校3年生までの医療費の補助というような事業なんですけれども、これちょうど1,000万円、1,008万円の事業費を使ったということで、ほぼ予算と一致するんですが、たまたま一緒になったのか、何か調整してあるのか、その辺ちょっとお伺いします。

もう1点は、48ページの住宅用太陽光発電システム設置助成事業ですが、この中で補助制度の実施期間としまして22年度から24年度の3年間となっておりますが、これはこういったようなことで3年間になったのか、その後できれば今こういう時代ですので、ずっとやっていただきたいと思っておりますけれども、この辺についてお伺いします。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、お尋ねの紙おむつの給付事業の1,588人のカウントの仕方ということでございましたけれども、制度が22年度スタートですので、実際には2歳になる前月まで支給するよということなんです。22年度は制度が始まった時点で2歳未満のお子さんを拾い出して通知を差し上げて申請をしていただいたと。その後は出生届に市民生活課の窓口をお見えになりますから、そのときに、うちのほうの子育て支援課のほうに回っていただいて、紙おむつの支給の申請を書いていただいて、うちのほうから交付決定を出すという形で対象者はカウントしております。ですから、これは当然出生の方は全員届けに来られますから、その方と、それから旭市へ転入された方、転入した方は転入届をやはり

市民生活課の窓口へ出されたときに、対象となるお子さんが転入世帯に含まれていれば子育て支援課のほう当然回っていただきますので、そのときに紙おむつの支給申請を書いていた
だいて、後日交付決定を通知するというような流れで把握しております。

以上です。

○委員長（向後悦世） 健康管理課長。

○健康管理課長（高山重幸） それでは、45ページ、乳幼児医療費助成事業1億80万8,057円
についてお答えいたします。

こちらの金額は、現物給付4万3,298件、償還給付256件の給付額でございます。たまたま
この金額になったもので、調整等はかけておりません。

○委員長（向後悦世） 環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） それでは、住宅用太陽光発電の事業の期間の延長についてのお尋ね
でございますけれども、要綱で平成25年3月31日をもって終わるといような附則がありま
して、3年間ということでございますけれども、当時、要綱をつくったのが平成21年だと思
いますけれども、一般財源だけで支援をしていくということで県内でも非常に珍しい制度で
すね。成田市さんなんかはあったようですけれども、そういったところと肩を並べるとい
うことになるんですかね。向こうは不交付団体、こちらは交付団体ということもあるんですけ
れども、そういったことを支援しようという気構えを持ってやるということですが、
期間は設けたほうがいいじゃないかということ、これは一般財源だけであるということであ
ったと思います。

ところが、ここへ来て千葉県等もそれに対して支援をしていこうということになっており
まして、本年度も補正から千葉県の支援も出ております。そういったことを考えると、県下、
他の市町村でも、大分そういった制度ができてくるということで、旭市が来年度をもって終
了しようということになるのかどうなのか、来年もう1年ありますので、そこで十分検討を
して結果を出していきたい、そんなふう考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 紙おむつですけれども、1,588名ということは、そうするとゼロ歳児、
1歳児でこれだけの人数が旭市にいるということですか。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） はい、そういうことでございます。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） じゃ、ちょっと私、勘違いしていたかもしれませんが、各学年でこれだけの子どもたちが今いるということですね、旭市にね。そんな中で要は対象者がほとんどといたしますか、全員の方がこの事業に申請されているのかどうかなんですが、その辺どうでしょうか。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） ここに具体的な数字は持っておりませんが、22年度中に対象になるよという通知を差し上げて、取りに来ていない方がほんの少しはいらっしゃいます。ということは、多分その制度が始まったときにもう2歳に近くなっていて、おむつがもう使わなくなった時期に来ていて取りに来ていない方も若干はいらっしゃるように、22年度分についてはちょっと思っていますけれども、基本的には100%とはいきませんが、それに近い形での数は交付はしております。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 全員の方がそういった形で連絡が届いていれば問題ないと思いますが、その辺ちょっと聞いたかったもので、ありがとうございました。

もう一つ、もう1点、太陽光のほうの話なんですけど、この事業ぜひ今後とも補助のほうも増額といたしますか、そういうことも考えていただきまして、ずっと継続していただきたいと思っております。これは要望事項としまして、よろしくお願ひします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 紙おむつ事業なんですけど、先ほど課長さんが答えられましたけど、もう2歳になったら紙おむついらないうところがたくさんあるんで、去年からもう既に出ているんですけども、紙おむつだけじゃなくて、先ほど言いました粉ミルクとか、その辺も対象にするのが本当の支援じゃないかと思うんですけど、来年度考えていただきたいと思ひます。紙おむつだけじゃないと。紙おむつ全体でも相当皆さんがやること自体が大変なように認知されているんで、担当課そのものが。その辺のことも含めて継続じゃないほうが、継続というより、今までの紙おむつだけじゃないほうが支援のためにはなると思ひます。もう一度ご検討お願ひしたいと思ひます。

それと、その手前の太陽光発電ですね。これありますけど、平均したら8.7キロくらいかな、1件当たりね。10万円までですけども、どのくらいの能力の、例えば2キロから4キ

ロとか5キロあると思うんで、その一番多い設備金額ですか、何キロワットが一番多いか。あと、これ来年から再生エネルギーということで42円の買い取りになって、これが必要かということ。

○委員長（向後悦世） 滑川委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 滑川委員さんおっしゃるように、ミルクという話も確かにありまして、実は全国的には紙おむつ券ではなくて、ベビー券とかという形で出している市町村が全国レベルでは確かにあります。そこについては、去年は制度スタートなので、ちょっと紙おむつの扱いの店舗とか、いろいろ調査しながら立ち上げた事業だったので、なかなかうまく、どういうふうにやっていくのかというのが1年間ではっきり見えませんでしたので、先ほど子育て新システムがスタートする25年に向けて新たな制度というふうに申し上げました。

それというのは、実は今、国が子育て新システムでワーキンググループが検討している中で、市町村の上乗せ事業として上乗せ給付としてやっていいよというのが大枠の中であるんですけど、継続している事業はその特会の中に取り込んじゃいけないよという今の流れですけれども、そんな流れがあります。

ですから、そういうふうに考えていきますと、子育て新システムが25年にスタートするときに合わせて、紙おむつだけではなくて、ほかのものをどうやれるかというのを検討して、方向性をきちっと決めて25年スタートがいいのではないかと。これは、まだあくまでも担当課の試みとして、その辺でどうだろうかという話をしている程度で、全く細かい検討をしていませんけれども、1つの流れとしてはそこら辺がやっぱりあるので、できればできるだけその特別会計の中に取り込んで事業運営していくことが好ましいと思いますので、やっぱりその25年に新たな事業をスタートさせるのか、紙おむつ給付事業を見直して、そういうふうなことにしていくのか。それは、やはり包括交付金の中で含まれてくるものをうまく活用して新たな事業、子育て支援事業としてとらえていければなと思っておりますので、滑川委員さんおっしゃるように24年度からと言われてしまいますと、そこがちょっと非常に難しい時期ではありますので、もう少ししばらく時間をいただきたいなと思います。

○委員長（向後悦世） 環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） それでは、太陽光発電のどの辺の出力のものが多いかということでございますけれども、昨年度33基あったんですけれども、その平均は3.4キロワットでござ

いまして、実際4キロワットだと最高の10万円の補助ということになりますけれども、なかなか10万円というのは、そんなにはないで、したがって、3キロから4キロの間の皆さんが多いのかなという考えは持っております。平均しますと3.4キロで8万6,000円の補助金という額でございます。

その後のご質問の例の買い取りの額があるということについて補助するのはどうかということでございますけれども、それはそれとして、補助をしてもいいのではないかという気はしております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 1件当たり8万6,300円くらいで3.45キロですか、それですけど、来年やるんでありましたら、どのくらいまでということも事前にもう、多分やはり太陽光というのは再生エネルギーということで必要だと思うので、もっと需要があると思うんですね。その辺のことを踏まえても、今年度はもうしょうがないですけども、24年度にはこれをフィードバックして行っていただきたいと思うんです。

それと、42円も買い取りになったら、もう10年以内で償却できるようになるわけですからね。その辺も含めて、去年度の決算だけじゃなくて、これを24年度にどのように展開していくかというのがやはり行政の役目だと思うので、その辺をしっかりと打ち出していただけだと思います。

○委員長（向後悦世） 環境課長。

○環境課長（浪川敏夫） まさにそのとおりだと思いますけれども、一方で現在の要綱が3年間の限定ということで、その補助の額についても、そのままでございますので、一方、前年度、今年と2か年はその額でやってきています。したがって、残りのもう1年をこれで増やしていくのかということについて、やっちは駄目ということはありませんので、検討はできますけれども、その公平性から見てどうなのかなというのが1点ございます。先ほど申し上げました24年度が終わって25年度へ仮に行くとすれば、その辺で十分検討をしていけばいいのかなという気はしております。

それと、もう1点ですけども……。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） じゃ滑川委員、よろしいですか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 確かに我々も、ただ22年度について調べっ放し、行政のほうも出しっ放しでじゃなくて、これを必ず24年度にフィードバックしていただきたいというのが私の意見なんですよ。こんなの終わったことを言っていたってしょうがないですから、はっきり言えば。これを24年度の予算にどう生かしていくかというのが本質的なこの決算委員会の使命だと思うので、そういうことで言っているんです。お願いします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。
（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、3款民生費と4款衛生費についての質疑を終わります。

それでは、3款民生費と4款衛生費の担当課は退席してください。

議案の審査は途中でありますが、ここで2時まで休憩いたします。

休憩 午後 1時48分

再開 午後 2時 0分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、5款労働費から8款土木費までについて、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） それでは、商工観光課で所管しております5款及び7款の主なものについて補足説明させていただきます。

資料のほうですが、決算書と決算に関する説明資料の2つを使って説明したいと思いますので、よろしく申し上げます。

初めに、決算書のほうの173ページから177ページ、これが労働費ということになります。

労働費は、働く婦人の家の管理及び労働諸費として職業相談室の運営支援が主なものであります。

初めに、175ページ、備考欄3番、働く婦人の家活動費について説明いたします。

働く婦人の家につきましては、女子労働者及び勤労者家庭の主婦の一般教養並びに職業・家庭生活技術の習得を目的に各種講座や講習会を開催しております。主要講座といたしまし

て講座数で33講座を開催し、回数で255回、延べ受講者数は3,841人となっておりまして、女性の知識の向上、社会参加の促進に寄与できたものと考えております。

次に、同じページの一番下、備考欄2番です。職業相談室運営支援事業。

職業相談室につきましては、旭市地域職業相談室として相談業務を行っております。相談員は平成22年7月1日から1人を増員し、現在6名の体制で行っております。相談室の利用状況につきましては、平成22年度は1万8,055人、月平均1,505人でありまして、就職者数は1,353人、対前年比で申し上げますと4.2%の増となっております。求職者の利便性が図られているというふうに考えております。

次に、7款の説明をいたします。

7款につきましては、決算書のほうは203ページから217ページとなっております。

初めに、決算に関する説明資料のほうですね。60ページお願いします。決算書のほうですが、203ページからの説明になります。

決算に関する説明資料の60ページでは、消費者保護対策事業について申し上げます。

事業内容としまして、複雑多様化する消費者問題に対応するため、消費生活相談を実施し、消費者トラブルの解決を図ったり、市民向けの各種講座や啓発用リーフレットの配布などを行うことにより、消費者問題に巻き込まれない消費者力をつけてもらえるよう努めています。22年度は相談窓口開設日を週2日から4日に増やし、相談窓口の充実を図りました。

なお、財源内訳の国県支出金170万2,000円は、千葉県消費者行政活性化基金事業費補助金です。

続きまして、決算に関する資料の次のページ、61ページをお開きください。決算書のほうにつきましては、207ページになります。

商業活性化推進事業について申し上げます。

商店街が活性化策として実施する事業等に対し補助するものでありまして、商店街等活性化事業でイベントへの補助として4団体、115万円、商店街振興事業への補助としてプレミアム付き共通商品券発行事業等5事業に1,308万円、次に施設整備事業で1団体、駐車場借り上げ事業3団体合わせて99万2,000円、隔年で実施しております商工業後継者海外研修補助金として59万4,000円、スターライトファンタジーの開催への補助金として140万円などがあります。

続きまして、次のページ、決算に関する説明資料の62ページをお願いします。決算書は209ページとなっております。

備考欄7番のふるさと雇用再生ふるさと産品ショップ運営事業について申し上げます。

県のふるさと雇用再生特別基金事業を活用して、雇用の再生、中心市街地の活性化及び市特産品等の情報発信を行うことを目的とし、旭市商工会へ業務委託したものであります。事業概要や結果等は説明資料のとおりですが、少しでも市内外への情報発信などに寄与したものと考えております。

次に、説明資料63ページ、決算書では209ページ以降になります。

ここでは観光振興対策事業について申し上げます。

観光客の誘致を図るため、観光資源のPRやイベントの開催などに際して観光協会等の関係団体に助成したものであり、袋公園桜まつり、あさひ砂の彫刻美術展、七夕市民まつり、いいおかYOU・遊フェスティバル、サマーフェスタ in 矢指ヶ浦の開催や参加により、観光客の誘致が図られたものであります。

次に、決算書の215ページをお願いします。それから、次のページにかけてですが、備考欄の7番です。これは決算書のほうで説明させていただきます。

長熊釣堀センター管理費ですが、施設の維持管理に係る経費であります。主なものについてですが、需用費の消耗品で水質管理のための消毒薬やヘラブナの購入費などがあります。

歳入ですが、恐れ入りますが、前のほうに戻っていただきまして、決算書の25ページ、12款1項4目商工使用料の備考欄1番で1,603万2,000円、入場者数は大人、子ども合わせて1万6,051人となりまして、対前年度の比較ですが、入場料で3,172万円、24.7%の増となったものであります。

以上で商工観光課に関する主な事業の補足説明を終わりにさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（加瀬恭史） それでは、6款農林水産業費のうち農業委員会で所管しております農地制度実施円滑化事業について補足説明いたします。

決算書の179ページ、1項1目農業委員会費、備考欄4番になります。また、決算に関する説明資料の50ページをお願いいたします。

農地制度実施円滑化事業115万2,024円は、平成21年の農地法改正により追加されました農地利用状況調査や利用関係の調整といった事務を適切に実施するための事業です。

具体的な事業内容ですが、説明資料の50ページ、表の2段目、賃金62万3,700円は、農地利用状況調査後の電算入力作業や事務の処理の補助を行うために臨時職員1名を6か月間雇用したものです。役務費13万2,000円は、農地所有者に行いましたアンケート調査の通信費

です。委託料31万5,000円は、法改正に伴いまして農家台帳に利用状況調査、報告、遊休農地の措置といったような項目を追加するなどのシステム改良を行ったものです。これらによりまして、法に基づく事務を適切かつ円滑に実施し、農地利用状況の把握ができたものです。

なお、この事業に対しましては、国から県を通じまして108万8,000円の補助がございました。

以上で農業委員会の主な事業の補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、6款の農林水産業費の中の農水産課関係の所管事業につきまして補足の説明をさせていただきます。

最初に、決算に関します説明資料のほうに基づきまして説明をさせていただきます。

説明資料のほうの最初に51ページのほうからお目通しいただきたいと思います。

51ページのところに水田農業構造改革推進事業ということで決算額3,445万5,000円、これにつきましては、ご承知のように水田の生産調整を推進するための事業でございます。平成22年につきましては転作率、旭市35.2%、約3分の1強、これの転作率を強いられたわけがありますけれども、これをスムーズに実施をする、そういうことで支援をさせていただいた事業でございます。

主なものとしましては、ここの中にありますように、中段に転作作物等推進事業、この中に飼料用米転作123.6ヘクタールございます。これは10アール当たり市単独で1万5,000円、えさ米に対して支援をさせていただいた。あるいは下の米粉用の転作、これは0.1ヘクタールでありますけれども、これも同じく1万5,000円支援をさせていただいた。そういうような中身でございます。これとは別に、直接国から、えさ米等につきましてはご承知のように8万円支援をしている、そういうことでございます。

そういうようなことで、去年は所得補償、昨年4月から本格実施されたわけですけれども、これには270経営体が参加をさせていただきまして、我々の予測ですと、なかなか国から数字が来ていないんですけれども、受け取り金額として12億円強の補助金が市の農業者のほうに行くと、そういうことで理解をしております。12億円というのは結構なお金で、統計ではお米の売上げが旭市全体で41億円、そんなことで、この所得保障の金額というのはいすごい金額になっているのかなということでございます。

続きまして、52ページのほうお目通しいただきたいと思います。これにつきましては、こだわり旭ブランド創出支援事業、旭市単独の農業者への支援事業でございます。旭市の農水

産物の知名度のアップを図ろう、そんなことで農業者、水産業者の方の取り組みに対して補助をする。上限が50万円、1件当たり2分の1という支援になっております。平成22年につきましては記載のとおり5つの経営体、JAちばみどりのメロン部会、同じくJAちばみどりの海上マッシュルーム組合、萬歳米栽培研究会、旭市観光いちご組合、JAちばみどりの飯岡園芸連絡協議会、それぞれいろいろな野菜のPR活動、そういうことで使っていただいたものでございます。

続きまして、53ページのほうに「園芸王国ちば」強化支援事業が出ております。これは、県の支援事業としまして県から補助金を受けまして、旭市の予算を経由して農業者へ支援をする、そういうものでございます。

(1)の生産力強化支援事業、これは認定農業者個人に対しまして4分の1の支援をさせていただいたものでございます。件数としましては18件、18人の農業者の方にこの事業を使っていたいただきました。

それと、(2)のほうにつきましては、生産力強化支援の共同利用機械化あるいは施設等の整備型ということで、これにつきましては1つの団体に対しまして支援をさせていただいたものでございます。ブレンドソーワという機械がありますけれども、これは肥料等をいろいろまぜまして、それを散布する、そういう機械ということで聞いております。これにつきましてはの支援は、先ほどの認定農業者が4分の1でありますけれども、これについては3分の1、33.3%、そういう支援の金額になっております。総体で昨年は9,662万1,000円、県の補助金の約4割近く活用させていただいているということで申し上げさせていただきたいと思っております。

続きまして、54ページのほうには農業活性化推進事業、これにつきましては「野菜を食べて元気になろう」、こういうようなテーマとしまして、市内の小学校を単位としまして、版画家の土屋先生等にもご協力いただいて、野菜を見ながら、ひとつ野菜の食育、それにつきまして支援をさせていただいたものでございます。

続きまして、55ページのほうは農水産物直売施設整備事業、これにつきましては昨年、道の駅等の設置の推進委員会等、農水産課のほうで事務局をしまして、1年にわたりまして、各委員のご協力等いただきまして、道の駅の推進の方向等につきまして、ひとつ分析等をさせていただいたものでございます。その際のいろいろな経費等、42万1,000円を活用させていただいたものでございます。コンサルの委託業務につきましては、若干震災等ありましたが、6月をもちまして100部納品をしていただきまして、関係機関のほうに既に配っ

てございます。

56ページをお開きいただきたいと思います。

地域バイオマス利活用推進事業でございます。これにつきましては、国の補助事業を活用しまして、旭市内のウズラの生産農家、ここでふんの発酵肥料の堆肥製造施設、これを整備させていただいたものでございます。補助率につきましては、国の補助が2分の1、県の補助が5%以内、そんなことで55%、これは消費税を除くということになっています。そんなことで消費税を除いた金額の55%の支援をさせていただいたものでございます。

57ページにつきましては、経営体育成基盤整備事業でございます。土地改良事業の推進というふうなことで、ここの中では富浦地区、それと飯岡西部地区、これにつきましては支援をさせていただいたものでございます。特に飯岡西部地区につきましては、平成22年度につきまして、いろいろな計画書の作成、あるいは測量、資料の作成、そういうもので支援をさせていただいたものでございます。現在、飯岡地区につきましては非農用地、学校用地としまして3万6,285平米、このいろいろな農振除外の手続き、そういうものに入っております。

58ページのほうをお開きいただきたいと思います。

これにつきましては、広域農業基盤緊急整備促進事業負担金ということで、記載のそれぞれ万力地区からこれは匝瑳市が主になりますけれども、豊和あるいは春海、椿海地区、そういうふうなことの土地改良事業に対します市の支援でございます。これにつきましては、国の補助が50%、県の補助が35、市の補助が10%、この10%の負担の内訳でございます。

さらに、59ページを広げていただきたいと思います。

59ページにつきましては、水産基盤整備事業でございます。これにつきましては、飯岡漁港の整備でございます。特に中段に書いてあります外西堤防の改良、これが長年やっておりましたけれども、本年度末で完成の予定でございます。来年度ここは今封鎖してございますけれども、市民の方が釣り、あるいは散策等できるようなそういう施設に生まれ変わる、そういう堤防の事業でございます。県が実施をしたものにつきまして、市のほうから11%負担をさせていただいた、そういうものでございます。

以上が説明の資料ですけれども、若干、決算書のほうにつきまして説明をさせていただきます。決算書のほうの、申し訳ありません、185ページのほうお目通しいただきたいと思います。

185ページのほうに農業振興費、その中に備考欄のところに制度資金の利子補給事業というものが入っております。大きいものとしましては3つありますけれども、農業経営基盤

強化資金利子補給補助金でございます。3,022万3,012円ということですね、これにつきましては、日本政策金融公庫、昔の農林漁業金融公庫から農業者の方が借りたものに対する利子補給の金額でございます。現在、旭市は聞くところによりますと22年3月末で借入金額が115億円を超えているということで、これは県内の約3割を占めている。そんなことで、いろいろな制度資金につきまして、今活用させていただいております。特に政策金融公庫につきましては、昨年からの農業改良資金も受け付けをするということで、これは無利子資金でございます。そういうことで農業者には周知をしております。

さらに、下のほうに備考欄の8というところに米の力再発見事業ということで144万9,000円、記載をしております。これにつきましては、お米以外の何か新しい食がないか、そんなことで米粉にしまして、いろいろ市内でお米の消費拡大をしていただいている。昨年、米粉にしたものにつきましては3,159キロ、そういう実績でございます。約156名の方が使っている、そういうことで、今、市の中で機械等も整備して米粉の利用促進を図っているところでございます。

ちょっと飛びまして、すみません、189ページのほうお目通しいただきたいと思っております。

189ページの備考欄のちょうど中段に14の農業経営基盤強化促進事業ということで、その中に19負担金補助及び交付金の中に一番上、経営体育成施設整備事業助成金2,617万6,000円記載がございます。これにつきましては、直接農林水産省の補助事業で認定農業者の方に個人に対して雇用を促進する、そういう目的をつくっていただいて、その実現の計画が間違いないというようなことで、農業者の方にトラクターとか、あるいは農業機械、コンバイン、あるいは施設園芸もそうです。そういう施設整備等につきまして30%国が支援をしていただいたものでございます。22年度、この事業で15名の方が3割の補助金で施設整備をしたということでご報告させていただきたいと思っております。

さらに、最後に申し訳ありません。ちょっと飛びまして、197ページのところに備考欄の7のところに仁玉川改修事業がございます。これにつきましては平成22年、昨年、新規採択になりまして、22年から26年にかけて、ご承知のように仁玉川、特にサンモールのところ、その河川が大分、鋼矢板が弱ってきている。そういうところで、これにつきましては農業の予算で県営事業として仁玉川の改修事業を図るものでございます。平成22年につきましては、測量あるいはいろいろな家屋の調査の補償関係、そういうものの調査等で本年から、23年から本格改修に入る、そういうところで今進んでおります。

以上で農水産課関係の所管の補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 建設課長。

○建設課長（北村豪輔） それでは、建設課ですけれども、8款の216ページ、土木費の補足説明をいたします。

補足説明は決算に関する説明資料で行います。

65ページをお開き願います。

これは国土調査事業です。場所は東総広域農道南側鎌数地区の現地調査と21年度に現地調査の終わった鎌数地区の図面作成でございます。

続いて、66ページをお開き願います。

66ページは道路の維持補修事業です。お配りしてあります工事等一覧表を見ていただきたいと思います。工事一覧表の1ページと2ページの工事番号1号から103号までに道路維持補修事業32本が記載してございます。老朽化した舗装や破損した道路の維持補修を行ったものです。工事番号54号から57号までは地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業で行った4本の工事になります。

次に、67ページお願いします。決算の資料です。

交通安全施設事業です。工事一覧表は3ページになります。工事番号2号から102号までの10本が工事になります。工事内容はカーブミラー、ガードレール、区画線などが主なものです。その下の工事番号51号から92号までが地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業で行った5本の工事になります。

次に、68ページお願いいたします。

道路の拡幅等を行う道路改良事業の工事です。工事一覧表は4ページになります。道路改良工事で5本の工事が記載してあります。工事番号は11号から85号になります。

その下に未舗装道路を舗装する道路舗装新設工事の43号から93号までの5本の工事が記載してございます。

次に、側溝工事などを行う道路排水整備工事22本です。工事番号は工事一覧表4ページの4号から次の5ページ、77号までになります。

85号と87号は、これは繰り越した工事でございます。

次に、69ページです。69ページは排水路整備事業です。これは西野地区の排水路整備事業、平成21年度からの継続事業です。工事一覧表の5ページに委託料と6ページに工事の78号、106号が記載してございます。

続きまして、70ページです。蛇園南地区流末排水整備事業です。工事一覧表は6ページに

なります。委託料3本と工事2本になります。工事番号70号が海からの工事で、80号が国道126号線の歩道部分の工事でございます。

続きまして、71ページです。旭中央病院アクセス道整備事業です。工事一覧表は7ページになります。9本が委託料になります。工事番号14号から工事一覧表8ページの113号までがやった工事でございます。南北線の道路改良工事と橋梁工事を行ったもので、今年度中に県道銚子旭線から国道126号までが開通する予定でございます。

次に、72ページです。飯岡海上連絡道三川蛇園線整備事業です。工事一覧表は8ページになります。委託料9本が記載してございます。22年度は用地買収が主な事業でございます。

次に、73ページです。これは1級2号干潟地区長部地先の歩道整備工事です。工事一覧表は同じく8ページの工事番号は22号、90号になります。平成17年度からの継続事業で、22年度に完成いたしました。

次に、74ページです。南堀之内バイパス整備事業です。工事一覧表は9ページになります。委託料4本が記載してございます。22年度はこれも用地買収が主なものです。

次に、75ページ、防衛省の補助事業です。工事一覧表は9ページ、88号と3号が工事になります。合併前の平成15年からの継続事業で、22年度で完成いたしました。一部、完成と言いましても、用地買収のできないところは残ってございますけれども、これは市のほうで継続して用地買収を行って完成形につけるということで、取りあえず防衛省の補助についてはもう終わりました。

最後になりますが、76ページ、橋梁維持補修事業です。老朽化した関戸橋の架け替え工事です。工事一覧表は同じく9ページになります。2本の委託料と工事です。工事は61号になります。

簡単ですが、以上で補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） それでは、都市整備課所管の事業につきまして、別冊の決算に関する説明資料に基づきましてご説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、説明資料の77ページをお願いいたします。決算書につきましては、239ページからになります。

初めに、街路整備事業（谷丁場遊正線）についてご説明いたします。

この事業は、国道からJRを横断して市役所通りまでの延長約700メートルの区間におき

まして、まちづくり交付金事業の基幹事業として、平成20年度から24年度までの5か年計画で事業を進めているものでございます。

上段の決算額でございますが、1億1,140万2,000円となりました。財源内訳は地方債に1億280万円、これは合併特例債であります。一般財源は860万2,000円となりました。

平成22年度の主なものは、表の上から2行目、工事請負費7,311万6,600円、これはJRを横断するための橋梁の下部工事でございます。次に、公有財産購入費は道路用地として面積で3,146.22平方メートル、これは16件分でございます。金額で3,063万6,866円を支出してございます。

次に、78ページであります。

ここでは旭駅前広場等整備事業となります。決算書は241ページになります。

上段の決算額は1,404万7,000円でありまして、その全額が一般財源となります。なお、括弧書きは繰越分となります。

上段の表は県事業への負担金として県の事業費7,181万210円に対しまして、協定書に基づくプール分として13.5%分を支出したものでございます。下段の表は21年度の繰越分でございます。旭駅環境整備事業負担金として旭駅のトイレの改築に伴う設計監理料をJRに支払ったものでございます。

なお、ここには記載がございませんが、干潟駅につきましても同様に負担金がございます。

続いて、79ページは袋公園整備事業でございます。決算書は247ページになります。

上段の決算額は1億1,015万7,000円となりました。財源内訳は、国庫補助金として2,700万円、これは都市公園整備事業統合補助金であります。それから、地方債は3,510万円、一般財源は4,805万7,000円となりました。なお、財源内訳の括弧の部分は繰越分となります。

事業概要でございますが、工事請負費として5件、主なものは公園整備工事、植栽工事、遊具設置工事等でございます。公有財産購入費は4,879万6,564円、内訳は地権者2件で面積は4,132.76平米でございます。1行飛びまして、補償金は1件で925万730円でございます。

なお、袋公園整備事業につきましては、平成22年度をもってすべての事業を完了いたしましたので、今後は適切な維持管理に努めてまいります。

次に、80ページでございますが、文化の杜公園整備事業でございます。決算書は247ページから249ページになります。

決算額は2億1,435万円、財源内訳は国庫補助金、これはまちづくり交付金でございますが、これに4,000万円、地方債、これは合併特例債でございますが、1億6,220万円、一般財

源は1,215万円となりました。なお、括弧書きは繰越分となります。

事業概要の主なものですが、上段の工事請負費で1億1,581万9,500円でありまして、主なものは基盤整備工事と舗装工事、設備工事となります。次の公有財産購入費4,298万1,460円は、面積で3,105.46平方メートルでありまして、すべて土地開発公社からの買い戻し分でございます。下段の表であります。21年度からの事故繰越し分でありまして、工事請負費で5,146万7,100円、内容は基盤整備工事と排水施設整備工事でございます。

この文化の杜公園整備事業であります。平成18年度から5か年計画で平成22年までを予定して事業を進めてまいりましたが、事業の進捗状況に遅れが生じたので、平成22年度の事業費を本年度に繰り越して執行しているものでございまして、平成23年度、本年度をもって、すべての事業を終了する予定でございます。

都市整備課からは以上でございます。よろしくお願いたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

それでは、5款労働費から8款土木費までについて質疑に入ります。

質疑がありましたら一括で願いたします。

伊藤委員。

○委員（伊藤房代） 土木費の決算書の227ページでございます。説明資料67ページであります。備考欄5の1,718万2,651円でありますけれども、それから備考欄6の交通安全施設維持補修事業（繰越明許）3,663万4,500円でございますけれども、これは説明資料のほうですね。交通安全施設整備工事として道路反射鏡が37基、照明灯が7基、ガードレール162メートル、ガードパイプ31メートル、転落防止柵153メートル、警戒標識12基、区画線3,088メートル、カラー舗装138平方メートル、また維持補修費として道路照明灯が22基、原材料費、カーブミラー22枚とありますけれども、この地区別の数が分かりましたらお願いしたいと思います。

それから、21年度の繰越明許分の3,663万4,500円の分の交通安全施設整備工事、これが転落防止柵が525メートル、大型案内標識が3基、ガードレール500メートル、区画線、外側線が2万749メートル、中央線2,642メートル、破線721メートル、路面表示71か所のやはり地区別の数を教えていただきたいと思っております。

○委員長（向後悦世） 建設課長。

○建設課長（北村豪輔） それでは、よろしいでしょうか。まず旭地区なんですけれども、ガードパイプが25メートル、全部言ったほうがよろしいですか。

（発言する人あり）

○建設課長（北村豪輔） それと、あとガードレールが29メートル、転落防止柵が153メートル、区画線が2,998メートル、標識が11基、カラー舗装が138平米ですね。カーブミラーが23基。海上地区、ガードパイプが6メートル、区画線が90メートル、反射鏡、カーブミラーが3基、道路照明灯が7基です。飯岡地区、ガードレール13メートル、標識1基、カーブミラー7基です。あと干潟地区、ガードレールが120メートル、ガードパイプが2か所、カーブミラーが4基です。

あと、きめ細かな臨時交付金の事業の関係ですけれども、旭地区がガードレールが200メートル、転落防止柵525メートル、区画線1万5,894メートル、大型案内標識が3基。海上地区、区画線が6,971メートル。あと飯岡地区、ガードレールが300メートル、区画線759メートル。干潟地区、区画線747メートルです。あれであれば詳細な書類は後で差し上げますが、よろしいでしょうか。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） 3点ほどご質問させていただきます。説明資料のほうの52ページ、こだわり旭ブランド創出支援事業ということで、先ほど課長さんのほうから中段の項目で内容のほうで5か所ですね。大体半分程度の補助金ということでございます。これは今出ている5つの皆さんは毎年このように要望なされているんですか。それとも、新しいところがもう大幅に変わる可能性があるんですか。その辺が1点お願いします。

それと、やはり説明資料の55ページ、農水産物直売施設整備事業ということで、私も、ここにいる滑川委員長も、道の駅の推進の委員会ということで参加させていただきまして、6月に報告書が発表なされまして、今回このように3月11日、大震災が起りまして、一部凍結というか、将来は市長もやりたいということを言っていますので、この間の答弁の中で、今度、設置検討委員会みたいなものを立ち上げたいということも言っていましたものですから、できればこちらの方面も、早目にひとつ準備だけは怠らないほうがいいじゃないかと思っておりますけれども、その辺の答弁のほうをお願いします。

それともう1点、説明資料の62ページ、ふるさと雇用再生ふるさと産品ショップ運営事業、これは一応来年3月までですか、やる予定ですよ。それはやる予定で大いに結構です。しかし、その先の延長は、あの場所ではこの数値を見ても、そんなに喜ばれる数値じゃないものですから、違う場所を考えてやったなら、かなりまた感触としては私は悪くないなと思っ

ていますけれども、その辺のお考え等が分かればお願いしたいと思います。

以上3点よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、委員ご質問の説明資料の52ページのほう、こだわり旭ブランド創出支援事業でございます。これ毎年かということですが、この記載の中の萬歳米栽培研究会あるいはその下の旭市観光いちご組合、これはここ数年、実は支援をしております。あと、ちばみどりのメロン部会あるいはちばみどりのマッシュルーム、ちばみどりの園芸連、ここにつきましては毎年レシピの内容等も変わってきている、あるいは初めての取り組み等でございます。農水産課の考えとしましては、なるべく新しいものに対しての支援、そういうことで推進をしてまいりたい、そういうふうに考えております。

それと、55ページのほうに農水産物直売施設整備事業、ここで旭市の道の駅等設置基本調査、こういうものをやらせていただいたわけでありまして。本年6月には完成しておりますけれども、委員のほうからありました設置の推進委員会、うちのほう6月に企画政策課のほうに今度所管が移りました。ここの中で今、議論をしていただいている、そういうことでご理解いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） 説明資料の62ページということで、ふるさと産品ショップのおあがんな旭のほうの24年度以降の考え方はというようなご質問です。これにつきましては、ご案内のとおり、この22年度の決算がこのような実績をお示しさせていただきました。この財源内訳見ていただければお分かりですが、皆さんご覧のとおり100%基金事業ということで、お金を県からいただいている内容でございます。

先ほども申し上げましたとおり、何もやらないよりは少しでも情報発信、雇用のほうの貢献、これらに寄与できたんじゃないかなというふうに思っていますが、これが例えば24年度以降、財源の話も、もちろんついていきます。それから、発信していくという事業については、委員さんのご指摘のとおり非常にいいことだと思っております。それらを例えば先ほど農水産課のほうで出ましたブランドのほうの話ですとか、それから道の駅のほうの話ですとか、その辺の発信する側としてどんな手段があるのか、財源がどういう財源があるのか等々も含めて検討していきたいなというふうに考えていますので、ただ、この今と同じような形態では基金事業が終了したときに、すべて一般財源でということは、かなり難しいかなと思っておりますし、ただ今まで2年間というか1年半ぐらいですけれども、経験の中で場所等につき

ましては非常にご指摘いただきました。幾つかイベント等に参加したり、飯岡灯台の展望館のところで土日だけお店を出したりということで、そこそこ実績を上げてはいるんですが、費用の問題やら何やらということが一番先に来るのかなというふうに思っています。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 平野委員。

○委員（平野忠作） 今、課長さんのほうからご説明がございまして、じゃ一応今のままで、今後の24年度ですか、あれはまだあまりよく分からないということかな、この緊急雇用の、この1,800万円、県のほうから100%。私はこんなにありがたいことは、もうないと思っているんですよね。しかしながら、そういう中で、やはりこれも、それはもう一つは緊急雇用でそれだけいただける。これはありがたいことですけれども、もう一つ大事なことは、やっぱり市民の皆さん方に利用されて愛されるということも、もう一つは考える要素があるんじゃないかと思しますので、これはちょっとまだ先のことか分かりませんが、この予算獲得にはまず動いてください。それで、次はもうちょっとお年寄りとか子どもに優しい、この場所を選んでいただければ、私はこれは当たる事業だと思いますので、ぜひとも頑張ってください。

以上です。答弁は要りません。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 平野委員さんと同じなんですけど、我々、昨年3月にこの予算が出たときに、もう既にあそこを借り上げる、ある場所を借り上げる。商工会に丸投げになっていたんですよ。そんなふざけた話がないから、絶対それは24年度に何かやるんだったら、その前に事前に報告してほしいんですよ。商工会自体がこれをやることについて相当なクレームがあったわけですから。去年4月からなったから大変でしょうけれども、ぜひそういうことで、来てもいいですけども、あそこ、今、平野委員が言ったように、あそこでやるとか、そういうことには白紙で、ぜひお願いしますよ。何も我々が知らないうちにあそこにできちゃったんですから。

それともう一つ、一番最後の何ページだっけ、これ。文化の杜公園の整備事業なんですけど、23年度で終わりますと言っていましたけど、液状化のトイレのちょっと報告をお願いしたいと思います。

それと、あとその後の23年で終わりにになったら、雑草を増やすのは、そのことについても報告をお願いします。

○委員長（向後悦世） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） ふるさと産品ショップに関しましては、平野委員さんにお答えさせていただきましたけれども、まだ白紙でございます。財源等、事業内容としては、うまく使えば本当にいい事業だなというふうに思っていますので、いろいろ財源等見つけられれば、それから滑川委員さんご指摘のとおり、いろいろな委託するということを前提に考えた場合に、事前にいろいろ相談をさせていただきながら進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） では、文化の杜公園についてのご質疑にお答えさせていただきます。

まず不同沈下、液状化といいますか、トイレの液状化についてご報告いたします。この件につきましては、6月の常任委員会の際にも詳しくはご報告させていただきましたが、ちょっと手元に詳しい資料がすべてないものですから、ちょっと頭の中で記憶の中でご説明いたします。

震災後、請負業者のほうから不同沈下、いわゆる片側に傾く沈下ということで報告書の提出があった。それについて検証していく中で、またさらに不同沈下が激しくなってきたということがあって、いろいろ原因を究明する中で、ボーリング調査をしましたし、また専門家のご意見を伺ってきたという中で、どうしてもこれを液状化を解消するためには、1,000万円以上の経費が必要になるという結論が出まして、費用対効果というのはこの場合使っていないかどうか分かりませんが、やはりこれを液状化を直すのと、解体して新たな場所に移して再築するという2つの方法について検討したんですけれども、費用がやはり安く済む、半分程度で済むということで一応解体することに決定して、現在場所を若干移動して再築をしていると、そういう状況であります。

それから、23年度で先ほど事業が完了すると申しまして、その際に委員のほうから草の問題の話ございました。私も本当に非常に懸念しておりまして、ただ工事がまだ全部終わっていない状況の中で、メンテナンスについて部分的には発注をしておりますけれども、まだ供用開始がすべてできていない中で、維持管理を今後どういった形でもっていくかというのは非常に課題だというふうに思っております。今後も完成をいつできるかというのがありますが、年内にはすべての工事を完了させて、ある程度の形をとって供用開始したい。そ

の際には当然ながら草の問題というのはある程度クリアしていかなければいけないだろう、このように思っています。

以上です。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 特に市民の方、大変心配しているんですね。これからあれを全部芝にするんだったら、お金も相当かかるし、管理もかかるけれども、行政はどうするんだろうか。笑っている場合じゃないんですけれどもね。本当の話、あれどうするかというのもトータルしても、20億円近くかかっているわけでしょう。それに幾らかけていけばきれいに保てるか、後々メンテナンスにも相当、一番大きい公園になると思うんで、大変なもので、その辺も先ほども違う款のところで言ったんですけれども、ちゃんとよく精査して、やはり今ヒアリングの段階と思うので、都市整備課でしっかりとした対策を立てていただきたいと思うので質問したわけです。よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） ご意見いただきまして、本当にありがとうございます。これから24年度の予算を立てていく中で、とりわけ先ほども袋公園が終わりになったということと、それから文化が終わって、公園整備につきまして一応これでめどがついたという中で、24年度からは本当にしっかりと維持管理の方針を立てていかなければいけない。ただ、すべてが業者委託で済まされる問題ではなくて、やはり経費も抑えていく必要があるだろうと。ただし、やはり適切な管理をしていくためには、ある程度の人を入れなければいけない。

今、私のほうで臨時の作業員を2人雇っています。まだ芝刈り機そのものも実際には自前で持っていないんですね。そういったものも含めて効率的に経費をなるべく抑える中で、適切に維持管理ができるような方法をこれから予算に反映させていきまして、予算のほうを提案させていただきたいと、このように思っておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、5款労働費から8款土木費までの質疑を終わります。

それでは、5款労働費から8款土木費までの担当課は退席してください。

議案の審査は途中でありますが、ここで3時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 2時54分

再開 午後 3時10分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、9款消防費から14款予備費までについて、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

総務課長。

○総務課長（神原房雄） それでは、総務課所管の説明をしたいと思います。

決算に関する説明資料の86ページをお開き願いたいと思います。

事業名は非常通信設備整備事業でございます。決算額につきましては1,122万5,000円でございます。財源の内訳につきましては地方債1,010万円、残りの112万5,000円につきましては一般財源でございます。

事業内容でございますが、中ほどの事業概要をご覧くださいと思います。防災行政無線設計委託料であります。これは移動系防災行政無線の実設計業務委託料でございます。合併以前1市3町で、それぞれアナログの移動系無線を所有しておりましたが、21年度で同報系の無線のデジタル化が終了したことに伴いまして、今度は移動系の無線整備を行うための実設計業務の委託料でございます。この設計業務を行いまして、移動系無線を導入することによりまして、災害等非常時における一般電話が利用できない場合の情報収集及び各機関との連携体制も確保されるため、これら非常用通信設備の整備を行うものでございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 消防長。

○消防長（佐藤清和） それでは、9款消防費の主な事業について補足説明を申し上げます。

なお、主な事業のうち常備消防の消防車両整備事業と消防庫整備事業につきましては、本会議におきまして財政課長より説明してございますので、その他の事業について補足説明を申し上げます。

初めに、決算書257ページ、説明資料81ページをお開きください。

備考欄3の消防施設整備事業のうち防火水槽設置工事につきましては、耐震性貯水槽40トン型、これを古城小学校と鶴巻小学校に設置したものでございます。

次に、決算書263ページ、説明資料85ページをお願いします。

備考欄7の消防団車両整備事業でございます。車両購入費といたしまして、B2級小型ポンプ付積載車2台を更新整備したものでございます。

以上で9款消防費に関します補足説明を終わります。

○委員長（向後悦世） 庶務課長。

○庶務課長（加瀬寿一） それでは、庶務課の主な事業について説明をいたします。

これより10款教育費になります。

なお、説明は決算に関する説明資料に基づいて行いますので、よろしくをお願いします。

まず、資料の89ページをお願いいたします。

小学校施設改修事業です。これは小学校の施設・設備の修繕、それと改修工事を行ったものでありまして、決算額は3,170万2,008円となりました。

次に、90ページです。中央小学校改築事業です。決算額は平成21年度繰越分を含めまして3億5,495万9,740円です。老朽化による耐震性の低い北校舎を改築いたしました。23年3月末に完成、ただいま1年生から3年生まで低学年の校舎として利用しております。

次に、91ページです。矢指小学校改築事業です。平成21年度から校舎の改築工事を進めたものでございます。平成21年度繰越明許費を含め4億2,383万4,000円の決算額となりました。この事業は平成23年度に繰り越ししまして、本校舎9月末の完成に向けて、ただいま工事が進められております。

次は飛びまして、95ページになります。中学校施設改修事業でございます。小学校の施設と同じように、それぞれの施設・設備の修繕や改修工事を実施したもので、5,299万711円の決算額でございます。

次に、96ページ、飯岡中学校改築事業です。決算額は136万2,900円で、改築に向けての基本設計業務、耐力度調査業務に要した経費でございます。

次に、97ページ、第一中学校改築事業です。屋内運動場の改築をいたしましたものでございます。平成21年度繰越明許分を含め決算額は3億5,817万2,500円となりました。この事業は平成23年度に繰り越し、本年6月30日に完成、事業を終了いたしました。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、学校教育課の主な事業の補足説明を申し上げます。

説明資料のほう87ページをご覧いただきたいと思っております。事業名、学校いきいきプラン事

業でございます。

本事業につきましては、市内の各小・中学校が主体的に特色ある教育活動を展開する中で、子どもたちに生きる力をはぐくむための事業でございます。

事業内容といたしましては、中央小学校、二中につきましては大規模校ということで80万円ずつ、それ以外の18校につきましては50万円補助いたしまして、合計額といたしましては1,060万となりました。

続きまして、説明資料88ページをご覧くださいと思います。沖縄交流事業でございます。

本事業は、旭市と沖縄県中城村との児童が相互に訪問して、さまざまな交流を通して郷土の文化や歴史あるいは自然等を学び、相互理解と友好親善を図るとともに、子どもたちの人間性や社会性を培い、21世紀を担う広い視野の人材を育成することを目的としております。

事業内容といたしましては、平成22年7月21日から23日までの3日間、旭市の児童、中和小学校、萬歳小学校、古城小学校の3校、すべて5年生、中和が6名、萬歳6名、古城8名合計20名でございます。5年生の子どもたちが3日間沖縄を訪問いたしました。そして、平成23年2月16日と17日の2日間、中城村の児童が旭市を訪れたものであり、旅費に16万2,400円、沖縄交流事業補助金に163万3,497円の事業費でございます。この事業につきましては、締結している沖縄県中城村とのより一層の親善交流を図ることができて、また交流を通して子どもたちも豊かな人間性を養うことができた、こう考えております。

続きまして、説明資料の92ページでございます。事業名、小学校教諭補助員配置事業でございます。

全国的な調査統計によりますと、自閉症あるいはそのADHD、多動障害と言われておりますが、こういったお子さん、あるいはLD、学習障害というふうに言われておりますが、こういった発達障害を持つ児童・生徒が全国的には約6%いると、このように言われております。保護者のニーズを含めまして、今まさにこういった個別の支援教育というものの重要性が叫ばれております。この事業でございますけれども、小学校の担任教諭をサポートいたしまして、子どもたち一人ひとり個に応じたきめ細かな指導、特別に支援が必要な児童への指導を充実させるために補助教員の配置をしているものでございます。

事業内容といたしましては、小学校教諭の補助員として1学級の児童数が多いクラス、あるいは学級運営が困難なクラス、こういったところに延べ8人を配置いたしまして、週5日20時間、または週5日30時間勤務しているものであり、労災保険料に16万3,752円、賃金に

821万4,850円を支出しているものでございます。この効果でございますけれども、学習に集中できない児童への個別指導、あるいは基本的学習習慣の定着が図られているところでございます。

また、平成23年度より小学校5、6年生での英語活動、これ正式には外国語活動と申しておりますが、実施されることに備えまして、英語教諭の補助員を国の緊急雇用創出事業にて配置しております。内容につきましては、英語活動の充実と国際理解教育を推進するために配置したものであります。週5日20時間勤務しているものであり、歳入につきましては国庫補助金として91万円、歳出は労災保険で2万円、賃金で89万300円を支出しているものでございます。

続きまして、右のページ、93ページでございます。緊急雇用創出小学校基礎学力支援員配置事業でございます。

本事業につきましては、学習支援が必要な児童に個別に寄り添って個への指導の充実を図って学習支援を積極的に行っていくと、そして基礎学力の定着を図っていくものでございます。歳入につきましては、国庫補助金として396万円、歳出は労災保険に7万6,000円、賃金に388万3,900円を支出しているものでございます。

続きまして、次のページ、94ページをご覧いただきたいと思います。放課後児童健全育成事業、いわゆる学童クラブでございます。

本事業でございますけれども、小学校の低学年を中心に学校が終わった後、下校後、保護者または保護者に代わる者がいない児童に対しまして子育て支援を行う、あるいは生活指導を行う。児童の健全育成及び事故防止を図るという目的で行われております。

事業内容といたしましては、15校、小学校15校、17クラブの児童クラブに指導員53人を配置いたしました。歳出につきましては、雇用保険等に110万68円、賃金に6,449万9,285円、その他事業費等に131万2,872円の事業でございます。歳入につきましては、県の補助金が2,310万円、受託料が2,890万7,000円をいただいているところでございます。

続きまして、説明資料の98ページをご覧いただきたいと思います。中学校教諭補助員配置事業でございます。

本事業につきましては、先ほど申し上げました小学校と同様に、中学校の担任教諭をサポートして個に応じたきめ細かな指導を図るために、少人数指導あるいはティームティーチングを展開するための補助教員を配置するものであります。

事業内容といたしましては、中学校教員の補助員といたしまして、少人数指導及びティー

ムティーチングを展開するための補助教員を2人配置いたしまして、週5日30時間勤務しているものであり、労災保険料に4万3,899円、賃金に317万4,200円の事業費でございます。この事業によりまして、きめ細かな指導が展開できて、また個別に支援を必要とする生徒への支援が行うことができたところでございます。

続きまして、右側の99ページでございます。同様に緊急雇用創出中学校基礎学力支援員配置事業でございます。

本事業につきましては、学習支援が必要な生徒について、やはり寄り添って個別指導の充実を図っていくと、そして学習支援を積極的に行う、基礎学力の定着を図っていくというものでございます。歳入につきましては、国庫補助金として161万6,000円。歳出は労災保険に2万1,870円、賃金に159万4,100万円を支出しております。

続きまして、100ページでございます。課外活動支援事業でございます。

本事業でございますけれども、専門的な指導力を備えた指導者を必要とする中学校に対しまして、教員の指導に協力する民間の課外活動の支援員を派遣することで市内中学校の課外活動、いわゆる部活動の充実、振興及び活性化を図ることを目的としている事業でございます。

事業内容といたしましては、専門的な指導者を必要とする中学校の課外活動支援のために、民間の指導者を市内中学校に15人、延べ371回派遣したものでございます。報償金に74万2,000円、保険料に2万4,000円の事業でございます。この事業によりまして、課外活動の支援を通じて地域の人材活用を図るとともに、多くの生徒が高い技術の向上を図るとともに、スポーツや文化活動の楽しさ、あるいは達成感を体験することができたと考えております。

また、その下の講師謝金のほうの部分でございますけれども、これは本物から学ぶ夢体験という事業でございます。文化面に優れた講師ということで、地元出身の歌手の椎名佐千子さん、あと尺八奏者で県内鴨川市在住のアメリカ人、ジョン・海山・ネプチューン氏をお招きいたしまして、中学生が本物の芸術に触れて、夢や生き方について考えるよい機会を与えることができました。事業費につきましては講師謝金が29万円、文化会館使用料が2万1,300円となっております。

最後に、107ページをご覧くださいと思います。学校給食センター統合改築事業でございます。

本事業につきましては、老朽化いたしました第二、第三学校給食センターを統廃合して、新たな学校給食センターを建設するための事業でございます。事業内容といたしましては、

学校給食センターの建設に伴います建築確認申請手数料といたしまして38万3,000円、基本設計業務委託料といたしまして57万7,500円、地質調査委託料といたしまして31万5,000円、造成工事として1,254万3,720円でございます。事業の効果でございますけれども、学校給食衛生管理基準に適合した安全で安心な学校給食が提供できる施設を今後建設していきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（高野晃雄） それでは、生涯学習課の決算につきまして補足説明を行います。

説明資料の101ページをお開きください。

初めに、文化振興事業でございます。市民の文化意識の高揚を図るため、東総文化会館を中心に各種文化事業を実施いたしました。

事業内容は、NHK公開録画「あなたの街で夢コンサート」をはじめ11事業の実施とスプリングコンサートの準備行為を行っております。事業費は1,883万9,156円でございます。そのほか文化団体などが東総文化会館を利用した場合に助成している文化施設使用料助成やあさひ少年少女合唱団講師への報償金、その他事務費などで総額2,149万656円の決算額でございます。

なお、文化振興事業では、東宝公演「びっくり箱」やあさひ寄席など入場料を徴収しており、この収入が314万9,305円、地域伝統芸能等保存事業補助金38万2,000円、そのほか文化振興基金から1,025万6,061円を繰り入れしているものでございます。

続いて、説明資料の102ページをお開きください。

青少年憩の家管理費でございます。施設の老朽化により、21年9月より使用を中止していた青少年憩の家の解体と跡地を保安林として植栽を行ったものでございます。植栽、解体工事費を含め、1,614万7,332円の決算でございます。

続きまして、103ページをご覧ください。

大原幽学遺跡「旧宅」半解体修理事業でございます。国指定文化財であります大原幽学遺跡「旧宅」については、老朽化、破損等により被害拡大を防ぐため、平成19年度から4か年の国庫補助事業として実施している半解体修理でございます。22年度が最終年度で左官工事、中門工事、燻蒸、それから消火栓工事を行ったものでございます。工事費、事務費を含めまして、761万1,160円の決算額でございます。

続いて、104ページをお開きください。

海上キャンプ場管理費でございます。青少年の健全育成を図るとともに、研修及び交歓の場として運用するため、受付業務や施設の維持管理を行ったものでございます。平成22年度の利用実績はキャンプ場が3,122人、前年度と比較しまして335人の減、体育館が6,282人、前年度と比較しまして2,343人の増となりました。キャンプ場におきましては、日帰りの団体利用が減少し、また反面、体育館におきましてはスポーツ少年団関係の利用が大幅に増えております。事業費は維持管理費、バンガロー改修工事等、総額1,144万9,984円の決算でございます。

なお、特定財源の154万8,000円は使用料の収入でございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 体育振興課長。

○体育振興課長（野口國男） それでは、体育振興課のほうから2つの事業につきまして説明をさせていただきます。

同じく決算に関する説明資料105ページになります。

スポーツ振興事業についてでございます。決算額につきましては1,607万7,000円でございます。市民の一体感を醸成し、生涯スポーツの振興に向けた各種スポーツイベントを開催するとともに、各種団体に補助金を交付し、スポーツ振興を図ったものでございます。スポーツイベントにつきましては、28の大会をとらえております。また、各種団体の補助金につきましては、体育協会ほか2団体に交付をしたものでございます。

事業の内容につきましてはご覧のとおりですけれども、一番上に旭市民体育祭補助金とございます。534万7,945円。これは合併後、初めて旭市民を対象に小学校区対抗で第1回目の体育祭として行ったもので、実行委員会への補助金でございます。特に第1回目ということで、競技種目13種目、オープン種目につきましては7種目、エキジビションにつきましては8種目、合計28種目2,547人の参加を得たものでございます。このほか役員、また応援者を含めまして5,000人の入り込みをカウントしております。事業の効果につきましては、市民の健康維持、体力づくりの向上とスポーツ精神を養い、地域スポーツの普及振興が図られたもので、また青少年のスポーツを振興し、心身の健全な育成とスポーツ指導者の指導力向上が図られたものでございます。

続いて、106ページをお願いいたします。

国民体育大会開催事業でございます。決算額につきましては4,177万3,000円です。第65回国民体育大会卓球競技大会開催のため、国体旭市実行委員会の運営に必要な補助金を交付し

たものでございます。

なお、特定財源の国県支出金2,565万円につきましては、千葉県からの補助金で第65回国民体育大会会場地市町運営費補助金で、事業費の3分の2の補助の交付を受けたものでございます。期間は9月29日から6日間開催をされたもので、約1万人の観客、また大会関係者は約5,000人で、合わせまして全国から1万5,000人が来旭をしたものでございます。特に食・自然・医療の3つの旭を全国に紹介できたこと、またおもてなしの効果ということで高い評価を得たものでございます。

以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） 財政課からは予備費の充当と、それから事業間の流用についてご説明申し上げます。

それでは、決算書の354ページをお願いいたします。

14款の予備費です。354ページ中ほどに予備費支出及び流用増減ということで△の1,657万4,000円という数字がございます。この予備費から各款への充当の状況についてご説明申し上げます。

まず2款総務費の収税事務費など3件に564万4,000円、それから3款民生費では、あさひ健康福祉センター運営事業など7件に238万円、それから4款衛生費へは飯岡保健センター管理費などへ、やはり4件で115万2,000円、それから6款農林水産業費につきましては家畜防疫対策事業へ137万円、7款商工費につきましては中小企業金融対策事業などへ2件で86万6,000円、8款土木費につきましては土木総務事務費などへ3件で75万6,000円、9款消防費につきましては消防団車両整備事業などへ2件で217万9,000円、10款教育費の中学校施設改修事業などへ7件で217万円、13款の諸支出金の土地開発基金繰出金、これは利子分の支出でございますけれども、1件で5万7,000円ですね。合計で30件、1,657万4,000円となっております。

次に、流用について申し上げます。事業を越える流用につきましては21件で、それぞれ決算書に表記のとおりになっております。例えば、直近のページというと345ページ、備考欄の6番から5番へ、括弧書きで流用したものについては記載がございます。例えば345ページの下から5行目に第二学校給食センター管理費へ流用減、その上については流用増というような形で記載がございます。この記載のとおりになっております。

以上で、議案第1号の補足説明を終了いたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

それでは、9款消防費から14款予備費までについて質疑に入ります。

質疑がありましたら一括でお願いいたします。

伊藤房代委員。

○委員（伊藤房代） 教育費の決算書271ページ、説明資料87ページです。学校いきいきプラン事業の1,060万円、補助金ですけれども、学校いきいきプラン事業補助金の中央小、旭二中各80万円、それ以外18校、各50万円でございますけれども、各学校が創意工夫を生かして特色ある学校づくりを目指す中で、教育の活性化が図られ、児童・生徒が充実した学校生活を送ることができたとありますけれども、もう少し詳しくその事業内容を教えていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、この昨年度の22年度の学校いきいきプランでございますが、各学校それぞれ学校教育目標に照らし合わせまして、校内で先生方と子どもたちの意見を聞く場合もございますけれども、さまざまな討論、話し合いをする中で、どういう事業を進めていくかということでやってまいりました。

私の手元に、さまざまな学校の結果が出ているんですけれども、大きく分けると、1つはいわゆる芸術教室とか版画教室とか、そういったいわゆるプロといいますか、かなり技術を持った方々を学校へお招きして、子どもたちの情操教育といいますか、豊かな教育といいますか、心の豊かな教育といいますか、こういったようなことを中心にやっている学校がございます。音楽鑑賞会あるいは芸術鑑賞会あるいは有名な高校を呼んでの演奏会とか、プロの演奏会とか、こういった形で心を豊かにするというような形でやっている学校がたくさんございました。

それから、あと例えばいわゆる進路指導の一環といたしまして、学校を出て例えば大学とか、そういったところへ行って、自分たちが一人ひとりさまざまなことを自分の計画に基づいて、いわゆる学んで来ようと。これはキャリア教育の一環だと思いますが、そういった形で取り組んでいる学校もたくさんございました。

あるいは体力向上ということで、例えば縄跳びのインストラクター、非常に有名な方を呼んだりとか、そういった形で、あるいはスポーツ関係で非常に力のある方を呼んだりとか、あと勤労生産活動をやったりとか、あるいは体力向上の中ではサーキットトレーニング的なものをできるような環境を整備したりとか、さまざまな活動しております。

いずれにいたしましても、学校独自の活動ということで、学校、校長がやりたいなと思っても、なかなかお金が出せないという部分で非常にありがたい制度だということで、各学校の校長のほうからは非常に好評を得ております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） それじゃ、92ページと98ページの小学校教諭補助員配置事業ですが、中学校もこれ一緒ですね、98ページはね。今、課長さん、自閉症や多動障害や学習障害等の発達障害を持った生徒がかなりいるという話をしましたけれども、そこでちょっとお伺いいたします。保護者のニーズが高くなっているということですが、それはどのようなことですか。

2点は、発達障害の子どもたちがクラスに1人か2人いると、どのようなことが起こり、問題点というか、授業を進める上で何が必要かどうか、その辺を詳しく教えてください。

もう一つですね、緊急雇用でも伺っておりますが、小・中全体で何人体制で行い、その人数は足りているのか足りていないのか教えてください。これは各学校へ行っても、いつも先生方言っていたんですよ、最近多いって。どうしても1人の生徒に1人の先生がかかっちゃうんだという話は聞いていました。けれども、そんなに多いのかなと思って、ちょっとすみませんけれども、あまり多かったら補助金足りないものね。すみません、教えてください。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、小学校あるいは中学校の教諭補助員の事業ということで、ここには緊急雇用含めまして全部で小・中4つの事業が書かれていると思いますが、昨年度につきましては、これで全部合計すると16名になるかと思います。

それで、その今の景山委員のお話ですけれども、現在例えば高齢者とか障害者とか、こういった方々を施設を隔離しないで健常者と一緒に、ともに助け合いながら暮らしていくのが正常な社会のあり方である、これよくノーマライゼーションというようなことで言われているんですけども、こういう考え方が非常に高まっております、それで心身に障害を持って、学校生活上の例えば介助とか学習支援上の支援を必要とする児童・生徒、あるいは今お話のありました多動傾向ですか、こういった傾向があり、あるいは授業中落ち着いて席に座ることができないとか、発達障害が疑われる児童・生徒が非常に増えるケースが増えております。

実はきのうも車いすのお子さんがおいでになりまして、今度、中学校、再来年ですけれど

も、行くときに、やっぱり普通の学校に行きたいということでご両親がおいでになりました。また、私も学校にいたときに実は多動の子がおりまして、新1年生でしたが、教室に入って行かれなくて、ほとんど午前中、私が一緒にその子についていたというようなことありました。もちろん悪いことはしません。いたずらはしませんけれども、非常に教室に入っていられなくて、もう本当に学校内を歩き回っていると、そういうお子さんがおりました。実はこういうお子さんが非常に多いという現状がございます。

それで、こういった児童・生徒に対しまして、今申し上げましたように担任1名による対応では非常に難しいと。今申し上げましたように、私がおととしたときには、もう担任1名はやはりクラスに子どもいますので、その残りの1名については教員がいなかったものですから、私自らその子にずっと1日ついていたというような状況がございました。そういった子がいるということで、非常に学校も苦勞しているという現状はございます。

また、保護者のほうでございますけれども、障害を持っているお子様、もちろんこれは心身の部分でも体の面でもそうなんですけれども、やはり他人、他の子に迷惑をかけるんじゃないかなという気持ちはもちろんあるんですけれども、やはり一緒に通常学級に在籍したいと望んでいるお子さん、保護者の方も多いですし、子ども自身もそう思っている子も非常に多いという現状がございます。

それで、また、その他の児童生徒ですか、その障害を持っていない保護者のほうも、やはり入ってもらって一緒にやってもらうのはいいんですけども、やはりいろいろな部分で先生がちよっと離れちゃうとか、あるいは面倒見ないと授業が遅れちゃうとか、そういった部分で、やはりそういった先生が1人入ってもらうと非常にありがたいのかなというような気持ちを、障害を持っている保護者だけではなくて、他の保護者もそういう気持ちが非常に強いというような現状があろうかと思えます。

それで、人数のほうでございますけれども、今申し上げましたように昨年につきましては緊急雇用含めて16名と。本年度につきましては、年度当初から1名増やしていただきまして、17名という形でスタートしておりまして、また年度途中でさらに緊急雇用ということで現在18名補助教員を配置しているんですけれども、しかし、この中に、18名の中に先ほど申し上げましたように外国語活動、つまり小学校5、6年生の英語活動を補助する補助教員が3名含まれております。この3名につきましては、市内の15の小学校をかけ持ちで行っておりますので、実質的に各学校に配置している特別支援とか、そういった補助教員につきましては15名という現状でございます。ですから、希望といたしましては、もう5名増やしていただ

ければ、一応各学校に1名ずつの配置ができるのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 我々、文教の委員として、いつもうちの向後委員長が、学校はいいけれども、中身が悪かったらしょうがないという話をよくしていますよね。確かにそうですね。学校はよくて、旭市は今それこそレベルを上げようという段階ですから、中身を上げてレベルを上げようという段階で、やはり決してその子どもが悪いというわけじゃなくて、子ども1人にその補助教員が1人かかっては何の意味もなくなっちゃいますからね。ぜひその辺は教育長さん、課長さんでよく相談して、レベルが上がるように頑張ってください。足りなかったら、どんどん委員長に言って、お願いいたします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑ありますか。

平野委員。

○委員（平野忠作） では、1点ほど質問いたします。

説明資料の94ページ、放課後児童健全育成事業ということで先ほど学校教育課長さんからご説明ございまして、市内小学校15校、それで17クラブって、たしか聞こえましたけれども、そんな中で、これなかなか入りたくても今入れない生徒がかなりいるということ聞いています。そういう中で入る審査とか何か、そういうものはあるんですか。先着順とか、あるいは家庭の事情とか、いろいろ考慮される面もあるんですけれども、その2点分かれば。この17というのは小学校が15校だから2つあるところがあるんですね。その説明と、それと入る審査基準というか、そういうあれはどのようなになっているんですか。ひとつお願いします。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） まずクラブの数でございますけれども、昨年中和ができて、すべての小学校にできて、17というのは実は中央小学校が3つ、3教室あるということでプラス2ということで17クラブとなっております。

それで、入る基準ということでございますけれども、一応申請書を出していただきまして、理由等がそこに書いてあるものですから、基本的にはその段階ではねるということはないんですが、ただ問題なのは、非常に施設の部分、広さと、それからあと定員がもちろんあるんですけれども、定員を非常に超えているという状況がございます。

例えばこれは8月1日の現在ですけれども、470名という定員に対しまして、539名が実際入っているという状況でございます。学校の施設をお借りいたしまして、いろいろとやって

いるという状況でございますが、各学校によっても、いろいろと環境といいますか、施設の差がございまして、非常に小さいところでやっているというところもございます。現状といたしましては、そういう状況でございまして、希望があるお子さんについては一応入れているというところでございます。

ただ、基本的には低学年ということで、できればお願いしたいと思っておりますが、例えばお兄さんを、兄弟の関係で保護者の方がどうしてもというふうになりますと、高学年4、5、6年生でも、いわゆる受け入れているという現状でございます。ちょっと施設の部分と人数的な部分が、いろいろな部分で課題があるという現状はございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 平野委員。

○委員（平野忠作） いろいろご説明ありがとうございました。実は私どもも、たしか二、三年前ですか、非常にこれ興味があったものですから、議員の有志で視察に行きました。なかなか、たしか中央小学校へ行ったと思います、当時ね。そのときはまだ高学年を受け入れてございませんでした。そんな中で、上のこの3年生ですか、それが1、2年生をよく指導して自主的にやっていた。これはすばらしいことだなと私は思っていて、ただ地区によっては本当にスペースが狭い中で、すし詰め状態でさっきもやっているということで、これからいろいろ検討しながら父兄の皆さんの要望に応えるように、これから進めていただけたらよろしいなと思っていますけれども、よろしくお願いします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） まず第1点ですけど、説明資料の81ページの消防施設整備事業なんですが、この中で防火水槽の耐震性貯水槽ですか、これの設置の事業なんですが、今回の震災におきまして、耐震性の防火水槽、既に設置されているものもあると思いますが、どういったような状況であったか、そのほかの貯水槽につきましても被害の状況が分かれば、ちょっとお伝えしたいと思います。

それから、次に100ページの課外活動支援事業ですけれども、専門的な指導者を課外活動支援のために派遣したという事業なんですが、この派遣を依頼するこの基準といいますか、手続きといいますか、どういったようなことをして指導員が派遣されるのか。といいますのは、この事業内容をちょっと見まして、一番今、野球ですか、野球の指導員の派遣がなかったと、ないというようなことの中で、どういったような基準でこの派遣指導員を選定して依

頼しているのかなといったような、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。

続きまして、104ページの海上キャンプ場管理費のところなんですけれども、キャンプ場への入場者が前年度から比較すると335人減少したといったようなことでございます。せっかく県から移管された施設でございますので、できるだけ有効に利用していただきたいといったような中で、いつになるか分かりませんが、いずれこの東総広域農道が開通しまして、キャンプ場のわきを通るような立派な道路ができると思います。そうなったときに、やはりもっと有効にあの場所を利用していただきたいというのが私どもの願いでございます。キャンプ場のほかにも広大な広場ですか、芝生の広場もございます。そういったものも今後どういったように利用していけば有効に利用できるかと、そういったことについても今後考えていただきたいということでございますので、ひとつよろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 消防長。

○消防長（佐藤清和） それでは、私のほうから耐震性貯水槽の関係ですね、震災による被害の関係ということで。今回、地震によりまして防火水槽ですけれども、約50か所、これは修理の必要な被害を受けております。また、耐震性貯水槽につきましては約50か所、すみません、今正確な数字がちょっと手元にございませんで、50か所ありまして、既存のものでですね。その中で1か所だけ、海上蛇園地区ですか、液状化で隆起した部分が、1.2メートルほど隆起してしまった部分がありますが、その貯水槽に関しましては漏水とか、そういうものはございませんで、今回簡単なものは修理といいますか、やって使えるということで、そのほかの耐震性貯水槽には被害はありませんでした。ですから、耐震性貯水槽自体はかなり有効なものだと思いますので、これからも建設を進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、課外活動支援事業につきましてご説明申し上げます。

今、委員さんのほうから野球がなぜないのかというようなお話がありましたけれども、基本的にこの課外活動、いわゆる放課後の部活動ですか、そちらのほうの指導なんですけれども、各学校のほうから要望に応える形で、そういった指導ができるかどうかということで、配置しているというところでございます。

それで、例えば各学校にすべて、その部活動の専門に指導できる教員がいるというわけではございません。そんな中で、例えばちょっと指導が非常に難しいとか、あるいは人数が多いためにお手伝いしていただきたいとか、そういったような学校からのニーズがありまし

て、それに応えられる指導者がいた場合に、うまく配置していくということであろうかと思
います。

ちなみに、昨年まで干潟中学校には剣道の専門家がおりませんでした。今年4月に剣道
の本当の専門家、かなり段位の高い先生が、体育科の先生が入ってまいりましたので、本年
度につきましては干潟中のほうから剣道の要望は出ておりません。こういう形でやっており
ます。

野球のほうですけれども、この地区は非常に野球が盛んでございまして、各学校とも比較
的野球部については指導が、自分がもちろん本当にやっていたかという、それははっきり
明確ではございませんけれども、比較的指導ができる顧問が、教員が結構配置されていると
いう状況があるかと思えます。そういった中で、こういったような形になっているかなと
思います。

吹奏楽部なんか特に多いんですけれども、吹奏楽部につきましても今結構、市内の各学校、
吹奏楽部の部員数も多くなっておりますし、また楽器等もいろいろ専門性があるものでは
から、音楽科の教員がすべての楽器をなかなか指導できないとか、そういった部分もあり
ますので、多分吹奏楽のいわゆる要望が高いのかなと、このように考えております。

野球については、多分そういった理由で、なかなか学校のほうから、そういう学校の中で
何とかできるというようなことであろうかと考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（高野晃雄） キャンプ場の利用の促進ということでのご質問いただきました。
キャンプ場につきましては、ご利用している方々の要望等を伺いながら、今までコテージは
全部板張りだったわけですが、22年度で2部屋、23年度も2部屋ですね、合計4部屋
の畳の部屋ですか、そういうものを設けております。また、トイレのほうも今の時代です
ので、今度一部洋式トイレに改修いたしました。そういうふうに施設の充実と同時に、また引
き続きキャンプ場のPR活動のほうも進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願
いいたします。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） それでは、2点ほどお伺いします。

小学校教諭補助員のことなんですけれども、この補助員の先生は相対で付き添って、学校

の中だけなんですか。それとも校外に出るときも今は出られるようになったんでしょうか。それ1点。

もう1点は、放課後児童健全育成事業ですか、この事業に関して非常にこれ人気があります。私のところに随分来てくれるんですけども、うち窓口じゃないからなと言うんですけども、後で聞きに言ってくるからと言ってあるんですけども、今まで低学年が主体だったんですけども、今度は高学年も一緒にお引き受けしようといったところで、家庭では大変助かっているんですね。これ今も定数470に対して539人ということで、もう120%くらいですか。そうなってくると、いずれそのもとに戻って、高学年のほうはけられないかと。今、低学年の子どもを持っている保護者が非常に心配しているんですけども、その辺のところちょっと確認させていただきたいと思います。

○委員長（向後悦世） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） まず小学校の補助教員でございますけれども、ご質問は校外の例えば遠足とか、そういった活動ということでございましょうか。

（発言する人あり）

○学校教育課長（菅谷充雅） ちょっとその辺、私どもは、はっきり把握していないんですけども、ちょっと明確なお答えできなくて申し訳ありませんが、後で調べて、ただ一応保険等は入っていただいておりますけれども、ちょっとその辺は後で確認させていただきます。

なお、基本的には校内での学習支援というものを中心に、各学校のほうでも対応していただいているという状況でございます。

それから、あと放課後の事業ですか、学童クラブの件でございますけれども、こちらにつきましては確かに今、委員さんがおっしゃられたように非常にいろいろと苦しい状況もあるという現状がございます。お一人お一人の保護者の方々の理由といたしますか、いろいろありまして、教育委員会といたしましては先ほど申し上げましたように、希望がある限りはほとんど駄目だよということはなかなか言えないという現状がありまして、それで受け入れている状況があるんですけども、今後あまりにも増えてしまった場合には、その指導員の部分もございますし、どうしても教室的な部分もございますので、その中で少しでも状況が、例えば何とか我慢していただければご遠慮いただくということも、やっぱりそういう対応をとらざるを得ない、そういう状況も出てくるのかなと。ちょっと非常にその辺は、はっきり今のところまだ方向性が見えていないんですけども、ただ今そういう現状の中で限られた中でやっているということで、あくまでも保護者の方々のニーズに応えようということで一生

懸命取り組んでいるんですけれども、お答えにはならないんですけれども、やっぱり教育委員会としても非常にどういうふうに把握したらいいかなということで非常に危惧しているという状況でございます。

○委員長（向後悦世） 宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） どうもありがとうございます。

1点目の小学校の補助員の先生なんですけれども、これは学校の先生から実はお話がありまして、ぜひ実はうちの学校で1人いて、車いすの生徒がいて、その子どもが校外の課外授業に行くときには出られないと。その子どもだけ一緒に行けないんだと。これ非常にかわいそうなんで何とかならないんだらうかということで、前の課長さんにお伺いしたケースもありますので、またひとつよろしくお願いします。

次のことなんですけれども、実は一番強い声で私のところへ来てくれたのは、共稼ぎのご夫婦なんですけれども、子どもさん1人なんですけれども、その子どもさんは実はおばあちゃんが面倒見ていたんですね。おばあちゃん面倒見ていたんですけれども、孫と2人有的时候きに脳梗塞起こしちゃって、もう半身不随でというか、車いすの生活で、全くある日突然、孫の面倒見られなくなっちゃった。それで、お母さんは仕事をやめて子育てに従事、専任したんですけれども、でもやっぱり食べていかなければいけないということで、おばあちゃんの面倒、つまりお母さんですよね。お母さんの面倒も見なければならぬ。ましてや子どもも食べさせなければいけない。共稼ぎで、また復活して仕事しているんですけれども、本当にうれしかったんでしょうね、こういう制度が始まって。将来どうなるんだろうと、成人はともかく高校生くらいになるまで非常に心配していたところが、こんないいことがあったということで、本人、大分喜んでいるんですよ。そういった方が実は干潟地区にも非常に多いんですね。

本来であれば、子どもというのは地域の中で自由に遊べて安全だというのが、ごく人の人間社会の中で当たり前のことなんですけれども、その安全の法則がちょっと破られてきたので、非常にこれいいことですから、ぜひ検討していただきたいと思います。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

伊藤房代委員。

○委員（伊藤房代） すみません。1点だけ質問させていただきます。

消防費の決算書の255ページ、常備消防事務費でございますけれども、今年度6,742万

2,902円、昨年の決算ですと7,222万8,849円で、今年この比較すると480万5,947円の減なんですけれども、その辺の要因を教えてくださいと思います。

○委員長（向後悦世） 伊藤房代委員の質疑に対し、答弁を求めます。
消防長。

○消防長（佐藤清和） 申し訳ございませんでした。減額の主な項目ですけれども、委託料でございますか、これが500万円減になっております。これは耐震診断等を前年度に実施しておりまして、これがなくなりましたので、この金額が大きいです。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。
（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、9款消防費から14款予備費までについての質疑を終わります。

以上で議案第1号の質疑を終わります。

議案の採決

○委員長（向後悦世） これより討論を省略して、議案第1号の採決をいたします。

議案第1号、平成22年度旭市一般会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第1号は認定することに決しました。

以上で議案第1号の審査は終了いたしました。

○委員長（向後悦世） これにて本日の会議を閉じます。

なお、本委員会は16日午前10時より議会委員会室にて開催いたします。

大変ご苦労さまでございました。

散会 午後 4時 9分

決算審査特別委員会

平成23年9月16日（金曜日）

決算審査特別委員会

平成23年9月16日（金曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 2号 平成22年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について
議案第 3号 平成22年度旭市老人保健特別会計決算の認定について
議案第 4号 平成22年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について
議案第 5号 平成22年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について
議案第 6号 平成22年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について
議案第 7号 平成22年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について
議案第 8号 平成22年度旭市水道事業会計決算の認定について
議案第 9号 平成22年度旭市病院事業会計決算の認定について
議案第10号 平成22年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について

出席委員（9名）

委員長	向 後 悦 世	副委員長	伊 藤 房 代
委員	滑 川 公 英	委員	景 山 岩三郎
委員	平 野 忠 作	委員	島 田 和 雄
委員	太 田 將 範	委員	宮 澤 芳 雄
委員	飯 嶋 正 利		

欠席委員（なし）

委員外出席者（2名）

議長	林 一 哉	副議長	嶋 田 哲 純
----	-------	-----	---------

説明のため出席した者（45名）

副市長	増 田 雅 男	財政課長	加 瀬 正 彦
-----	---------	------	---------

税務課長	佐藤 一 則	保険年金課長	石 毛 健 一
高福社課長	石 井 繁	農水産課長	堀 江 隆 夫
下水道課長	増 田 富 雄	会計管理者	花 香 寛 源
水道課長	小長谷 博	監査委員 事務局長	馬 淵 一 弘
商工観光課長 兼国民宿舎 支配人	横 山 秀 喜	病院事務部長	渡 辺 清 一
病院事務次長	石 鍋 秀 和	病院経理課長	鈴 木 清 武
病再整備室長	鎚 木 友 孝	病院施設課長	永 嶋 英 和
病院契約室長	奴 賀 政 志	病院総合患者 相談室長	野 口 稔
その他担当 職員	27名		

事務局職員出席者

事務局長	堀 江 通 洋	事務局次長	向 後 嘉 弘
主 査	榎 澤 茂		

開議 午前10時 0分

○委員長（向後悦世） おはようございます。

9月15日に引き続きましてご苦勞さまでございます。昨日同様、厳しい暑さも続いておりますが、慎重なる審査をよろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は9名、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開会いたします。

9月15日に引き続きまして、林議長と嶋田副議長に出席をいただいておりますので、代表して林議長にごあいさつをお願いいたします。

○議長（林 一哉） おはようございます。

委員の皆さんには、昨日に引き続きまして大変ご苦勞さまでございます。

本日は、議案第1号に引き続きまして、議案第2号から第10号までの特別会計及び企業会計についての審査をご協議いただくわけでございますけれども、どうか十二分に審査していただきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ですがあいさつとさせていただきます。ひとつよろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長ほか担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

副市長。

○副市長（増田雅男） おはようございます。

昨日に引き続き、決算審査特別委員会の開催、大変ご苦勞さまでございます。

本日の特別委員会に審査をお願いいたしますのは、平成22年度の特別会計、公営企業会計の各決算議案9件でございます。執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しましては、簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案認定くださいますよう、よろしく審査をお願い申し上げます。本日はご苦勞さまでございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

ここで、増田副市長は所用のため退席いたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 4分

(副市長退席)

再開 午前10時 4分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の説明、質疑

○委員長（向後悦世） ただいまから、本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月9日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案第2号から議案第10号までを順次議題といたします。

それでは、本日の日程についてでございますが、議案第2号から順次審査を行います。会場の都合により、担当課の入れ替えを議案第2号から議案第10号までの9議案を3つに区分して行いたいと思います。

初めに、特別会計の議案第2号から議案第5号までを、次に議案第6号と議案第7号、最後に企業会計の議案第8号から議案第10号までの3つに区分して担当課の入れ替えを行いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、付託議案の審査を行います。

初めに、議案第2号について、担当課より補足して説明がありましたらお願ひいたします。保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） おはようございます。

それでは、議案第2号につきまして補足説明を申し上げます。

なお、本会議では決算書をもとにご説明いたしましたので、本日は旭市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算に関する説明資料で補足説明を申し上げます。

説明資料をご覧いただきたいと思います。

最初に1ページをご覧ください。

1の世帯数と被保険者数の推移ですが、22年度の欄をご覧いただきたいと思います。

年間平均ですが、世帯数は1万3,451世帯で、前年度比0.3%の減であります。被保険者数

の総数は2万8,979人で、前年度比1.6%の減となっております。

続いて2の国保加入率の推移ですが、22年度末の欄をご覧ください。

世帯割合ですが、住民基本台帳における旭市の世帯数は2万3,950世帯で、そのうち国保世帯は1万3,388世帯となっております。全体に占める割合は55.9%となっております。人口割合は、旭市の住基人口が6万8,617人、国保被保険者数が2万8,605人となっております。その占める割合は41.7%であります。

次に、2ページをご覧ください。

3の保険給付の状況ですが、下の合計欄をご覧くださいと思います。

一番下になりますが、22年度における保険給付費の総額は53億3,151万4,000円となり、対前年度比5.8%の増となっております。1人当たりの給付額で申しますと18万3,978円となり、対前年度比で7.5%の増となっております。

次に、3ページをご覧ください。

ここでは一番上の表の短期人間ドックの欄をご覧ください。

人間ドックの種類といたしましては、日帰りのコースと一泊二日のコースに分かれているわけですが、これらの実施件数の合計は601件となるものでございます。

4ページをご覧ください。

国民健康保険税の収納状況についてご説明いたします。

①の表の下段、22年度の現年度分収入済額をご覧ください。

収入済額は22億4,479万8,000円で、収納率は86.7%であります。

次に、右側の滞納繰越分をご覧くださいと思います。

収納済額が1億7,284万3,000円、不納欠損額が1億4,083万7,000円となりまして、収納率は13.0%であります。

次に、5ページをご覧ください。

右側中段の表の6、老人保健拠出金の状況についてご説明いたします。

これは国保老人に係る拠出金でありまして、前々年度の医療費の実績をもとに算出されてきたもので、平成22年度の過去の過誤納付分に対する医療費拠出金11万円、事務費拠出金7万8,000円の支出となりました。

続いて、この表の下、7の後期高齢者支援金の状況についてご説明いたします。

これはゼロ歳から74歳までの国保被保険者の後期高齢者に係る医療費の一部を負担するためのものであり、平成22年度は総額で11億9,250万8,000円の支出となりました。

次に、6ページをご覧ください。

8、介護納付金の状況ですが、平成22年度の納付金額は下段になりますが、5億9,322万5,000円の支出となりました。これは22年度概算額6億5,060万8,000円に対し、前年度精算額が5,738万3,000円の減額となったものでございます。

最後に、施設勘定の滝郷診療所についてご説明いたします。

9番の滝郷診療所の状況ですが、一番下の22年度の欄をご覧ください。

1年間における診療日数は243日で、患者数は7,606人と前年度よりも3.4%の減であります。診療収入では6,604万3,000円と前年度比1.1%の増となっております。

以上をもちまして、議案第2号の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第2号について質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） 1点だけ質問します。

保険給付のほうなんですけれども、この説明資料の3ページ、給付件数が大体横ばい状態の中で給付額がだんだん上昇しているという、22年度においては46億円ですか、これ療養の給付欄ですけれども、その原因はどういったような原因で、この給付額の件数が変わらないのに上昇しているのかということをお聞きしたいんですけれども。

○委員長（向後悦世） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 給付額全体で21年度に比べまして5.8%の増加となっております。やはり傾向を見ますと、被保険者数は横ばいというより若干減っているような状況でありまして、1人当たりの医療費がやはり増加しているということが言えると思います。

そして、その要因としましては、診療報酬の平成22年度に0.19%の改定がありました。それとあと特にこの改定における入院に対しての手厚い上昇があるということが言われております。そういうことを加味しまして、あと医療の進歩とか、いろいろな面で点数が上がったり、あと生活習慣病とか言われます慢性的な病気に伴う高価な薬の使用とか、そういうものでやはり医療単価が上がっているということが大きなことだと思っております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） そうしますと、今後はこの水準で推移していくというふうに考えたほうがいいのかどうか、その辺ですけれども。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 22年度に入院の単価が結構上がっている、外来より入院が上がっているという状況がございます。これはやはり市民の方々は中央病院が多いということが言えると思います。

それはつまり、先ほども言いましたように、医療費の入院に対しての単価が若干上がっていると、それとやはり7対1看護とか、DPCですか、そういうものによって単価がやはり上がっているんじゃないかと、それは推測ですけれども、そういう感じで今とらえているような状況でございます。

それで、ですから去年上がっていますので、今年はそれほど伸びはございません。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 伸びというよりも22年度の水準でこれから推移していくと、そういうふうにこれから考えられるということでしょうか。

それともう1点ですけれども、7対1看護になったということで、要するに入院されている患者さんの負担が多くなったと、そういうようなことでしょうか。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 伸びの推移ですけれども、やはり若干の伸びはございます。ただ、去年ほど伸びはないんじゃないかなと見ております。

それと7対1看護、これはあくまで私どもの推定でありまして、それがどうなったかというのはまだはっきりした検証はしておりません。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） その7対1看護の影響というのは分からないんですか。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） これは私どもではちょっと分かりません。

○委員長（向後悦世） いいですか。

ほかに質疑ありませんか。

伊藤委員。

○委員（伊藤房代） 1点だけお伺いいたします。

説明資料の3ページの短期人間ドック給付状況というところでございますけれども、平成21年度は件数的には498件、2,819万8,000円で、22年度は601件、3,459万4,000円ということで、件数にして103件増えておりますけれども、その辺の状況をお伺いいたします。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 103件ですか、22年度増えたということですがけれども、これは20年度から特定健診事業で国保の40歳から74歳の方に個人通知や健康カレンダーの掲載等による人間ドックの助成の制度の周知をした結果だと思っています。それによって100人程度増えたのではないかと考えております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） いいですか。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 説明資料の1ページなんですけれども、国保の加入率の推移なんですけれども、課長さん、この世帯割、人口割とありますけれども、年々こういうような傾向で来て、まだまだ続くというような考え持っていますか、どうですか、ちょっとそれだけ教えてください。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） この傾向は続くと思っています。年少人口は減っております。それとあと今度75歳になりますと後期医療制度に移りますので、大きな数も減っていくということなので、ですから分母はだんだん減っていくということでございます。

○委員長（向後悦世） 景山委員、いいですか。

平野委員。

○委員（平野忠作） 1点ほどちょっとお伺いしたいことかございます。

説明資料の6ページ、一番最後です。滝郷診療所の状況ということで、平成21年度患者数が7,847人、そして22年度が7,606人、それで逆に診療収入のほうが6,529万4,000円、そして22年度が6,604万3,000円ですか、逆に少なくても医療費が伸びているんですけれども、これはどのような要因があったのでしょうか、お聞かせ願いたいと思います。

○委員長（向後悦世） 保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 昨年度は健康管理課でやっておりますワクチンですか、子宮頸がんとか、そういう受託もやっております、そういうものが増えてきている。あと医療単価的には若干ですけれども増えているということです。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

続いて、議案第3号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 議案第3号の旭市老人保健特別会計決算につきましては、本会議でご説明いたしましたとおり、平成20年に後期高齢者医療制度が発足したことに伴いまして、平成20年3月の診療分をもちまして老人保健制度は終了しておりますので、22年度における当会計での歳入歳出は、過去の診療に係る過誤料の精算事務となっておりますので、この会計は本年度で終了でございます。

内容につきましては、本会議の補足説明のとおりですのでよろしくをお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第3号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） それでは、議案第4号につきましてご説明申し上げます。

なお、本会議では決算書をもとにご説明いたしましたので、本日はやはり後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算に関する説明資料のほうで補足説明を申し上げます。説明資料をご覧いただきたいと思っております。

説明資料は1ページのみとなっております。

ご説明いたします。まず、1の表にあります被保険者数ですが、年間平均で8,705人となりまして、そのうち1,551人が社会保険において被扶養者であったということでございます。また、この表の中、65歳以上74歳以下の方については、一定の障害があることが該当条件となりますが、本人の意思により75歳になられるまで後期高齢者医療から脱退することも可能となっております。

続きまして、2の表の保険料の収納状況でございますが、特別徴収分については収入済額が2億750万2,000円で、徴収率は100%でございます。

普通徴収分については収入済額が8,475万円で、収納率は95.9%であります。

不納欠損額は50万9,000円で、ここには記載しておりませんが、件数は21件であります。

収納未済額は、現年度分と滞納繰越分を合わせて309万9,000円であります。

全体での収納率は、98.8%となるものでございます。

簡単ではございますが、以上で議案第4号の補足説明を終わります。よろしく願いいたします。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第4号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

続いて、議案第5号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、介護保険事業特別会計決算につきまして補足説明させていただきます。

説明にあたりましては、やはり決算に関する説明資料に基づきまして説明させていただきます。申し訳ございません、ご用意お願いいたします。

1の高齢者人口等でございますが、これは平成23年3月末の状況を第4期介護保険事業計画と比較しておりますが、前年度の数値と比較してご説明させていただきます。

まず、上から2行目のB欄、65歳以上の第1号被保険者数は1万6,336人で、対前年に対し111人、0.7%の減となっております。

次に、3行下になりますが、65歳以上の人口比率、これは高齢化率でございますが、23.4%で、ちょうど前年と同率でした。

要介護（要支援）認定者数は、2,300人で対前年比134人の増、伸び率6.2%で、一番下になりますが、対前年0.8ポイントの増となっております。

次に、2の要介護・要支援認定者数の状況でございます。

要介護（要支援）認定者数の状況ですが、これは65歳以上の第1号被保険者では要支援認定者が326人、要介護認定者が1,886人、計2,212人となっております。

その下の特定疾病を要件とする40歳以上65歳未満の第2号被保険者では、要支援認定者が11人、要介護者が77人、計88人で、全体では要支援認定者が337人、要介護認定者が1,963人で、合計2,300人でございます。

次に、2ページをお開きください。

3の介護保険料でございます。65歳以上の第1号被保険者の保険料率は、負担能力に応じた所得段階別定額制となっております。所得段階は、第1段階から第9段階までありまして、第5段階が基準額となっております。平成22年度は3万9,024円でございます。月額3,252円であります。

第4段階から第1段階は、低所得者に配慮し、基準額から段階的に引き下げた金額となります。

第6段階から第9段階は、本人が住民税課税者で収入額に応じて加算された金額となって、段階別に引き上げられた金額となっていきます。

次に、4の所得段階別第1号被保険者の状況でございます。

これは3の介護保険料のほうの所得段階別に応じた、その所得段階の被保険者数の状況でございます。それを表したものでございます。

次に、3ページの5、保険料納付状況でございます。

年金からの引き落としによる現年度分特別徴収は、調定額5億5,067万8,975円、収入額は同額で、収納率は100%となっております。

その下の口座振替及び直接納付の現年度分普通徴収でございますが、調定額5,447万1,431円で、収入済額は4,370万1,614円で、収納率80.2%でございます。特別徴収と普通徴収を合わせた現年度分徴収率は98.2%です。

過年度分でございますが、過年度分は調定額1,943万8,609円で、収入済額は271万5,278円で、収納率は14%です。

不納欠損でございますが、649万4,580円で、この不納欠損の対象者は253名でございます。

現年・過年度分を合わせた全体では、調定額6億2,458万9,015円、収入済額は5億9,709万5,867円で、収納率は95.6%で、前年度と比較して0.2%低下いたしました。

次に、6の保険給付費のサービス別支出状況でございます。

居宅サービスの延べ利用人数、利用件数は3万432人、保険給付費は15億4,537万7,215円で、前年と比較いたしますと1億1,937万7,646円増加し、伸び率は8.4%であります。

居宅サービスで特に利用の多いのは①の訪問介護と⑥の通所介護サービスで、訪問介護サービスは延べ利用人数5,908人、保険給付費は2億7,370万821円で、1か月1人当たりの給付費は4万6,327円であります。

通所介護サービスでございますが、延べ利用人数7,914人、保険給付費は5億1,302万

3,827円で、1か月1人当たり給付費は6万4,825円となっております。

次に、地域密着型サービスでございます。

このサービスは原則として旭市民が利用できるサービスで、認知症対応型のグループホームと小規模特別養護老人ホーム等が該当いたします。サービスの延べ利用人数でございますが1,091人、保険給付費は2億4,557万6,196円で、前年と比較しますと1,585万6,371円増加し、伸び率は6.9%であります。1か月1人当たりの給付費でございますが、22万5,093円でございます。

次に、施設サービスでございます。

延べ利用人数でございますが6,528人で、月平均施設入所者数は544人です。内訳ですが、老人福祉施設に343人、老人保健施設には196人、療養型医療施設が5人でございます。保険給付費は16億1,116万9,627円で、前年と比較しますと3,179万6,569円増加し、伸び率は2.0%であります。1か月1人当たりの給付費でございますが24万6,809円あります。

特定入所者介護サービス費でございますが、これは市民税非課税世帯等の低所得の要介護者が施設サービスや短期入所サービスを利用したとき、食費、居住費について補足給付として支給したものでございます。

次に、高額介護サービス費等は、1か月に支払った利用者負担額が一定の上限額を超えたときに所得区分に応じて、超えた分を払い戻したものでございます。

一番下の保険給付費の総額でございますが36億1,149万682円で、前年度より1億9,439万6,348円増加し、5.7%の伸びとなっております。

補足説明は以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第5号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第5号の質疑を終わります。

それでは、議案第2号から議案第5号までの担当課は退席してください。

議案の審査は途中でありますが、ここで10時50分まで休憩いたします。

休憩 午前10時36分

再開 午前10時55分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、議案第6号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（増田富雄） それでは、議案第6号、下水道事業会計の決算の認定について補足説明を申し上げます。

平成22年度旭市下水道事業特別会計歳入歳出決算に関する説明資料の1ページをご覧くださいと思います。

下水道建設事業費は5億9,394万円で、財源内訳は記載のとおりでございます。下段の括弧書きは繰越明許分となっております。

内容としましては、イ網戸地区2.4ヘクタール、これは県道銚子旭線の創価学会旭文化会館東側から旭中央病院入り口交差点までの南側区域の面整備工事、また、平成21年度に幹線管渠及び面整備工事を行いました国道126号線、袋の交差点から、同じくマツモトキヨシの交差点北側までの舗装復旧工事、旭中央污水ポンプ場の土木建築工事、浄化センター増設工事のための高段ポンプ棟の土木建築工事、水処理施設工事、電気設備工事等を実施したものでございます。

2ページをご覧ください。

下水道状況一覧の1番目は、下水道の整備状況でございます。平成22年度の普及率は行政区域内人口6万8,617人に対して、処理区域内人口5,872人で約8.6%、前年度より0.1ポイントの増でございます。

また、水洗化率につきましては、処理区域内人口5,872人に対しまして、供用人口が3,470人で59.1%、前年度比1.3ポイントの増となっております。

2番目は受益者負担金で、平成22年度の受益者負担金の納入状況は、調定額5,532万6,400円に対しまして、収入済額が2,805万3,400円で、収納率は50.7%でございます。

なお、調定額には過年度分が含まれておりまして、収入済額の現年度分は2,347万1,200円、収納率84.2%、過年度分は458万2,200円、収納率16.7%でございます。

平成22年度の不納欠損額は138万200円で、内容としましては自己破産等が7件、転居先不明が1件、合計8件でございます。

3番目は使用料収入で、平成22年度の使用料の収入状況は、調定額6,803万2,939円に対しまして、収入済額が6,478万2,088円で、収納率は95.2%でございます。なお、調定額には過

年度分が含まれておりまして、収入済額の現年度分は6,415万9,999円、収納率98.2%、過年度分は62万2,089円、収納率23.3%でございます。

なお、平成22年度の使用料の不納欠損額は24万8,554円で、内容としましては転出先不明11件、破産1件、独居世帯の死亡3件、合計15件でございます。

4番目は、水洗便所他改造資金補助金と利子補給金の状況で、水洗便所他改造資金補助金は11件で38万円でございます。

補足説明は以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第6号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、議案第7号、旭市農業集落排水事業特別会計決算につきまして補足の説明を申し上げます。

ご承知のように農業集落排水事業、旧旭市の江ヶ崎地区、琴田地区、この2か所で実施をさせていただいております。江ヶ崎地区につきましては平成10年5月に供用開始、本年で13年が経過しております。琴田地区につきましては平成13年5月の供用開始、本年で10年の経過でございます。そのようなことで、この両施設につきましては、施設の長寿命化を目指しまして適正な維持の管理、こういうことに努めてまいりたい、そういうふうに考えています。

それでは、資料に基づきまして最初に歳入歳出決算に関します説明資料、ここをお開きいただきたいと思います。

説明資料の2ページをお願いいたします。

本会議の中でも申し上げました2ページの中に普及状況を掲げさせていただいております。一番上が全体の地区の処理普及状況でございます。その2番目に江ヶ崎地区、琴田地区それぞれの地区を掲げてございます。両地区の普及人口につきましては、平成22年度末1,542名、普及率70.4%でございます。そういうことで100%加入を目指しまして、地区の役員の方々の協力をいただきまして今後とも普及率の向上に努めてまいりたい、そういうふうに考えております。

それでは、決算書のほうをお目通しいただきたいと思います。

決算書のほうの542ページをお願いいたします。

ここに歳入の部分で2款1項1目の中に施設使用料がございます。農業集落排水事業、ここにつきましてはご承知のように、加入時に受益者分担金としまして1世帯42万円、さらに毎月の使用料としまして1世帯月1,700円、使用人数に応じまして1人400円、これの消費税というようなことになっております。仮に3人世帯ですと年間3万6,540円、こういう使用料金の設定でございます。

さらに、この下に3款1項1目のところに一般会計繰入金2,840万9,000円があります。全体事業費から特定財源を差し引いた不足額を一般会計から繰り入れさせていただいたものがあります。この2,840万9,000円、これを使用人数1,542名で割りますと、1人当たり1万8,423円、これを実は一般会計からいただいて施設の維持をしている、そういう計算になります。世帯の354世帯、これでやりますと年間1世帯当たり8万251円、そういう数字になります。

そういうことで、この一般会計からの繰り出しを少なくする。これはひとえに加入者を増やす、そういうことで心がけて今後とも施設の維持管理等、あるいは使用の普及に努めてまいりたいと思っております。

補足説明は以上です。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第7号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

それでは、議案第6号と議案第7号の担当課は退席してください。

しばらく休憩いたします。

委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前11時 5分

再開 午前11時 8分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで財政課より、お手元に配布してあります財務諸表の説明をお願いいたします。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、お手元にお配りしてございます旭市財務諸表速報版につきましてご説明申し上げます。

この1ページをお願いいたします。

初めに、財務4表の整備についてであります。平成18年に総務省が示しました地方公共団体における行政改革のさらなる推進のための指針に基づきまして、旭市においても平成20年度決算から取り組みまして、本年度で3回目の作成となるものであります。

対象とする会計の範囲でございますが、旭市におけるすべての会計で、一般会計と国保会計をはじめとする六つの特別会計、それから中央病院をはじめとする三つの企業会計でございます。この1ページの中ほどより下に表のあるとおりでございます。

次に、この4表の種類ですが、右側のページになります。上のほうに番号を振ってございます。一つ目は貸借対照表でいわゆるバランスシート、二つ目は行政コスト計算書で民間企業の損益計算書に相当するものであります。三つ目は純資産変動計算書で自己資本に相当する純資産の増減等の流れを明らかにするものであります。四つ目は資金収支計算書で資金の増減等の流れ、いわゆるキャッシュフローでございます。

次に、この4表の相互の関係でございますけれども、下に記載してございますとおり、矢印の線で結ぶとともに①、②、③の表示がしてございます。この後説明する各表中に網かけとその丸付き番号を表示してありますので、これはその説明の段階でご確認いただきたいと思っております。

3ページ、4ページをお願いいたします。

ここはそれぞれが見開きでその表の説明になっています。貸借対照表になります。左のページの上段には各表の借方貸方形式で、その合計等の表示をいたしまして、下段に資産の部、負債の部と項目名、それから項目ごとの数値を表記してございます。そして右ページには、市民1人当たりの金額やその概要を取りまとめたものでございます。

このバランスシートについて申し上げます。

借方の資産合計は1,760億8,772万円、貸方の負債の合計は712億9,083万円で、資産から負債を差し引きました純資産、この網かけの部分でございますけれども1,047億9,689万円となりました。

純資産は前年度と比較いたしまして54億6,000万円ほどの増となっておりますが、これは中央病院の建設等によるものが大きな影響でございます。

次に、5 ページ、6 ページをお願いしたいと思います。

2 の行政コスト計算書です。

借方の経常費用は624億5,633万円、貸方の経常収益は341億4,322万円で、経常費用から経常収益を差し引きました純経常費用、これは網かけの部分になりますけれども、283億1,311万円となりました。この純経常費用は前年度と比較いたしまして17億4,000万円ほどの減となっておりますが、これは中央病院の医業収益の増等が大きなき要因でございます。各項目については下で、人件費からずっと積み上げた数字が入っております。

次に、7、8 ページをお願いいたします。

ここでは純資産の変動計算という表になります。上段の期首純資産残高、これは21年度末の現在高でございますが、993億3,658万円でありました。当期純資産変動のうち、財源の変動、資産の変動、その他純資産の変動の三つなんですけれども、この財源の変動については、純行政コストや固定資産などへの財源措置額が市税や地方交付税などの財源調達を上回らして94億3,639万円のマイナスになります。

次の資産の変動ですけれども、固定資産や長期金融資産の増加が減価償却などによる減少額を上回らして、187億2,144万円のプラスとなっております。

次のその他純資産の変動については、開始時未分析残高の減価償却による減少によりまして38億2,474万円のマイナスとなっております。

これら3点の当期純資産変動額の合計は54億6,031万円で、下段の期末純資産残高は1,047億9,689万円となります。この期末純資産残高は、先ほど説明いたしました一番最初のバランスシートの右下にある純資産と突合いたします。

次に、9 ページ、10 ページをお願いいたします。

4 の資金収支、キャッシュフローになります。上段の期首資金残高、21年度末の現在高でございますが82億6,357万円でありました。当期資産収支額のうち、経常的収支と資本的収支それから財務的収支の三つからなりますけれども、経常的収支につきましては、市税や地方交付税、業務収益などの経常的収入が人件費や物件費、補助費など経常的支出を上回らして、101億3,770万円のプラス。次の資本的収支については資産形成に伴う資本的支出が資産売却などの資本的収入を上回らして202億3,074万円のマイナス。次の市債などの借入れや返済状況を表した財務的収支については、資産形成に伴う市債の借入れ等が市債などの返済額を上回らして、117億7,268万円のプラスとなっております。

これら3点の当期資金収支額の合計は16億7,964万円で、下段の期末資金残高、これが99

億4,321万円となります。この期末資金残高は、先ほど説明いたしました1番目のバランスシートの金融資産の資金と突合いたします。

以上が本年度の財務4表の簡単な説明となりますが、作成いたしましたデータはホームページ等を通じまして公表いたしまして、市民の皆様旭市の財政状況、財政の健全化につきましてご理解いただけるよう努めてまいりたいと考えております。今回は、それぞれの概要が分かるように、右側にはそれぞれ説明を加えたものとして昨年よりは見やすいものとして作成したつもりでございます。

あと次に、お手元に22年度の決算状況、この速報版がお配りしてあるかと思えます。これは毎年度総務省に報告いたします地方財政状況調査——決算統計ですね——これに基づき作成されているもので、全国の地方公共団体の決算状況を統一的に比較するため、共通した計算方法によって作成されております。

よって、歳入歳出総額等は決算書の数値と若干異なっていることをご理解いただきまして、内容につきましては後ほどご覧いただければと思えます。

以上でお配りしてありました資料の説明を終わらせていただきます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

ただいまの説明に対し、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、ただいま説明を終わります。

しばらく休憩いたします。

休憩 午前11時17分

再開 午前11時20分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

続いて、議案第8号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
水道課長。

○水道課長（小長谷 博） それでは、決算書の15ページをお開きいただきたいと思います。

主な工事ということで15ページには載せてございますけれども、三川・野中地先、これは

3年間の事業でございまして、22年、2年目ですけれども、これは2,352万円ということで、契約の相手方は向後建設とやっております。

それと水道の集中監視システムの整備工事ですけれども、これは金額が4,480万3,500円、これは東芝とやっております。これは4配水場の施設の情報を旭市の水道課で一括で管理できるというシステムを構築したものでございます。

次、16ページですけれども、保存工事の概況ですけれども、これは旭配水場1号ポンプのインバーターが故障しましたので、このインバーター制御装置の修繕をいたしました。これが682万5,000円で荏原商事。

それと干潟配水場工業団地配水流量計の修繕工事ですけれども、これも荏原商事で362万2,500円。

それから干潟配水場配水塔防水工事、これが637万350円で丸美屋建設でやっております。それと27ページをお開きいただきたいと思います。

27ページに特別損失というものが一番下の欄にありますけれども、その中で臨時損失、これが災害臨時損失でございまして、これは大規模震災、水道管が壊れまして、その応急工事を行ったものが2,752万2,704円と、これは税抜きの数字になってございますけれども、本復旧工事については23年度、本年度着手してございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第8号について質疑がありましたらお願いいたします。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 今回の決算と直接の関係ではないんですけど、実際に経年劣化していると思うので、一番古いところと一番新しいところの設備についてちょっと、配管とかそういうのについてお知らせ願えませんか。

○委員長（向後悦世） 水道課長。

○水道課長（小長谷 博） 1市3町の中で、干潟町を除いては事業認定が昭和54年度、工事、通水始まったのが企業団からいただいたのが56年度、これは旭市と海上町、飯岡町は全部同じでございます。それと干潟町は49年度に簡易水道がありまして、その簡水のときの、当時、簡水のときは山の水というのを使っていたそうですけれども、そういう管が、干潟町はかなり古いのがあって、最近、旧干潟町区域が漏水のちょっと多い状況でございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） ということは、もう耐用年数が大体来ている可能性がある。これからも、今回の場合、臨時で災害のために前年度で3,000万円くらいの収支があったけど、これからも継続的に出ていく可能性があるということですか。

○委員長（向後悦世） 水道課長。

○水道課長（小長谷 博） 水道管の耐用年数は40年と言われてはいますが、例えば49年にしても、今、昭和86年ぐらいですか、昭和で換算しますと、そうするとまだ三十何年、40年までは行っていないんですね、干潟町でも。他市町村も水道管というのは40年といっても、大体60年から80年、倍ぐらいは使用しているということなんです。ですから、そう早く全面改修というような形にはいかないと思います。漏水が出てきたところを随時修繕していくというような形になろうかと思っています。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） いいですか。

平野委員。

○委員（平野忠作） ちょっとお聞きしたいんですけど、昨年ですか、旭市の水道本管の耐震性がゼロということで、たしか千葉日報か読売か、出されたんですけども、特に我々が今危惧しているのがこの配水場から旧銚子街道ですか、その管がかなり危ないなんかと言われてたけど、今回の震災に対しては、漏水とかそういうのは発見はなかったのでしょうか。その辺どうでしょうか、お願いします。

○委員長（向後悦世） 水道課長。

○水道課長（小長谷 博） ここは基幹管路というんですけども、基幹管路の耐震性の調査というのは約700メートル、691メートルあるんですけども、ここはK型という準耐震管になっているんですけども、地盤によっていいところであれば、これは耐震管といって認められる管なんです。ですから、今回も全然異常はなかったんで、こここのところの道路も壊れていませんから、地盤がよければ耐震管として認められ、ただ旭市全体が砂地ということで、地盤上どうかということで、うちのは耐震性ありというとらえ方で調査には報告はしていないんですけども、K型という型は地面がよければ耐震性があるという報告でもいいということになっているんですけども、砂地ということで、うちのほうは一応特に計上していないんですけども、今現在は大丈夫だと思います。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

(発言する人あり)

○委員長(向後悦世) 挙手してください。

病院経理課長。

○病院経理課長(鈴木清武) それでは、先日補足説明いたしましたけど、再度、議案第9号について、さらにご説明を申し上げます。

まず、決算書の26ページをご覧ください。

前年度決算との比較をご説明申し上げます。ページの上段になります。

病院事業収益ですが、前年比5.7%増の17億9,300万円の増加になっております。

主な内訳としまして、ちょうど上から3行目になります。入院収益が対前年度比11.0%増の15億1,300万円増となっております。その要因といたしまして、診療報酬が10年ぶりにプラス改定されたこと、診療報酬については1.55%のプラス、薬価については1.36%マイナス改定、ネットで0.19%のプラス改定という形になっています。

2番目としまして、7対1看護基準及び急性期看護補助加算、これが併せてこの22年度取得になりました。

それから、もう一つとしましては、従来は外来で実施していましたが、こちらを入院患者がベットサイドで、いる間から作業療法士それから理学療法士により、ベットサイドからのそういった機能回復訓練を実施しております。これをやることによって、入院患者については早くリハビリ等に専念されて、結果的に退院等も早くできるというような形になりまして、在院日数もそういうことにより短くなる。それから病床回転率も結果的には高くなるというような形で収益増につながるという形になります。

以上により、入院単価は5万5,145円となりました。前年度比に対しては8,033円の増加になっております。

また、一般の稼働病床利用率は21年度は93.9%に対し、22年度は94.7%、前年度比0.8%上昇しております。ほぼ年間を通じて満床状態であったということになります。

次に、表のほう真ん中なんですが、負担金交付金欄をご覧ください。

負債3部門に対する国・県からの交付金といたしまして、対前年度決算比15.1%増の2億

3,900万円の増加となりました。主な増加要因の内訳としまして、普通交付税として病院の病床割、こちらが1億600万円、子ども手当5,200万円、それから特別交付税、それから病院病床割、精神のほうですが、こちらで3,100万円、感染病床で2,400万円などがございます。

続いて27ページをお開きください。

病院事業費用になります。

全体では2.0%増の6億2,400万円の増加であります。主なものといたしまして、上から3行目、給与費ですが、計画では7対1看護基準取得は平成23年度から実施する予定でありました。これが1年前倒しで実施するべく看護師確保に努めた結果、前年度比25人増加いたしました。就業者数は25人、うち附属の看護学校からは50人入っております。

それから、看護師25人が新人を採用することで、約1億円程度の給与費は増加となります。あと子ども手当支給額は5,200万円となっております。

一方、公務員の給与費及び賞与関係の引き下げ勧告が人事委員会から出され、ドクター以外の職員に対して減額支給を実施した結果、給与費支出総額では、対前年度比2.5%増の3億2,900万円増となりました。

次に経費、上から5行目であります。こちらをご覧ください。

対前年度比4.7%増の1億3,600万円増加しています。主な内訳としまして、消耗備品費が対前年比2,800万円増加、新棟移転に向け、耐用年数が1年以上、金額10万円未満の支出が増加しております。くくり付けの棚など、こういったもので使っております。

それから、燃料費が対前年比1,900万円増となっております。これは重油価格の高騰によるものです。

修繕費が対前年比6,500万円増加、これは第9清明寮の大改修工事を実施いたしました。これは部屋を42部屋から25部屋に、壁をちょっとぶち抜いて、こういった改修工事をしております。

それから、委託費が対前年比4,200万円増加、新棟引越し業務委託、これはJR物流に1,800万円。それから電気保安業務の委託、これが500万円。検査の外注ですね、こちらが1,700万円。それからCT・リニアックの保守料1,500万円、これは新規導入後は1年間は保守料は無料なんですけれども、1年たつとこういった保守料がかかります。

以上により、平成22年度の病院事業会計における営業活動は、平成23年における新棟移転へ向けての足固めをしながらも当期純利益、当初予算を大きく上回る16億2,300万円余りを計上することができました。

当院は昭和28年に開院し58年経過しておりますが、一度も赤字を出すことなく黒字経営を続けております。公立病院改革プランにおける22年度利益は当初マイナス7億1,100万円に対し、23億3,400万円増の16億2,300万円のプラスとなっております。過去最大の利益を計上することができ、引き続き健全な経営を維持しております。

以上、よろしく願い申し上げます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について質疑がありましたらお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 一つだけちょっとお願いいたします。

7対1看護を1年前倒しで取得したが、病院としてはどのような確保のための努力をしてきたのか、ひとつお願いいたします。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 7対1看護を取得するのにどのような努力をしたかというご質問でございますのでお答え申し上げます。

7対1看護を維持するために、主に東北地方を中心に各地の看護学校をまわっております。看護学校を回りまして、その学校の教務主任に対して、当院、旭中央病院の教育体制すとか、研修制度を紹介しております。と申しますのはやはり若手の看護師さんは、現状在学が多くて、研修関係は非常に少ないというのがちょっと問題になっておりまして、なかなか不安であるということがありまして、その教務主任に旭中央病院の教育体制あるいは研修制度は非常にしっかりしているということを訴えております。

また、その東北地方を回りますときに、各地でほとんどが県庁所在地なんですけど、そこで看護学生を対象にした合同説明会というのがございます。これは東北地方、病院数が少ないということもございますけれども、関東、全国の病院がそこに集まって、学生あるいは教務主任と面談をしたりしてということで、合同の説明会というのがございます。これも参加しております。

これは当院に関しましては採用官がおりますので、その採用官が各地の看護学校の教務主任とのアポイント、説明あるいはその合同説明会に参加しまして、看護学生の募集に努力している、努めているというのが今の現状でございます。

ちなみに学校の訪問した都道府県なんですけれども、北海道もございますけれども、全部で11道県と、そして訪問学校数が63校でございます。また、合同説明会、これがございます

のが9回私どもの病院が参加をしております。

ということで、やはり看護学校、旭中央病院が持っています附属の看護学校だけでは、なかなか人力的にはすべてが確保できない。あるいはどうしてもその看護学校、各地に回って、そして旭中央病院のPRをするというのが採用官の主な任務となっていて、できるだけ病院の知名度を上げて、そしてより優秀な学生を採っていきたいという動きで7対1を維持していきたいと頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 貸借対照表の12ページ、前はこれ棚卸しになっていたと思うんですけど、貯蔵品と棚卸しはイコールなのか。

それとこの決算、大分いい決算になっておりますけれども、再整備計画等の、初期の再整備計画書の中とどれだけ離れているか、利益が上離れしているかということもちょっとご報告お願いしたいと思います。今、ちょっと再整備計画書がないので。

○委員長（向後悦世） 滑川委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） ちょっと棚卸しの件で説明します。

以前、やはり滑川委員から質問があったときに、貯蔵品関係について、棚卸しができるようになったところからやっていくという形で、これについては以前やったところと今現在棚卸しやっているところは全く変わっておりません。

貯蔵品については、この毎年2回、9月それから3月については、監査委員事務局の方も見えていただきまして、その棚卸しの状況について見ていただいております。

そういった中で、平成22年度の3月末の貯蔵品は2億5,215万5,299円ということで、前年と比べると687万9,000円ほど増加しております。

この薬品、それから診療材料、消耗品、それから消耗備品、印刷製本、給食材料費、職員被服費、こういったものが主な内訳になっております。

以上です。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 答弁漏れ、お願いします。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 再整備計画とともに、あと経営改革プランというものも一緒に併せて出しております。

この経営改革プランでは、この22年度当初のときは7億1,100万円の赤字が出ますよという形になっておりました。こういった中で、今回22年度の決算については、今言ったように16億2,300万円ということで、当初の計画比、23億3,400万円ほど上振れした数字になっております。

これでよろしいでしょうか。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） そうですね、鈴木課長もご存じでしょうけれども、大分前に毎年毎年棚卸しを増やしていくというようなあほうなことを言いましたけど、現実には9,800万円からたった2年で2億5,000万円くらいまでプラスになっていますけど、それ以後はずっとほとんど、去年は言わなかったんですけれども平らでしょう。これが正規の棚卸しだったんじゃないですか。

○委員長（向後悦世） 滑川委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 棚卸しのものについては、以前も滑川委員の質問に対してお答えしておりますが、システムの関係とか、そういった形の中で棚卸しができるようになったところから棚卸しをさせていただいたというのが、これで3年前から棚卸しをする場所は変わっておりません。ただ、棚卸しの方法がSPDというものを導入しまして、SPDの場合には在庫管理をしております。在庫が減ると、その分を都度補充していくという、そういうやり方でやっておりまして、毎日毎日が実際には棚卸しができているというような形になります。

そういった中で、現在3月末それから9月末については、棚卸しについて、監査委員のほうでどこを見たいのかお聞きしまして、そういった中での時間を合わせてその場所を見ただいただいているというような状況でございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） それはわかりません。

先ほど23億円を上離れしているということであれば、計画でいうと、借りている金というのはずっと同じように返しているわけですがけれども、この計画書の中からこんなに上離れし

ているということは、これからこの利益を再投資していくことなんですか。

○委員長（向後悦世） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 利益については、病院の場合には病院だけの経営努力で利益が発生できるものでもないし、診療報酬の改定等によって動くような形になります。そういった中でできるだけ病院としては、与えられた環境の中で経費削減を果たしながら利益を上げていきたいなというふうに思っております。

（発言する人あり）

○病院経理課長（鈴木清武） 失礼しました。再投資云々ということですけど、今現在も再整備事業をやっておりまして、そういった中で余剰資金がどうのこうのというよりも、今あるお金についてはある程度の資金はやはり病院としては持っていないといけないので、そういった中で毎年医療機械も定期的には購入しなきゃいけないという形の中でやっております。以上です。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） 1点だけご質問させていただきます。

ページで12ページ、説明資料のその中の中段くらいに未収金という欄がございますよね。イ、ロ、ハ、この累計額がたしかこれ67億9,400万円、これ三つ合わせると。これが多分毎年増えて膨大になっていると思いますけれども、これの処理のほうはどのように努力なされているのか、それとも、これは黙認なのか、その辺が分かればご説明のほうよろしく願います。

○委員長（向後悦世） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 今言ったその未収金といっても実際の医療の未収金というものと診療報酬で出たやつというのは、要は2か月間は資金がまだ入ってきておりませんので、要は3月末の時点では2月分と3月分が未収という形でなっております。多分今、委員が言われているのは、不納欠損とか、そういうところかなと思います。じゃ、担当課のほうから……。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは、今の件についてお答えします。

それでは、先ほど経理課長から話がありましたとおり、未収金というのは、一般企業で

いう売掛金ということで、これは必ず国が保障するお金が月ずれで入ってきますということですのでご安心ください。

そして、あと先ほどお話ししました未収金は、今はこの貸借対照表に載せない。といいますのは、俗にいう損益に関しましては、損益計算書上の算式になりますので、現在では3条のほうで計上しなさいということになっていまして、そうしませんとこの未収金がいつまでたっても償却できないということがございますので、この辺はちょっと議員の先生も今までの公営企業ですと、もうすべて何か資産勘定に載せていて不良債権化していたということがございますけれども、これはもう徐々に病院としてはなくして行って、その辺に関しましては損益計算書の中で、あくまでも健全経営を目指してやっていくということを前提に動いておりますので、この辺ちょっとご理解いただきたいと思います。

現在ある未収金に関しましては、総合患者相談室のほうからちょっとお答えさせていただきます。よろしいでしょうか。

○委員長（向後悦世） 病院総合患者相談室長。

○病院総合患者相談室長（野口 稔） 総合患者相談室の野口です。

今現在未収金につきましては、約4億円のお金がなかなか患者さんからお支払いいただかなくて残っております。それで当院としましては、それを少しでも減らすべく努力、これは当然しております。どのようなことをしているかと申しますと、自治体のほうにおける高額医療制度、また貸付制度等を紹介して申請をしていただいたり、また、未収になりましたら各部署、外来、医事課等、また連携室のほうと相談しながら、患者さんと随時面談をいたしまして、分割での支払い等を応じております。このような対策をもって、随時面談をして防いでおります。

以上です。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

島田委員。

○委員（島田和雄） 質問させていただきます。

決算書の16ページの中で、本年度購入された器具備品等について記載されておりますけれども、この中で生体情報モニタリングシステム1億9,845万円ですか、それとMR Iはちょっと大体いつもやったことありますのでわかりますけれども、それからハイブリッド用手術台1億7,220万円、それとソフト開発、何と読むかちょっとわかりませんが、更新費1

億8,900万円、これらのものの説明ですか、こういったような新しいこういったものを導入して効果があるのか、ご説明をまずお願いしたいと思います。

それと先ほど滑川委員さんも質問しましたが、今年16億円余りの剰余金が出たといったような中で、当時再整備の説明の中では、いろいろな試算がされていたわけでありましてけれども、これは経営改革計画プランではマイナス7億円といったような見通しだったということですが、私が記憶していたプランではプラスマイナス微妙なところかなというのが22年度の決算ですか、そういったように考えていたわけですが、それが今回、診療報酬のプラス改定、あるいは7対1看護の基準の取得ですか、それらによって大幅な増益になったわけでありましてけれども、実際この診療報酬につきましては0.19%のプラス改正ということなんですけれども、0.19でこんな大幅な増益になるのかどうなのかというようなことなんですけれども、単純に0.19じゃなくて、これは……

(発言する人あり)

○委員（島田和雄） 0.19でいいですよ、0.19のプラス改定ということで、こんなに大幅な増益になるのかななんてちょっと疑問に思ったもので、当時の試算と今回の数字の何ていいますか、こういったものでこれだけのプラスになったかというのをちょっと説明してもらえれば。

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 今委員のほうから2点ほど。

1点目でございますが、医療機器のちょっと内容を説明してほしいということと、それからもう1点が先ほど0.19%の収入の診療報酬の改定でこんなに大きな利益を上げることは難しいんじゃないかとお話ございましたので、ちょっと細かい数字のほうは経理課長のほうから報告いたしますけれども、2年前にございました診療報酬の改定の考え方だけちょっとお話ししたいと思います。

全体では0.19で、ほとんど収入上がらないというような国が予算措置をしております。ただし、その中で急性期とそれから亜急性期といいます回復リハビリテーションというリハの部分だけは非常に厚く点数を設けました。そして、こんな言い方はあれですけれども、慢性期、その介護関係に関するものに関しては下げております。ですから、どちらかといいますと慢性疾患の慢性病院が非常に今度の改定で上げろと言っているのは、この前2年前にあった改定で非常に下げられたというような形で抑えておりますので、旭中央病院はすべて3次救急、急性期でオペもすごくやっているというところに関しましては、一時期、救急車のた

らい回し事件等がございましたので、国のほうが急性期病院ともかく点数を配布して、その中でちゃんと運営していきなさい。ですからお金を与えますよというのが、今回の改定でございましたので、イコール病院の収入が例えば0.19%しか全員が上がらないんだということではないということだけは、ちょっとご理解いただきたいと思います。

あとは経理課長のほうからまたご説明いたします。

(発言する人なし)

○委員長（向後悦世） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは機械の話をちょっと先行してお話ししたいと思います。

それでは、契約室の奴賀のほうより、この機械の購入、内容説明ということで説明いたします。

○委員長（向後悦世） 病院契約室長。

○病院契約室長（奴賀政志） 契約室奴賀と申します。よろしく申し上げます。

生体情報モニタリングシステムですが、病棟等にございます患者さんのベッドとかに心電図とかの情報とかを、ついている装置、その一式です。ハイブリッド手術台のほうは、手術台にCTがついて、そのセットになっている手術台のほうです。あと放射線情報システムのほうは、電子カルテシステムのほうに放射線の読影したものの情報を電子カルテのほうに読み込んで、その情報を電子カルテで見ながら読影するシステムでございます。

○委員長（向後悦世） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 22年度が大幅に増加したということについてちょっとご説明します。

当初予算では、約1億円程度の利益目標という形でスタートしておりました。そういった中で22年度は、当初は23年度から実施する予定でしたその7対1看護基準の取得を1年早めてやりましょうという形で、この7対1看護基準の取得が22年6月から取得しております。これは当初23年度の予定でいるということは、看護師さんはそれに伴って採用していくわけですけれども、その分、経費がずっとかかる形にはなるんですが、早く看護基準を取得することによって、今度はそれを収入に結びつけるという形ができます。これが22年度計画どおりというか、1年前倒しでできるようになったというのが一つ。

それから、これと同時に急性期看護補助加算というものがとれまして、これもやはり人を新たに採用することなく、今いる人をちょっと配置がえをすることによって、この辺もとれたのが一つ。

それとあともう一つ、先ほどもちょっと説明しましたが、リハビリ関係で、今までは外来での運動機能のリハビリが中心だったものを患者さんが入院している段階からリハビリ、ベッドサイドに出向いて、いろいろな手足の指のそういった機能訓練のリハビリをしたり、また病棟に出向いて、病棟単位でリハビリをしたりと、こういうことをすることによって、入院患者さんが早く退院できるというような形をとっております。

それと先ほど言ったように、10年ぶりに診療報酬がプラス改定で、結果的に0.19という形になりましたけれども、先ほど石鍋次長から話があったように、やはり急性期のこういった病院には、診療報酬も手厚くプラス加算されております。

こういったいろいろな理由により、今年度の利益が多くなったということでございます。以上です。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 具体的なこの数字をちょっと聞いたかったんですけども、その辺はちょっと分からないということでしょうか。いずれにしても、こういった16億円の利益が出たということは、すばらしいことだと思います。

当時のこの再整備計画のシミュレーションですか、収支計画のシミュレーションを見ますと、22年度はとんとんくらいだったんですよ。23年度はたしか20億円くらいの赤字になるといったような……

（発言する人あり）

○委員（島田和雄） いや、私の記憶というか、けさちょっと資料見てきましたけれども、たしか20億円くらいの赤字になるというようなシミュレーションだったと思うんですけども、それは減価償却費とかが大幅にこれ大きくなるんですよ。見積もっていたんですよ。そういったシミュレーションがあったんですけども、来年についてはこれだけの利益が出れば、それも吸収できるかなとは思いますが、その辺いかがでしょうか。

○委員長（向後悦世） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 23年度のこの予算についてはもう既にご存じだろうと思います。当初の計画比、約8,200万円のプラスという形で、この23年度の予算書はできております。

この改革プランでいきますと、この24年度は、来年ですけど6億7,700万円のマイナスという形になっております。ちょっとこの辺、県も、22、23、24と改革プランでは3年間赤字になりますよというのは議員の先生方も多分耳に残っているんじゃないかなと思います。ち

なみにまず、22年度7億1,100万円の赤字に対して16億円プラスになりました。それから23年度は、これ今現在やっている最中なんですけれども、改革プランでは9億2,500万円の赤字予想に対して、予算書の利益は8,200万円のプラスと。それから24年度は6億7,700万円の赤字予想という形の中でやっぱり改革プランはできております。こういった中で、いずれも当初計画比、大幅に増加するような形で収支のほうは行っております。

また、23年度についても4月、5月の引越し云々という中で、これは収入等は多少は落ちるという形の中で予算書も作っております。そういった中で活動して、6月、7月という形で順調に今現在も推移しております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 議案の審査は途中でありますが、昼食のため1時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 零時 3分

再開 午後 1時10分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

議案第9号について質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） いろいろどうもありがとうございました。

もう1点お聞きしたいことは、毎年いろいろとこの医療機器を購入しているわけなんですけれども、それに伴って当然これまで使っていた医療機器を処分すると思うんですけども、どういったような処分方法をされているのか、その辺についてちょっとお伺いしたいんですが。

○委員長（向後悦世） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 医療機器につきましては、通常ですと5年で償却という形で償却しております。ただ、その中で利用頻度の高いものについては、5年を待たずにして壊れるものもあります。こういったものについては特別損失なり、そういう形で償却をします。通常ですと今言ったように5年間で償却しながら使えるものは使うという形で、今回の再整

備にあたって、前、議員さんから言われたように使えるものは使っていただきますという話がありまして、今回事前に要は移転できるものとか、そういうものを調査しながらやっている。

以上です。

○委員長（向後悦世） 島田委員。

○委員（島田和雄） 処分は要するに決算書にはそういった処分料といいますか、中古でもどこかで購入していただけるとか、そういった部分で決算書に出てくるのはないのかなということなんですけれども。

○委員長（向後悦世） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 医療機器についての古いものを売却とかというものはございません。ただ、壊れたものとか、いろいろ入れ替えした中で、そういったものは新しい納入業者にそのまま引き取ってもらっているというのがあります。

○委員長（向後悦世） ただいまの説明でよろしいですか。ゼロ円。

ほかに質疑は。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） 病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） すみません、ゼロ円というよりも簿価のほうは多少幾らかでも残っていますので、それはゼロで償却しています。

○委員長（向後悦世） では、そういうことでいいですか。

島田委員。

○委員（島田和雄） 下取りとか、そういったようなことは。

（発言する人あり）

○委員（島田和雄） ないですか、分かりました。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） 本会議のほうで補足説明させていただきました。ほかには特にございません。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

平野委員。

○委員（平野忠作） それでは、ちょっと伺います。

数字的なことは伺いません。これはもうこれだけの、あれなので。今後のあれですけど、今のところそういう、それに対する、たしか市長は今年の議会の初めにいろいろ検討会議やるもので、その中でしばらく様子を見るということであったんです。また、ある新聞には、何か取り壊すというようなこと書いてございましたけれども、実態としては、これどのように考えているのか、まずそれを1点聞きたいと思います。これからどのように考えていくのか。

○委員長（向後悦世） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） 方針につきましては、市長のほうの政務報告並びに林議員さん、それから滑川議員さんの一般質問で答弁したということで、市の直接での、今までどおりの形態での経営に関しては無理があるという判断を市長のほうはされたということです。

今後ですが、民間の知恵をおかりできればなというようなことで、プロポーザル方式を少し前提に、賃貸ですとかを中心に何かいい方法を模索していこうということで考えています。

そこで、具体的に今何を考えているかというお話ですけれども、ちょっと頭が痛いのは、直すのか、直さないのか、直さないで借り手がいるのかどうかという、恐らく難しいなど。仮に直した場合に、借り手がない場合に無駄な投資になる。その辺も含めて、賃貸だけでいいのかということもありますので、あとは財産のいわゆる処分の仕方、それから公営企業会計でこのまま会計処理をしていっていいのかどうか等々について、今検討に入ったということで、今回初めてこの運営委員会及び議会のほうに市長が正式に方針を述べましたので、発表させてもらいましたので、これからもう少し具体的に事務的に入っていきなというふうに考えています。

以上です。

○委員長（向後悦世） よろしいですか、平野委員。

滑川委員。

○委員（滑川公英） いいおか荘につきましては、もう大分前から、もう3年も前から赤字になっているわけで、今年の本当であれば震災がなかったら8月に結果を出すというような答弁も市長はしていたわけですが、そういう中で、もしプロポーザルをやるというので

あれば、旭市は私一般質問で結構言っているんですけども、情報発信がすごく下手なんですよ。下手というより、やらないんですよ。その中でも、いいおか荘のホームページというのは一番活躍していたほうなもので、それを利用してしみじみやっていただければとは思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○委員長（向後悦世） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） ホームページのほうでまず発信していったらどうかと、そのように考えています。ただ、今、実は営業していない中で、経費をどこを削減できるかということを中心に経費の削減を図っています。

実際は、震災後に今営業しておりませんというような案内をしたまま、インターネットの通信料なりをずっと払っていたのがどうかということもありましたので、今回いわゆる削れる経費は全部削ろうという中に、いいおか荘のインターネットのほうの費用を解約したというばかりなんです。いずれにしろ、今度は旭市のホームページを使ってしっかりと情報発信していきたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

○委員長（向後悦世） 滑川委員。

○委員（滑川公英） ということは、旭市のホームページの中にクリックすればいいおか荘も出ているわけですよね。その更新というのは、何も業者に頼まなくても本当は自分らでできるわけですから、更新ページが必ずあるわけですから、それを使えばできるわけですよ。ですから今まで一番旭市のホームページの中でも活躍していたところなので、市長もプロポーザルでも本当に答えが来るかどうかということを心配しているんですよ。その辺でだからネットを活用するというのが一番安く上がるし、日本国じゅうのもし関心ある人には見てもらえるんじゃないかと思うんで、その辺のことを十分、お金かかるわけじゃないんですから、ぜひお願いしたいと思うんですよ。それがやはりこれからいいおか荘の改善していくのか、それとも売ってしまうのか、賃貸にするのかということも出てくると思うんですよ。

はっきり言っていいおか荘の検討委員会というのは役に立たないでしょう。やめるべきじゃないですか。だっていいおか荘の赤字のもとをつくっていたでしょう。はっきり言ってくださいよ。

○委員長（向後悦世） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） ホームページに関しましては、アドバイスのとおり善処していきたいと思います。利用して発信していきたいと思います。

委員会のほうのコメントに関しては、申し訳ありません。勘弁させてください。

○委員長（向後悦世） では、よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第10号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑を終わります。

議案の採決

○委員長（向後悦世） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第2号、平成22年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第2号は認定することに決しました。

議案第3号、平成22年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第3号は認定することに決しました。

議案第4号、平成22年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第4号は認定することに決しました。

議案第5号、平成22年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第5号は認定することに決しました。

議案第6号、平成22年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第6号は認定することに決しました。

議案第7号、平成22年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第7号は認定することに決しました。

議案第8号、平成22年度旭市水道事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第8号は認定することに決しました。

議案第9号、平成22年度旭市病院事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第9号は認定することに決しました。

議案第10号、平成22年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(向後悦世) 全員賛成。

よって、議案第10号は認定することに決しました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は全部終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせて

いただきます。

○委員長（向後悦世） それでは、以上をもちまして本委員会を閉会いたします。
大変ご苦労さまでございました。

閉会 午後 1時26分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会決算審査特別委員会委員長 向 後 悦 世

建設経済常任委員会

平成23年9月21日（水曜日）

建設経済常任委員会

平成23年9月21日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第11号 平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項

議案第14号 平成23年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決について

《付託請願》

請願第3号 地方消費者行政充実のための国による支援に関する請願

出席委員（7名）

委員長	滑川公英	副委員長	平野忠作
委員	高橋利彦	委員	日下昭治
委員	嶋田哲純	委員	伊藤保
委員	宮澤芳雄		

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 林一哉

説明のため出席した者（25名）

副市長	増田雅男	商工観光課長 兼国民宿舎 支配人	横山秀喜
農水産課長	堀江隆夫	建設課長	北村豪輔
都市整備課長	伊藤恒男	下水道課長	増田富雄
水道課長	小長谷博	農業委員会 事務局長	加瀬恭史
その他担当 職員	17名		

事務局職員出席者

事務局長 堀江通洋

事務局次長 向後嘉弘

主査 榎澤茂

開会 午前10時 0分

○委員長（滑川公英） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

台風15号が接近している中、大変ご苦労さまでございますが、よろしく願いいたします。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

なお、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 1分

（傍聴者入室）

再開 午前10時 1分

○委員長（滑川公英） では、休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、林議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

○議長（林 一哉） おはようございます。

常任委員会を開催していただきまして、大変ありがとうございます。

本日は、本会議におきまして付託いたしました一般会計の補正予算を含む2議案と、それから請願1件について審査をいただくものでございます。

どうか十二分なる審査をしていただきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。あいつとさせていただきます。ひとつよろしく願いいたします。

○委員長（滑川公英） どうもありがとうございました。

議案等説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

○副市長（増田雅男） おはようございます。

本日は、建設経済常任委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算のうちの所管事項、議案第14号、平成23年度旭市下水道事業特別会計補正予算の2議案でございます。執行部といたしましては、委員の皆様方のご質問に対しましては簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案可決くださいますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。

ご苦労さまでございます。

○委員長（滑川公英） どうもありがとうございました。

議案の説明、質疑

○委員長（滑川公英） では、ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月9日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第14号、平成23年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決についての2議案であります。

初めに、議案第11号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） それでは、議案第11号の補正予算のうち、商工観光課の所管事項について説明させていただきます。

補正予算書の10ページをお開き願いたいと思います。

まず、歳入のほうになります。

3目1節労働諸費県補助金の緊急雇用創出臨時特例基金事業費補助金1,332万9,000円の内容ですが、この事業は国の交付金をもとに、県に造成した基金を活用して、地方公共団体が民間企業、シルバー人材センター等への事業委託や、市が直接雇用するなどして、非正規労働者、中高年齢者等の一時的な雇用創出を図るものであります。今回、各課で行う事業は4事業の追加です。当初予算で計上済みの事業を合わせますと、全部で17事業となりまして、総事業費は1億1,498万円。新規雇用者数は75人となるものでございます。

続きまして、歳出のほうに移ります。

14ページをお開き願いたいと思います。

7款1項2目商工振興費の説明欄1番、商店街復興支援事業であります。震災で落ち込んでいる消費を刺激するため、旭市商業振興連合会が行う今年度第2回目のプレミアム付共通商品券発行事業費補助金を550万円。また、震災で特に被害の大きかった飯岡地区のイルピーススタンプ会へのスタンプ機器購入助成100万円、及び年末に開催予定の復興イベント経費の助成30万円。その合計金額で680万円となるものでございます。

なお、今申し上げました3事業は県の補助金を同時にいただいている。これは商工会のほうを経由して、直接補助をされる事業でございます。

続きまして、17ページをお願いします。

11款5項1目その他公共・公用施設災害復旧費、15節工事請負費990万7,000円は震災により津波の被害を受けました海岸施設につきまして、早期改修を進めているところですが、今回の補正予算には萩園公園駐車場が瓦れきの撤去が終了したことから、その駐車場内のトイレの修繕費用に933万8,000円。また、飯岡地区にあります下永井トイレは地理的なことから、修繕せずに撤去をするもので、撤去費用56万9,000円を計上させていただきました。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、補正予算の農水産課関係の所管につきまして、補足の説明をさせていただきます。

補正予算書のほう、最初に歳入関係9ページのほうをお目通しいただきたいと思います。

9ページの7目のところに災害復旧費国庫補助金が記載がございます。5節の農林水産施設災害復旧費国庫補助金1,653万3,000円でございます。これにつきましては、国のほうの査定が終わりまして、いいおか荘の前の県道沿いに保安林がございます。保安林の南側、海に面したところの防風柵、高さ3メートル60の柵がすべて今回の災害で大破をしたと。これを国の補助金をいただいて、3分の2であります、いただいて今回事業実施をする、そういうことで補助金が確定した内示を受けたものでございます。

さらに、10ページのほうをお願いいたします。

この中に、4目の農林水産業費県補助金、説明欄にあります農産産地強化対策事業費補助金でございます。これにつきましては、県の単独補助金でございます。種子、種ですね、あるいは産地育成型の補助金として、3分の1以内、農業者に補助金が出るものでございます。

この事業の補助金を受けるものでございます。

さらに、その下に寄附金がございます。農林水産業費寄附金150万円でございます。これにつきましては、生活クラブという消費者の、実は組織があるわけですが、その虹の街、ここから150万円、農業振興ということで寄附をいただきました。そういうところで計上させていただきました。この虹の街につきましては、旭市を食べて消費者が応援しようということで、物としましては卵です。卵を食べて、食べたお金の1%を市のほうに農業振興費として寄附をいただくと、そういうようなことであります。今回目標としては4億食べるということです。4億食べますと400万円になります。今回取りあえず150万円ということで寄附をいただいたものでございます。

それでは、歳出関係につきまして、順を追って説明をさせていただきます。

13ページの6款農林水産業費、この中の農業振興費から説明をさせていただきます。説明欄にあります1番目としまして、豊かな産地づくり支援事業でございます。これは先ほどの県の補助金3分の1いただきまして、JAちばみどりの海上稲作組合、ここで種もみを栽培しております。そこで、野毛取り機ですか、これを導入したいというようなことでございます。事業費的には313万9,500円、消費税を除きまして3分の1、県から支援を受ける。99万6,000円を補助金として交付するものでございます。現在、24町歩程度を作っております、これをさらに面積拡大して28町歩程度にしたい、そういうようなことで、より高品質な種子を作るということで事業展開をするものでございます。

その下に、旭市産農水産物魅力発信事業ということで150万円記載がございます。これにつきましては、先ほどの生活クラブからいただきましたお金の部分で農業振興を図ろう、そういうことで、次のページの14ページ、需要費に69万円、役務費の5万円、委託料に71万円、使用料及び賃借料に5万円、150万円補正を計上させていただきました。これにつきましては、現在、3月の例の原発の事故等もありまして、いろいろ旭市の農産物の売上げも低迷している。そんなことで、農産物のPR、さらには旭市の魅力を農業あるいは水産業の部分の現場で何か体験していただく、そういうようなことで、体験ツアーの実施委託、そういうことで今回組まさせていただきました。お金をいただいて旅行商品として何か体験ができないかどうか、そういうようなことで一部委託をさせていただくものでございます。

それと、農水産物の加工委託料につきましては、飯岡の貴味メロン、これを菓子類、あるいはいろんなゼリー類、そういうものに加工できないか、そういうことで、加工委託料を組まさせていただきました。あるいは、旭市の農産物のPRということで、需要費、印刷費等

につきまして計上させていただいたものでございます。

さらに、16ページのほうをお開きいただきたいと思います。

16ページに農林水産施設災害復旧費がございます。工事請負費、これにつきましては、2,750万円、先ほど申しましたいいおか荘の前の保安林、長さ的には212メートル、その高さ的には3.6メートルの防風柵が実はありまして、すべて被害があったと。これを撤去しまして、新たなものに国の支援を受けまして設置をするものでございます。この保安林につきましては、一部、23年度事業としまして県に支援をいただきまして、県が保安林の植栽を、植え直しをする、そういうことで東側から取りかかっていただけ、そういうことになっております。若干、盛り土もするというので、今進めております。そういうことで、この事業につきましては、倒壊した防風柵の撤去並びに設置工事ということでご理解いただきたいと思います。

それと、その下に水産業用施設災害復旧費がございます。140万円。中身的には飯岡漁港で大量の、実は瓦れきが出ております。その瓦れきの処分というようなことで、匝瑳市が同額の50万、旭市が同額の50万円、あと、海匝漁協の負担、そういうことで漁業者の負担がなるべくないような、少ないような形ということで、今回両市で支援をさせていただく。そういうところで計上させていただきました。

さらに、負担金補助の中の140万円のうちの90万円、これにつきましては、被災しました漁船の復旧費の補助でございます。漁船につきましては、ほとんど実は保険金等で修復ができるということで聞いておりました。ただ、一部の漁船については、保険金で賄えないという、そういうようなことが出てきましたので、その賄えない漁船の修復につきまして2分の1、実際に経費がかかったものから保険金を引きまして、残った部分、その部分について2分の1、今回市のほうから支援をさせていただきたい、そういうことで90万円計上させていただきました。

以上で、農水産関係の補足説明を終わります。

○委員長（滑川公英） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） それでは、都市整備課所管の補正予算につきまして補足説明をさせていただきます。

補正予算書15ページになります。

まず、8款4項1目住宅管理費でございますが、今回の補正につきましては、説明欄1の緊急雇用創出仮設住宅管理人設置事業としまして、仮設住宅に管理人を設置することに伴う

経費459万3,000円を計上したものでございます。この件につきましては、政務報告並びに議案質疑でもご説明をしてございますけれども、現在の仮設住宅の状況であります。飯岡地区の仮設住宅には136世帯、議案質疑のときより1世帯減ってございまして、136世帯、146室でございます。それから、旭地区がやはり47世帯でございまして、50室。こちらは満室の状況となっております。

この対応ですが、これも政務報告でも申し上げましたが、70歳以上の高齢者だけの世帯、これが30世帯ございます。また、そのほかに要介護や障害者のいる世帯、これらも30世帯という状況でありまして、これらの皆様方の生活支援というのは大変重要なものとなっております。

これまでは、市の職員がその都度対応していたわけでありまして、今般、先ほど商工観光課長から説明がございましたように、県の緊急雇用創出事業を活用いたしまして、それぞれの集会所に専任の管理人を駐在させまして、入居者の要望等を的確に把握するとともに、安否確認や敷地内の清掃、それから、市からの回覧広報誌の配布などを行う業務を予定しているところでございます。10月から募集を開始をいたしまして採用していきたいと、このように考えております。

次に、17ページをお願いいたします。

11款3項2目都市計画施設災害復旧費でございまして、説明欄1の工事請負費に1億7,577万円を予定したものでございます。今回の東日本大震災によりまして被災をいたしました二つの公園、これは袋公園と川口沼親水公園でございますけれども、袋公園分としまして9,345万円、川口沼親水公園分としまして8,232万円を予定したものでございます。復旧工事の内容でございますけれども、袋公園では護岸の復旧が主でございまして、延長は約644メートルを予定しております。また、川口沼親水公園につきましては、護岸の復旧工事として349メートル、それから、園路の復旧工事として2,105平方メートルを予定しているものでございます。

この財源内訳でございますが、17ページの左から5行目が補正の財源の内訳になります。二つの公園合わせて、国庫支出金で7,583万5,000円。それから、地方債、災害復旧債ですが、これで8,250万円、一般財源は1,743万5,000円、これが財源の内訳でございます。

都市整備課からは以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（滑川公英） 担当課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

日下委員。

○委員（日下昭治） 都市整備課長に説明いただきました15ページの仮設住宅管理人設置事業の関係ですけれども、それらについて当然、臨時採用ということだろうと思いますけれども、その辺の採用基準とか、いろいろなものが、もしありましたらお願いしたい。それと、人数だとかその辺のものもあろうと思いますので、その辺をお願いしたいと思います。

それと、ちょっと勘違いしていて、今説明受けて初めて感づいたわけですがけれども、農水産課長、13ページの旭市産農水産物魅力発信事業ですか、これと実は14ページにまたがっていたもので、違う事業だと思っていたんです、今まで。初めて説明聞いて、私、今初めて感づいたんですけれども、これの内容がこっちに、14ページにあるんですけれども、うっかりしたらこの辺、本会議でのみだと、今初めて私も、私だけかもわかりませんが、こういうページまたがるときにできれば、本会議の説明でお願いしたいなと思うんです。今、私初めて見ていて、別の事業かなと思って今まで臨んでおりましたので、こういったときに、もしできればそういうことをお願いしたいなと思います。それは、たまたま私だけかもわかりませんが。

それと、歳入の関係で先ほど労働費の県補助金ですか、その辺は商工観光課長、説明いただきましたけれども、その内容ちょっとメモするのなかなか追いつかなくて、ちょっと見逃した部分が多かったわけですが、当初予算との兼ね合いが入ってきますよね。その辺、もしできれば、後でもいいですので、内容的に当初予算のこことここが含めてということで、何か文書でいただければありがたいなと思うんですが、その辺は、もし可能であれば結構ですが、もしできれば、その辺をお願いしたいなと思いますけれども。

これは質問ではありません。できれば、そういうことをお願いしたいと。

○委員長（滑川公英） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） 説明が不足で申しわけございません。

本会議でも議案質疑でお答えしていたんですが、全体の採用の枠としましては4名を予定しております。そして、飯岡の仮設の集会所に2名、それから、旭の仮設の談話室に1名を駐在させまして4名を採用しますので、輪番制で週1日ぐらいは休みをとらなきゃいけないのかな、あるいは2日とるかどうか、それにつきましては、採用の状況と輪番制の対応の中で検討していきたいと、このように思っております。

それから、条件であります。これも申し上げたんですが、今回の震災によりまして、まず、被災をされて失業されている方、これが、まず優先になります。また、なおかつ、飯岡、旭

地域の被災地域で、もちろん罹災証明書の交付を受けられる方、これは一部損壊以上になりますけれども、そういった方で職を求めている、求職されている方を対象にしたい、このように思っております。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） では、日下委員のほうからおっしゃられました13ページ、旭市産農水産物魅力発信事業、これが次のページにまたがっているということで、今後ちょっと留意して作成に努めてまいりたい。また、どうしてもまたがる場合につきましては、今おっしゃったようなことにつきまして、関係課と協議したいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（滑川公英） 商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） それでは、先ほどの歳入の緊急雇用の関係ですけれども、先ほど全部で17事業、当初予算と合わせますとあります。今ここで説明してもちょっと大変ですので、後日、資料としてお配りしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

○委員長（滑川公英） そのほかには。

（「なし」の声あり）

○委員長（滑川公英） では、特にないようですので、次に移りたいと思います。議案第11号の質疑を終わります。

続いて、議案第14号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（増田富雄） 議案第14号でございますが、本会議で申し上げましたとおりでございます。補足して申し上げることは特にございません。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（滑川公英） 特にないようですので、議案第14号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（滑川公英） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（滑川公英） 全員賛成。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

議案第14号、平成23年度旭市下水道事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（滑川公英） 全員賛成。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（滑川公英） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（滑川公英） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

下水道課長。

○下水道課長（増田富雄） それでは、下水道課のほうからご報告いたします。

お手元に配付してございます旭市公共下水道事業計画書の概要につきましてご説明いたします。

現在の認可区域202ヘクタールの整備は平成23年度までに整備をすることになっておりますが、22年度末の整備済み面積は167.6ヘクタールで、残り34.4ヘクタールを認可期間内に

整備することが困難であるため、認可区域面積202ヘクタールは変えないまま、工事期間だけを4年間延長する変更認可申請に必要な計画の見直しを行いました。

変更認可申請の主な内容について説明いたします。

1 ページをお開きください。

表1の処理区域、認可区域の面積は202ヘクタールで変更ございません。

表2の吐口調書は計画放流量で、毎秒0.052立方メートルで変更ございません。

表3は管渠調書で、6,935メートルになり、255メートルの増になります。

2 ページをお開きください。

変更認可の概要書でございます。

表中の6行目、認可年度ですが、既認可期間は平成5年度から23年度であります。変更認可では27年度まで延長の予定でございます。

7行目、全体計画人口です。2万4,700人から2万2,200人で、2,500人の減となります。

8行目、認可処理人口です。6,600人から6,000人で、600人の減となります。

3 ページをお願いします。

表中2行目、晴天1日平均汚水量でございます。3,710立方メートルから3,220立方メートルで、490立方メートルの減になります。

11行目、処理場の晴天日最大処理能力6,200立方メートルは変更ございません。

以下、水質、放流先等には変更ございません。

4 ページをお願いします。

下水道事業に関する財政計画書になります。表中の赤の表示は、前回の認可のときの数値でございます。

表をご覧ください。

左側の表が施設別の建設費の内訳。右側が維持管理費、起債償還費になります。22年度までが実績で、23年度以降は予定額となっております。

5 ページをお願いします。

財源内訳に関する資料でございます。

6 ページ、最後になります。

公共下水道計画図でございます。年度別の面整備計画となっております。

以上、簡単でございますが、説明を終わらせていただきます。

○委員長（滑川公英） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、すみません、農水産課から2点、ご報告というような部分でお聞き取りいただきたいと思います。

1点目は、今回の震災で園芸施設災害復旧支援事業、こういう事業が今展開をされております。これにつきましては、ご承知のように、千葉県が単独で今回の震災に対しまして、施設園芸、これが大分、被害が起きたと、そのようなことで、災害救助法の適用を受けている市町村に対して、被災を受けた農業者、あるいは法人に対して、県の予算で施設復旧等につきまして2分の1を支援する、そういう事業でございます。

事業費、補助金ベースで1億円、県が予算を獲得をしたと。特に、これは旭市に向かって作っていただいたということで理解をしております。現在の申請の状況でございます。現在、市内では29戸の農業者の方が、今、手を挙げて、この事業に取り組んでいただいております。中にはちょっと、手を挙げているだけけれども、なかなか役所にお見えいただけていないという方もいますけれども、いろいろな書類、あるいはいろいろな考え方がちょっと変わってきているのかなと、そんなことで、ただ、29件受け付けをしております。

補助金ベースで現在、8,300万円ほど、手を挙げて、県のほうにご連絡をしております。あと残り1,700万円、実はこれは県のほうで残っているよということで、そんなことで、もし、そういう被害のあった方、ただ、これは100万円以上の大きな災害のあった方、それと、施設を再建するのであれば、今まであった面積等の8割以上を確保する、そういういろいろな条件もございますけれども、まだ県の補助金が残っているということで、農水産課としてはこれからさらに農業者に情報の提供等をしていきたい、そういうふうを考えています。

1点、特に旭市のほうから、この事業では、マッシュルームの菌舎が該当にならなかったというのは、実は要綱であったわけです。ただ、マッシュルームにつきましても、施設園芸だということで、県にもご理解いただきまして、マッシュルームについては、追加で事業が実施をできる、そういうようなことで、大分マッシュルームの菌舎が傾いたという方もいらっしゃいますので、この事業で現在3戸の農家に取り組んでいます。JA等にも連絡をしておりますので、そういうマッシュルームの被害のあった農家には、さらに声かけをしていきたい、そういうふう考えております。

あと、2点目が、この秋に市内で産業まつり、いろいろ実行委員会等やりました中で、全員の方から、こういう年だからこそ、経済の復興を目標けていろいろ産業まつりを例年のように実施しよう、ただ、中身は工夫してということで、現在、期日が決まっております。いきいき旭・産業まつりにつきましては、10月30日、日曜日でございます。ただ、いきいき

旭・産業まつり、もし、この日が雨であればということで、今回は予備日を11月3日にセットをさせていただきました。ふるさとまつり・ひかたにつきましては、干潟中が相当被害、今グラウンド起きていますけれども、校長のほうからは十分、会場として使ってくれと。そういうことで、11月6日の日曜日。さらには、海上の産業まつりにつきましては11月23日の祝日。こういう3つのまつりを秋に予定をしております。いろいろ災害のあった年ですので、実行委員会の中で議論しながら、適切なまつりに努めていきたいなど。特に、11月23日につきましては、現時点での情報で、千葉県知事がこの日は一応予定は入れるということで、お越しいただける予定で、今組んでおります。

以上、2点ほど農水産課から連絡をさせていただきました。

○委員長（滑川公英） 下水道課長。

○下水道課長（増田富雄） 資料ございませんが、1つ下水道課のほうから工事の執行状況についてご説明申し上げます。先ほど、続けて申し上げればよろしかったんですけども、申しわけございません。

本年度予定しておりますイ網戸地先の旭中央病院北西周辺16.9ヘクタールの面整備工事につきましては、9月に管渠建設工事1本を発注したところでございます。工事にあたりましては、交通規制や騒音などご迷惑をおかけいたしますが、住民の皆様にご理解とご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） では、都市整備課から3点報告をさせていただきます。

1点目は、萬歳自然公園にあります展望台の保守点検業務についてでございます。この公園には、高さ12メートルの展望台があるわけでございますが、平成2年の設置でございます。建築後21年を経過する中、施設の一部に若干の破損状況が見られるということで、当初予算で予算をいただいていたものでございます。先般、9月2日付で日野建築設計事務所に業務を発注をいたしまして、10月末が完了期限というふうに予定しているところでございます。

今後でございますけれども、報告書に基づきまして当該施設の補修方法等を検討することとしておりまして、なお、補修の状況によりましては、軽微なものであれば12月議会に補正予算も計上していきたいと、このように考えております。目視でございますけれども、そんなに重大なことではないというふうには、私は考えているところでございます。

それから、2点目でございますが、被災者住宅再建利子補給事業の申し込み状況を申し上げます。9月1日から受け付けを開始したところでございますが、現時点では申し込みは2件でございます。窓口で申請書をとりに来た方が10件となっております。ですから、12件の方が、今、申請書をとりに来ていただいていると。内訳は、新築される方が4件、補修が7件、中古住宅を購入された方が1件、こういう状況でございます。その他、窓口や電話等での相談件数は32件というきょう現在の状況でございます。今後も金融機関と連携をいたしましてPR活動に努めていきたいと、このように思っております。

最後に、住宅の耐震化促進のための講習会並びに相談会の開催について、ご報告させていただきます。9月15日の広報でもお知らせしておるんですが、10月2日日曜日に、午前10時から海上公民館におきまして、液状化対策による講習会を開催することとしております。

この説明会の内容ですが、液状化対策の基礎知識や補修方法と費用についてでございます。千葉県より専門の講師を招いて開催するものでございます。また、10月30日の日曜日、いきいき旭・産業まつりにおきましては、我が家の耐震相談会、これは毎年開催しておりますが、これを予定してございます。お住まいの住宅の耐震性につきまして、少しでも不安のある方につきましては、専門の建築家が相談に応じてくれますので、参加していただければと、このように思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（滑川公英） 所管事項の説明は終わりましたけれども、何か。

高橋委員。

○委員（高橋利彦） 2点ほどお尋ねしますが、先ほどの下水道事業計画書、これ、たしか二百数十万の予算で作っていると思うんですが、それがこれなんですかね。こういう計画、なぜ、市でできないのか。

それから、もう1点。先ほど、萬歳公園の件ですが、この萬歳公園、たしか、あれは1億円基金か何かで作ったと思うんです。そういう中で、最初、草刈りとかそういう管理は各部落輪番で、1回10万くらいでやったんですが、最後、もう部落でできなくなっちゃって、萬歳地区だけ輪番制でやったんですが、部落でできなくなっちゃったということで、結局業者委託になったんですが、結局、あれ、土地もほとんど借り物なんですよ。それで、かなりその土地の借り賃も払っているし、それから、維持管理もかなりかかっている中で、どれだけ公園に人が来ているのか。そういう中で、私は地元でそういうことを言っちゃおかしいんですが、やはりその辺はこれから考える必要があると思うんですが、いかがですか。その点、

お尋ねします。

○委員長（滑川公英） 下水道課長。

○下水道課長（増田富雄） 高橋委員さんの業務委託の件についてお答えいたします。

今、高橋委員さんは二百何万というようなお話でしたけれども、その業務委託の事業費としましては、172万2,000円でございます。

それから、中身、これをなぜ、職員でできないかということなんですけれども、実際この概要版につきましては数ページしかございませんが、実際、参考資料的にいろいろ積算等ありますので、かなりの厚みになっております。そういうことは、やはり専門のコンサルタントじゃないとできないのかなというふうに考えるところでございます。

こういう資料というか、業務委託になっております。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 高橋委員。

○委員（高橋利彦） 二百何十万円というのはたしか予算で、それが結局あって、実際に今度は執行予算では百何十万円になったと、170万円ですか。しかし、計画というのは担当が一番知っているわけですね。それが、これにかかわらず、すべて職員が作るんじゃなく業者任せなんです。それは見てくれはいいかもしれないですが、果たしてそれが実態の計画に合ったものになるのかどうか。最終的に今度はこの計画ができて、今度はその計画に沿って事業を実施した中で、どういう結果になっているか、その辺、副市長、把握したことありますか。

○委員長（滑川公英） 副市長。

○副市長（増田雅男） 委託料の考え方については、高橋委員さん、いつもおっしゃってございまして、私のほうも理解はしているつもりでございます。ただ、何回も何回も、これ言い訳になっちゃいますから言いませんけれども、一応、本来であれば職員のほうで作成すれば一番いいと思います。私もそのようには思います。ただ、現状の事務だと、そういう流れの中では、なかなかそこまで手が回らないというような面もございまして。それと、いつも本会議なんかで答弁させてもらっていますと、将来的にそういう専門の職員の育成だとかそういうものにもかかわってくるのかなと、そのように思っておりますので、現状では申し訳ございませんが、ご理解のほうよろしく願いいたします。

○委員長（滑川公英） 高橋委員。

○委員（高橋利彦） そうは言いますが、ただ、職員の人件費ですか、その辺だけ見たら

ろいろあるかもしれませんが、しかし、今度は今抜け道として委託料だの何だの、それから、電算費用ですか、これみんな人件費と同じたぐいなんですよね、普通一般企業であれば。それをやったら、そういう電算の経費ですか、それから委託料ですか、それからこういう事業計画作る、年間かなりかかっていると思います。やはりその辺を考慮した中で。まして、すばらしい職員そろっているんですから、職員の力をいっぱい発揮していただくためにも、これは計画書はこれからはやっぱり市で独自で、見た目は悪くても、中身の充実したものを作るのが本当だと思います。蛇足ながら、その辺言わせていただきました。

○委員長（滑川公英） 副市長。

○副市長（増田雅男） 少しでも職員でできるように、必要最小限度は委託料等を出さないで作成するように努めていきたいと思いますので、ご理解よろしくをお願いします。

○委員長（滑川公英） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） 萬歳自然公園についてのご質問にお答えいたします。

まず、萬歳自然公園ですが、面積としては6.96ヘクタールを開設しております。山頂部分と斜面の部分と、それから一番下が農園の部分と、駐車場の部分、いろいろございます。そういうの中で、全体で6.96ヘクタール。これが、やはり委員おっしゃるように、ほとんどが借地ということで、パーセントはちょっと今、手元にないんですが、ほぼ五百九十七・八とか、そういう数字になろうかと、このように思います。借地料は現在、348万2,000円を予算計上しております。

それから、維持管理。これは草刈りとか、あと、樹木の剪定、こういったものの予算としましては408万円を計上してございます。合わせまして756万2,000円となりますか、そういった状況でございます。

それから、今後の展望のことなんですけれども、築後21年という中で旧干潟町から引き継いできたということの中で。それから、1点補足させていただきますが、国土調査に基づきまして、私がここへ来る前ですから約3年前か4年前に、国土調査に基づいた面積をすべて改めてございます。ですから、合併前の干潟から引き継いだ賃借料よりはかなり上がっています、若干ですけれども。平米当たりが50円ですので、面積的な問題が大きいかなと、こういう状況でございます。

それから、今後の展望でございますけれども、委員おっしゃるように、昨年も子ども議会でも、実は萬歳の子どもに質問をいただきまして、今後の展望ということで、私のほうではやはり安全対策を考えながら、そう言いながらも、抜本的に直すとなると相当な経費がかか

りますので、その辺も含めて今後の検討の課題とさせていただきたいと、このように思います。また、いろいろなアドバイスもいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（滑川公英） 高橋委員。

○委員（高橋利彦） 平米50円、先ほど約7町歩で348万円、そうしますと1町歩で50万円ですか、そうしますと、反当5万円ということは何を基準に出しているのか。萬歳地区の田んぼの貸し借りって、今俗に米2俵と言うんです。まして、あの辺になったら、ただで管理してもらっている。そういう中で、何を基準にしているのか。やっぱり、その近辺の賃借料ですか、その辺を考慮するのも1つの考えじゃないかと思うんですが、何を基準にしているんですか。それからまた、これからどういうふうにするのか、検討していくのかお尋ねします。

○委員長（滑川公英） 都市整備課長。

○都市整備課長（伊藤恒男） 単価の根拠なんですけれども、もうこれが合併前含めて先ほど申しましたように、平成2年から開設しているという状況の中で、当初40円だったというふうに聞いていますけれども、その40円の根拠というのは、正直なところ、積算の書類が残っていませんので、根拠についてはわからない状況にあります。そういった中で、合併を経て、旧干潟の方に、職員の方にもいろいろお聞きする中で、国土調査の話と、平米50円という話が引き継ぎの中であつたと。これは、委員おっしゃるように、不動産鑑定をとって、きちんとやっているわけではございません。ですから、旧町から引き継いだ価格を基に、国土調査を基に積算をしているという状況でございます。

それから、今後の展望というのは、私も非常に難しく、これからしっかりと検討していかなくちゃいけない。ただ、あれだけの、先ほどおっしゃいましたように、ふるさと創生の1億円で基礎なりあれができ上がっているという状況の中で、私も何度も行くんですけども、やはり、立派な建物で、展望台かなり頑丈にできています。ですから仮に、もし万が一、仮にあれを撤去するとなると、設置費用よりもかかるんじゃないかという、そんなふうにも思う状況があるんです。ですから、あと20年間の間、地代を払っているという中で、36名か37名の地権者がいますので、その方に対しても適切な説明をしていかなくちゃいけない。やはり、時間をかけていく必要があるだろうと思っています。ですから、今性急にじゃなくて、今は安全対策を考えて、今後につきましては、また議会のほうの地元の議員さん含めまして、アドバイスなりいろいろご指導いただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（滑川公英） そのほかには。

日下委員。

○委員（日下昭治） 何点かちょっと伺いたいと思いますけれども、建設課長、連絡道路、地域間交流道路、連絡道路、三川蛇園線ですけれども、その辺のできれば進捗状況、すぐでなくてもいいんですけれども、今恐らく進んでいるのは土地買収等だと思いますけれども、その辺図面等にどの辺がどのような形で進んだのか、出せるものであれば出してほしいなという事です。

それと、その道路に関して、たしか何年ですか忘れましてけれども、市道認定してございますよね。あれ、22年度3月だったですか、U-0107という形で、大坂からJAのスタンドのところの交差点まで。そうしますと、これ、道路台帳に載っていますよね、もう既に。その辺ちょっとお願いしたいと思います。

それと、蛇園南地区の排水計画に関する件で、流末地区から何か要望書か何か出たという話があるんですけれども、その辺、もし、そういうことがあったとなれば、その説明もお願いしたいと思います。

それと、これは県あるいは国との関係になろうかと思えますけれども、清滝バイパスの今の進捗状況等について、市のほうで把握していればお願いしたいと思いますし、それと併せて大間手県道の舗道関係、その辺、もし、なければ、今後、県との話を持っていて、その辺の機会がありましたら、ご報告をお願いしたいと思います。

それと、併せて国道の上永井バイパスも同様の形であればと思うんですけれども、すぐでなくてもいいです、これは。機会があったときでよろしいですので、お願いしたいと思います。例えば12月の委員会でもよろしいですし、そういうことに向けまして、できればお願いしたいと思います。

それと、もう1点。今度、浜仙のところへ排水路作りますよね。あれは県費の負担があるわけですよね。県費の負担があると思えますけれども、その辺の割合等がもう入札終わっているわけですのであろうかと思えますので、その辺、分かればお願いしたいと思います。

それと、この件で、すごいうわさが出ているんです。あの件を私いろいろやったときには、まだかなり県は難しいという話がありましたし、それも私もそういう形でやったのが、すぐ全線ができるようになったということに基づいて、これはこういうことなんですね。地元県議じゃないところの県議の活動の成果だと、そういううわさがあるんです。うわさだからはっきり分かりません。でも、うわさというのもまるっきりないと思いませんので、地元県

議でなく、他市の県議の活動の結果、こういうことになりましたと、ぽんと変わったと。私らがやったときには、2年でやらなきゃ難しい事業だったんです。それが単年度でぽんとできることになったのは、そのような活動がばあっとうわさに流れていますから、その辺が、もし市は把握していなければ把握していないでいいんですけれども、その辺は、そういうことがあったということはどうですか、その辺はいいんですけれども、そういうことを県と市の負担の割合がどのくらいになるのか、約でいいですから、その辺をお願いしたいと思います。

それと、もう1点。これ、副市長の関係になろうかと思えますけれども、8月中に執行された入札の関係で、発注者側の都合により落札者決定後不調にした案件が2件ほどあるという、それもうわさなんですけれども、その辺はどういう要因があったのか、その辺をお願いできればと思います。

○委員長（滑川公英） 建設課長。

○建設課長（北村豪輔） それでは、海上連絡道の関係ですけれども、図面に関しては後でお渡しできるような形、個人の名前が書いてありますので、ちょっと検討して。

（発言する人あり）

○建設課長（北村豪輔） それで、今の状況ですけれども、買収の金額、約6割です。60パーセントぐらいの方も済んでおります。それとあと、買収の人数ですけれども、52人中33名は済んでおります。

あと、蛇園の関係ですけれども、流末の方から、簡単に言うと昔の海上とよく似た話に戻っちゃうんですけれども、例えば海上の汚い水と言ったら語弊がありますが、そういう水がきて、流末で自分のところを通ってきて、自分の地区には何のメリットというか、そういうのはできて何のあれもないという話、この間、先週陳情に見えたんですけれども、用件といえば、よくある例で言いますと、例えば排水路の側溝の整備だとか、舗装のクラックが入っている部分を直してくれだとか、住宅の場合、通った場合、補償をどうするかというような面がありまして、そのお話をしまして、議会でも承諾を得ているし、工事始まったものだから、すべてやってくれということではありませんけれども、要望書が来ていますので、そのうちのできるものからやっていただければということで了承を得て、工事の着工ができる形になりました。

あと、大間手と上永井のバイパス、上永井のバイパスは銚子の土木事務所ですので、まだ、どの辺までという割合はちょっと分かりません。大間手に関しては、進んでいるというか、

いろいろ地権者の関係とかやっておりますので、停滞しているということではありませんので、それに対してちょっと調べて、またご連絡することは可能だと思いますので。

あと、また1点、浜仙の関係ですけれども、一応、県のほうでは入札終わりました、県の実際にやる、真ん中に入れるカルバート部分の金を県にいただくということで、約700万円ぐらいいただくような形で、お話は今進んでいっております。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 副市長。

○副市長（増田雅男） 最後の8月の入札の関係の不調ですが、概略はきょう分かりますけれども、詳細についてはちょっと分かりませんので、後で報告させていただきます。それよろしいですか。

（発言する人あり）

○副市長（増田雅男） ありました。それは、後で中身については。

（発言する人あり）

○副市長（増田雅男） そうです。

○委員長（滑川公英） 日下委員。

○委員（日下昭治） これは委員長、委員会として、委員長また副委員長にちょっとお願いしたいなと思いますけれども、例えばこの辺、今、県整備事務所との関係だとか、国の事業、県を通じてやるわけですけれども、もし、このような委員会で視察、今回も災害地視察ということで計画しておりますので、そういうことは時期としては災害などそういうようなのをやるのは最高だと思いますけれども、市としての県としての関連事業結構ありますので。できれば、そういったものを委員会で県のほうに要請をしてやってもらうという、ここに来て説明を受けるとか、現地で受けるとか、ぜひ、機会としてそういうものをやってもらうと、市の関係、そういうものをやるとすごく把握できるのが多いんです。それで、旧海上の話をして申し訳ないんですが、委員会活動というのはあまりなかったんですけれども、そういった関連事業に関しては、県の銚子整備事務所に来てもらったり、現地で説明受けたり。いろいろな関連事業ありましたのでそういうことも結構やりましたので、もし、これは執行の関係ではなくて、委員長、こういうものの機会もちょっと入れていただければなと思いますので。それは委員会だけです。

○委員長（滑川公英） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

次に、請願の審査を行います。

商工観光課以外は退室してください。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時10分

○委員長（滑川公英） 休憩前に引き続き会議を開きます。

請願の審査

○委員長（滑川公英） 去る9月9日の本会議におきまして本委員会に付託されました請願は、請願第3号、地方消費者行政充実のための国による支援に関する請願の1件であります。

それでは、請願第3号について審査に入ります。

紹介議員であります伊藤保議員より説明をお願いいたします。

○紹介議員（伊藤 保） それでは、説明をさせていただきます。

地方消費者行政充実のための国による支援について、これまで消費者行政を推進する中央官庁が存在しなかったため、消費者行政に対する各自治体の意識や体制にあまりにも格差があります。旭市は課長、職員の皆さんの努力があり、かなり進んでおりますが、旭市としても、今、消費者生活センターというものがつくられております。

現在、国からの支援として、消費者行政活性化交付金、また、住民生活に光をそそぐ交付金などがありますけれども、いずれも期間限定の支援になっております。相談人や正規職員の増員など、人的体制強化等継続的な経費が必要で、自治体によっては財政負担となっておりまして、継続的かつ実効的な財政支援を要望するという内容のものでございます。

自治体によっては、単独での消費生活センターの設置が困難なケースもあるため、都道府県と市町村とが広域的に連携して、相談窓口を設置するなど、地方自治体にとって取り組みやすい制度設計を具体的に国は示す必要があると思います。その要望が1点。

それから、消費生活相談員、期限付きの非常勤が多いわけですがございますけれども、その待遇、また、業務の専門性に見合ったものとは言いがたい状況があり、住民が安心して相談で

きる相談窓口を実現するためには、相談員の専門性の向上と地位の安定、待遇の改善に向けた制度の整備、正規職員でない形態で常勤的に勤務する任用制度の整備など、職種の専門性に着目した専門職任用制度を新たに整備する必要があるということで、3点の内容になっております。

一応、県内の市の消費生活センターは24市ありまして、それから相談窓口というものが17市町あります。

そういうことで、国に皆さんの賛成をいただきまして、国に要望をさせていただきたい、このように思いますので、よろしく申し上げます。

○委員長（滑川公英） 伊藤保議員の説明は終わりました。

続いて、商工観光課より参考意見がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長兼国民宿舎支配人（横山秀喜） 参考意見ということでございます。

若干、請願の内容につきまして、旭市の状況をお話させていただいて、意見ということでお酌み取りいただければと思います。

まず、1点目ですが、国における消費者行政に対する実効的な財政措置の必要性ということでございます。先ほど、伊藤保議員さんからご説明ありましたとおり、継続的なものが欲しいという、確かにおっしゃるとおりでございます。どういうことかといいますと、ここに載せてございます地方消費者行政活性化交付金、これにつきましては、23年度までの期限付補助金、これが要望が高いために1年延長されました。24年度まではこの交付金を残しますよということになっています。

実は、旭市が消費者センターを開催するという運びに行ったということにつきましては、この交付金が非常に大きかったということでございます。勤務日をとるか、開設日を、相談日を2日だったものを4日にし、4日だったものを、土日を除く毎日というふうにできましたのも、この交付金のおかげで人件費手当ができたですとか、いろいろな備品、もしくは啓発物資を買うことができたということは大きいというふうに考えております。

ちなみに、金額のほうを説明させていただきますと、21年度では74万8,000円、22年度では170万2,000円。今年度予算ベースですが、592万8,000円ということで、消費センターを立ち上げたことによりまして、これだけの大きな補助金、交付金をいただいているということになります。

それと、光をそそぐ交付金ですが、これは経済対策ということで、これは単発的だったの

で、この制度につきましては省略させていただきたいと思います。

したがって、担当課としましては、このような国における財源措置が継続的に行われたら非常に助かるというふうに考えております。

2点目の具体的な制度設計の必要性というふうにあります。これは請願ですので、もう既にかなり、例えば県内であれば、千葉市のようにすごく充実した自治体と、消費者センターを立ち上げられない小規模な自治体があります。非常に差があります。差があることによって、市民が受けられる行政サービスの違いがあつていいのかといったようなことに対して、国がしっかりとした消費者行政に対するものを、制度設計を示す必要があるんじゃないかなというような提言ということで、これも旭市の場合にはセンター立ち上げています。一番の問題は財源ということになると思います。

3番目ですが、相談員。これはかなり難しい勉強をして相談員の資格を取ってきています。今年の当初予算の説明のときに常任委員会、ここの委員会のほうでも説明させていただきましたが、相談員の地位向上、報酬の値上げということで説明させていただいて、皆さんに承認いただいたところであります。このように待遇改善をしていながら、相談員の確保ということで動いております。その辺の請願の内容というふうに認識しております。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） ありがとうございます。

それでは、請願第3号について審査をお願いいたします。

いかがでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（滑川公英） 特にないようですので、ここで執行部は退席してください。

大変ご苦勞さまでございました。

しばらく休憩いたします。

休憩 午前11時25分

再開 午前11時26分

○委員長（滑川公英） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き請願の審査を行います。

請願第3号について、ご意見がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(滑川公英) 特にないようですので、請願第3号の審査を終わります。

請願の採決

○委員長(滑川公英) 次に、討論を省略して採決いたします。

請願第3号、地方消費者行政充実のための国による支援に関する請願について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(滑川公英) 全員賛成。

よって、請願第3号は採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました請願の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(滑川公英) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

意見書案の説明

○委員長(滑川公英) 続きまして、ただいま採択と決しました請願が本会議で採択された場合、意見書提出に伴う発議案を提案することになりますので、事前に準備をいたしたいと思っております。

事務局、意見書案を配付してください。

(意見書案配付)

○委員長(滑川公英) それでは、請願第3号の意見書案について、ご協議をお願いしたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○事務局長（堀江通洋） それでは、請願第3号の意見書案についてご説明いたします。

座ったまま説明させていただきます。

お手元に配付してございます地方消費者行政に対する国の実効的支援を求める意見書案をご覧いただきたいと思います。

意見書案を朗読して、説明に代えさせていただきます。

地方消費者行政に対する国の実効的支援を求める意見書（案）

現在、国における地方消費者行政の充実策が検討されているが、他方で地域主権改革の議論が進む中で、地方消費者行政に対する国の役割・責任が不明確となることが懸念される。

もとより地方自治体が独自の工夫・努力によって消費者行政を充実させることは当然であるが、これまで消費者行政を推進する中央官庁が存在しなかったこともあり、消費者行政に対する地方自治体の意識や体制はあまりにも格差がある。加えて、地方自治体が担っている消費者行政の業務の中には、相談情報を国に集約するパイオ・ネットシステムへの入力作業や、違法業者に対する行政処分等、国全体の利益のために行っているものも少なからず存在する。

現在、国からの支援として、地方消費者行政活性化交付金、住民生活に光をそそぐ交付金が存在するが、いずれも期間限定の支援に留まっており、相談員や正規職員の増員による人的体制強化等の継続的な経費への活用には自ずと限界がある。

したがって、国は地方消費者行政充実のために継続的かつ実効的な財政支援を行うべきである。

あわせて、国は、小規模な市町村がよりスムーズに消費者行政の強化を行うことができるよう、都道府県と市町村とが広域的に連携する取り組み例を推進するなど、地方自治体にとって取り組みやすい制度設計を具体的に示すべきである。

さらに、消費生活相談窓口を現場で担っている消費生活相談員の地位・待遇も、期限付きの非常勤職員の扱いが大半であり、その地位の安定と専門性の向上を図ることが困難な状況にある。その待遇も、消費生活相談業務の専門性に見合ったものとは言い難い現状にある。

住民が安心して相談できる消費生活相談窓口を実現するためには、消費生活相談員の専門性の向上とともに、その地位の安定、待遇の改善に向けた制度の整備も重要である。

よって、地方消費者行政の支援について次の事項を要請する。

記

- 1 国は、地方自治体の消費者行政の充実に確実につながるよう、地方消費者行政活性化基金等の延長も視野に入れつつ、一定の幅を持たせながらも使途を消費者行政と明示した継続的かつ実効的な財政支援を行うこと。
- 2 すべての地方自治体が身近で専門性の高い消費生活相談窓口を消費者に提供するという観点から、国は、あるべき相談窓口の姿について一定の目安を提示するとともに、これを単独で実現することが困難な小規模自治体も多数存在することから、都道府県と市町村とが広域的に連携して相談窓口を設置する方策など、地方自治体に利用しやすい制度枠組みを提示すること。
- 3 消費者が安心して相談できる消費生活相談窓口の充実・強化を図るため、相談を担う専門家である消費生活相談員を含め、常勤はもちろん非常勤の立場であっても、専門性に見合った待遇のもとで安定して勤務できる専門職任用制度の整備を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、消費者担当大臣あてです。

以上でございます。

○委員長（滑川公英） 事務局の説明は終わりました。

それでは、ご協議をお願いいたします。

ご意見がございましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（滑川公英） 特にないようでございますので、請願第3号の地方消費者行政に対する国の実効的支援を求める意見書は、原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（滑川公英） ご異議がないようでございますので、本意見書は原案のとおり準備を進めたいと思います。

なお、意見書の提出に伴う発議案の提出者につきましては、委員長名で議長に提出いたしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（滑川公英） それでは、以上をもちまして本委員会を閉会いたします。
どうもご苦労さまでございました。

閉会 午前11時30分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 滑 川 公 英

文教福祉常任委員会

平成23年9月22日（木曜日）

文教福祉常任委員会

平成23年9月22日（木曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第11号 平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第12号 平成23年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について
- 議案第13号 平成23年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について
- 議案第20号 工事請負契約の締結について
- 議案第21号 工事請負契約の締結について
- 議案第22号 工事請負契約の締結について
- 議案第25号 財産の取得について

《付託陳情》

- 陳情第2号 「子ども・子育て新システム」導入に反対する意見書を国に提出することを求める陳情
- 陳情第3号 公設公営保育所への特定財源の復活に関する意見書を国に提出することを求める陳情
- 陳情第4号 県の「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条例化にあたり市町村が独自に設定している上乘基準などの反映を求める意見書提出に関する陳情

出席委員（7名）

委員長	向 後 悦 世	副委員長	林 七 巳
委員	林 一 哉	委員	嶋 田 茂 樹
委員	佐久間 茂 樹	委員	景 山 岩三郎
委員	伊 藤 房 代		

欠席委員（1名）

委員 木 内 欽 市

委員外出席者（なし）

説明のため出席した者（29名）

教 育 長	茅 田 哲 雄	税 務 課 長	佐 藤 一 則
環 境 課 長	浪 川 敏 夫	保 險 年 金 課 長	石 毛 健 一
健 康 管 理 課 長	高 山 重 幸	社 会 福 祉 課 長	渡 辺 輝 明
子 育 て 支 援 課 長	林 芳 枝	高 齢 者 福 祉 課 長	石 井 繁
病 院 事 務 部 長	渡 辺 清 一	庶 務 課 長	加 瀬 寿 一
学 校 教 育 課 長	菅 谷 充 雅	生 涯 学 習 課 長	高 野 晃 雄
体 育 振 興 課 長	野 口 國 男	病 院 事 務 次 長	石 鍋 秀 和
病 院 経 理 課 長	鈴 木 清 武	病 院 再 整 備 室 院 長	鏑 木 友 孝
そ の 他 担 当 員	13名		

事務局職員出席者

事 務 局 長	堀 江 通 洋	事 務 局 次 長	向 後 嘉 弘
主 査	榎 澤 茂		

開会 午前10時 0分

○委員長（向後悦世） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

木内委員におかれましては、所用のため遅刻するとの連絡がありましたので、ご報告いたします。

昨日の台風15号は大きな被害もなく過ぎましたが、震災復興はこれからです。皆さんは大変お忙しいところではありますが、慎重審議をよろしく願いいたします。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

なお、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 1分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 1分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案等説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、埴田教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○教育長（埴田哲雄） おはようございます。

それでは、文教福祉常任委員会の開催に当たりまして、執行部関係各課を代表し、ごあいさつを申し上げます。

日ごろより委員の皆様には、多方面にわたりご指導、ご支援をいただき、感謝申し上げます。また、17日の中学校運動会には、お忙しい中、子どもたちへの激励をいただき、大変あ

りがとうございました。

3月11日の東日本大震災から6か月が経過し、市民生活の復旧・復興に向け、日々歩みを進めておるところでございますが、現状は目に見えるほどの効果を表すことがなかなかできていないことから、ご意見等をいただくこともある状況でございます。

これまでは有利な財源を活用すべく国の制度に従った事務手続きを進めており、それも現在では終了し、今後は社会基盤整備等の復旧が早急に進められるものと思っております。今後も職員一丸となって、復旧・復興に頑張ってまいりますので、議員の皆様方におかれましては、なお一層のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、本日は付託されました議案第11号ほか6議案についてのご審議をいただきますが、答弁は簡潔明瞭になるよう努めてまいりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（向後悦世） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月9日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第12号、平成23年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、議案第13号、平成23年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について、議案第20号、工事請負契約の締結について、議案第21号、工事請負契約の締結について、議案第22号、工事請負契約の締結について、議案第25号、財産の取得についての7議案であります。

初めに、議案第11号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（高野晃雄） それでは、生涯学習課所管の補正予算について補足説明を申し上げます。

補正予算書16ページをお開きいただきたいと思います。

10款4項1目社会教育総務費は、指定文化財への助成でありまして、本年10月2日に予定

されております、熊野神社式年神幸祭の実行委員会への補助金として100万円を計上するものでございます。

続いて、3目の市民会館費でございますが、旭市民会館3階のホール空調設備が老朽化により故障し、7月から利用不能となっているため、この補修をすべく142万5,000円の補正をお願いするものでございます。

以上です。

○委員長（向後悦世） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、高齢者福祉課所管の項目について、補足して説明させていただきます。

それでは、13ページをお開きください。

3款2項1目生活支援費の地域支え合い体制づくり事業でございますが、この事業につきましては、地域の高齢者や障害者への福祉サービスを提供する活動を支援するため、NPO法人等による新たな取り組みや地域活動の拠点となる施設、組織の整備に必要となる初度経費や日常的な支え合い活動を担う人材の育成に必要となる費用に対して助成するものでございます。

この事業は、県の補助対象事業でありまして、市町村が実施する事業、または知事が適当と認める団体が実施する事業に対しまして、市町村が補助する事業を対象としており、補助率は補助基準額の10割補助となっております。

今回、市内NPO法人2団体から当該事業に係る実施計画書が提出されましたので、今回計上したものでございます。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第11号の質疑を終わります。

続いて、議案第12号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
保険年金課長。

○保険年金課長（石毛健一） 議案第12号、平成23年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算につきましては、本会議での補足説明のとおりでございますので、よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第12号の質疑を終わります。

続いて、議案第13号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、議案第13号、平成23年度旭市介護保険事業特別会計補正予算について、補足して説明させていただきます。

補正の理由でございますが、東日本大震災の被災者に対しまして、介護保険料の減免と介護保険サービス利用者自己負担額の減免を行っておりますので、この減免に伴い、介護保険料に減収が見込まれるほか、保険給付費につきましても、利用者自己負担分に対する給付費が発生したため、減免相当額及び給付費の増加見込分を補正計上するものです。

なお、この減免措置に対しまして、国が財政援助措置することとしておりますので、介護保険災害臨時特例補助金の科目を新たに設け、補助見込額を計上いたしました。

それでは、補正予算書の7ページをお願いいたします。

1項介護保険料の1目第1号被保険者保険料は、1節現年度分特別徴収保険料を1,540万円、2節現年度分普通徴収保険料を160万円それぞれ減額するものです。

減額の内容でございますが、特別徴収保険料の減免対象者は、全壊で237人、半壊が627人、計864人を見込みました。普通徴収保険料の減免対象者数ですが、全壊で29人、半壊60人、計89人を見込みました。減免対象者の合計は953人で、全壊266人、半壊687人分の減免相当額を見込んだものであります。

続きまして、2項国庫補助金の3目介護保険災害臨時特例補助金は、介護保険料の減免相当額と保険給付費等の増加見込額の合計3,400万円を見込みました。

それでは、8ページをお願いいたします。

1項介護サービス等諸費の1目居宅介護サービス給付費に825万円、3目施設介護サービス給付費に135万円を追加するものでありまして、これは3月から5月までの3か月分の実績を勘案し、見込んだものでございます。

次に、1項償還金及び還付金の3目災害臨時特例支出金の科目を新たに設けまして、740万円を計上いたしました。これは施設を利用した場合の食費・居住費は保険給付費の対象となりませんので、全額自己負担の扱いとなっておりますが、これにつきましても国が財政援助措置することとしているため、施設を利用した場合の食費・居住費の支給に要する費用を

見込み計上したものであります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第13号について、質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ご苦労さまです。

最後の扶助費、諸支出金で食費・居住費等災害臨時特例支給金で740万円出ていますけれども、これは具体的にどういう格好で支給されるんですか。直接その被災者というような形なのか、あるいは何月何日の食事とか、具体的にどういう格好で支給されるのかちょっとお尋ねします。

○委員長（向後悦世） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） ただいまの食費・居住費の支出の方法でございますが、これにつきましては、介護保険のサービス施設のほうから、これは連合会のほうへ経由して請求いたします。通常ですと、これは自己負担分ですので、施設のほうに直接支払うわけですが、今回、こういった減免適用を行うことによりまして、連合会のほうにこの請求を通し、審査をして連合会のほうへ市のほうで支払うような手続きをとっております。これはケアマネジャーがそれぞれ担当しておりまして、それぞれ担当の請求を整理して連合会のほうに請求するようなシステムと今回はしております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第13号の質疑を終わります。

続いて、議案第20号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、初めに本日お渡ししましたこちらのほうの色刷りのほうですが、これは議案第25号のほうで説明をさせていただきますので、右上が20号になっておりますけれども、すみません、訂正方お願いいたします。こちらのほうの色のついてる補足資料のほうでございますけれども、議案第25号ということで訂正のほうをお願いいたします。

それでは、議案第20号につきまして補足説明をさせていただきます。

本議案の契約関係につきましては、本会議におきまして財政課長より説明いたしておりますので、学校教育課より、（仮称）旭市第二学校給食センター工事の概要について補足して説明いたします。

お手元に参考資料を配付させていただきました。右上に議案第20号、学校教育課、5枚つづりになっている資料でございます。よろしいでしょうか。そちらに基づきまして説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

一番上に、これは1ページでございますが、新センターのパース図、いわゆる設計の予想図でございます。2枚目に1階の平面図、3枚目に2階の平面図、4枚目に東、南側から見た立面図、5枚目に西、北側の立面図。このように参考資料をつけさせていただいております。こちらに基づきまして、説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本事業につきましては、現在の第二、第三学校給食センターを統廃合いたしまして、学校給食衛生管理基準に適合した新たな学校給食センターを建設するものでございます。工事の予定につきましては、平成23年度から平成24年度の継続事業として新センターの供用開始につきましては、平成24年9月を予定しているところでございます。

建設場所につきましては、現在、海上中学校野球部の北側になります。

敷地面積は、5,314.8平方メートルでございます。

建物の概要でございますけれども、構造は鉄筋構造の一部2階建てになっております。1枚目をご覧くださいただけたらと思います。

2枚目のほうでございますが、建築面積のほうでございますけれども、1,789.84平方メートル、延べ面積で2,270.83平方メートルでございます。

工事の内容についてご説明をさせていただきます。

まず、建設工事でございますけれども、工事の内容につきましては、給食センター本体及び外構工事が主なものとなっております。外構工事の主なものということで、構内の舗装、排水、駐車場整備、それから門柱、塀、フェンス等が主な内容でございます。

それから、21、22になってしまうんですけれども、電気工事のほうでございますけれども、工事の内容につきましては、変電設備、それから受変電設備、それから低圧幹線設備、通信幹線設備、電灯・動力設備、火災報知設備、構内の配電線路、それから通信線路等が主な内容です。

機械の工事のほうでございますけれども、工事の内容につきましては、空気調和・換気設備、自動制御設備、石油設備、給湯設備、消火設備、厨房機器の附属配管設備、あるいは排

水処理等設備等が主なものでございます。

それからあと、資料のほうでございませけれども、1階が先ほど申し上げましたように平面図になります。この施設の規模といたしましては、1日当たり最大処理能力で3,000食ということで考えております。

こちらに示しました図面が調理室内の平面図となりますが、非常に小さな字で、後ほどまた25号のほうでご説明を申し上げますけれども、このように非常に部屋が多いということでございますが、これは学校給食衛生管理基準により、2次感染の防止の観点から、こういった2枚目のような平面図で、非常に部屋数が多くなっているということで、部屋単位で区分すると。冷凍庫、冷蔵庫においても、食材用等と調理用を整備して、共有を避けることになっているため、このように部屋数が非常に多くなっているということでございます。

それからあと、食品の入荷口、受入口はその2枚目の図の左上のほうに、2か所ほどございまして、2か所からありまして、外の入り口にエアカーテンを取りつけて、外気とかあるいは害虫の侵入を防ぐ構造となっております。

調理の流れについてはまた後ほど25号で詳しくご説明を申し上げますけれども、左から右へ一直線で流れるようにということになっておりまして、基本的に食材の交差や後戻りはないうようになっております。調理室については温度が25度以下、湿度80パーセント以下に保つために空調設備を設けております。そして、湿度、温度の管理を十分に行って、細菌等が繁殖しないような設計となっております。

調理室につきましては、2階まで吹き抜けとなっております。3枚目をご覧いただきたいと思っております。

こちらのほうが2階の平面図でございませけれども、いわゆる右のほうが吹き抜けになっておりまして、それで左のほうに食堂兼会議室を設けてあります。

そして、周りに通路がございまして、2階から、外部から来た見学者等が調理場を上から見えるようにというような構造となっております。

あと食缶や食器の配送については、直接外気に触れないようにドックシェルターというものを設置いたしまして、直接トラックの積みおろしを行う構造となっております。

一応、建物関係につきまして、補足説明を申し上げます。

以上で終わりにさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第20号について、質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第20号の質疑を終わります。

続いて、議案第21号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
学校教育課長。

○学校教育課長(菅谷充雅) 先ほど申し上げました。特にございませぬ。

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第21号の質疑を終わります。

続いて、議案第22号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
学校教育課長。

○学校教育課長(菅谷充雅) 先ほど申し上げました。特にございませぬ。

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、質疑がありましたらお願いします。

(「なし」の声あり)

○委員長(向後悦世) 特にないようですので、議案第22号の質疑を終わります。

続いて、議案第25号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
学校教育課長。

○学校教育課長(菅谷充雅) それでは、議案第25号につきまして補足説明をさせていただきます。

本議案につきましては、本会議において説明いたしましたが、補足して説明を申し上げます。

最初に資料のほうでございませぬけれども、先ほど申し上げました、こういった第25号を本日配らせていただきました。調理の大きな流れを書いたものでございませぬ。先ほどの2枚目の平面図に、主な流れということで新たにつけ加えたものでございませぬ。

もう一つ、(仮称)旭市第二学校給食センター厨房設備機器等一覧ということでつづったもの、9ページつづりになっているものでございませぬ。こちらのほうが中に入る設備の一覧でございませぬ。9ページのつづったものでございませぬ。こちらの2つで説明をさせていただきますと思います。

それでは、センターのほうの、まず仕事の流れに沿って調理室内で使用する厨房設備の内容について、説明をさせていただきます。

まず、最初にこちらのほうの入り口、本日お配りしたもの、あるいは先ほどの2枚目のほ

うをご覧いただきたいと思います。

2枚目のほう、非常に字が小さくなっておりまして、なかなか見づらくて誠に申し訳ございません。そこに全部機器が一応出ているんですけども、なかなかよく見えないものですから、まず、私のほうから大体の流れということでご説明をさせていただきたいと思います。

最初に食品の入荷口と検収、つまり検査の部分でございますけれども、入り口につきましては、そこに書いてありますように、入り口の①、②ということで、先ほど申し上げましたように、2か所設けてあります。入り口①につきましては、肉、米、魚を中心に、入り口②については野菜と果物と中心にということで予定しております。

それで、まず最初にそこで食材の受け渡しを行いまして、専用の容器に移し換えて、その検収室というところで検査を行います。それぞれ別々で検査を行います。その検収室で検品を終えた食材は、その辺にたくさん冷凍庫、冷蔵庫があるんですけども、そういった冷凍、冷蔵庫に保管をいたしまして、右側のほうの流れ、下処理室1、2ということで、別のルートでそれぞれ下処理のほうに進んでいきます。

泥がついている野菜等は、ちょっと小さくて見えないんですけども、全部検査室のところですべて泥を落とすようになっております。

そして、今度は下処理室のほうでございますけれども、これは上のほうが肉、米、魚等の下処理を行うところ、下のほうの下処理②が野菜、果物を処理するところでございますけれども、特に野菜、下処理のほうでは、ちょっと右にラインがあるんですけども、6つほどラインが横にこうなっておりまして、ちょうど下処理の①のあたりから、②のあたりにかけて横にあるんですけども、そこに6つのラインがございます。その6つのラインを並列に配置いたしまして、相互汚染防止と作業の効率を図った配置となっております。

また、野菜類の下処理につきましては4ラインありまして、同時に4種類の野菜の下処理が可能となっております。

この検査室の1と下処理室については、学校給食衛生管理基準に従いまして、いわゆる汚染室と非汚染室、つまり、汚れたものを扱うところと、それから汚れないものを扱うところと明確に分けられておりまして、検査室と下処理室については、そこがいわゆる汚れたものを扱うところになっております。食材のみを今度は調理室のほうに右へ移動すると、こうなっております。この調理室等につきましては、すべて汚染を防止すると、一切汚れを防止するというような形で食品のみが調理室②のほうに送られていく形になっております。

調理室のほうでございますけれども、まず、一番上のほうに長方形の部分がありまして、

米と書いてありますけれども、ここで全自式の連続炊飯器を使用いたしまして、炊飯と蒸らしとほぐしを自動で行います。能力といたしましては、1時間で約2,000人分の炊飯が可能になっております。

そして、その下にあります小さなところでいろいろと揚げ物とか、焼き物、蒸し調理を行うところがございます。

それからあと、画面の今度中央のほうの部分でございますけれども、この辺が調理室2になっておりますけれども、そこに上処理室というような字が小さく見えると思うんですけれども、そこで下処理の済んでいる野菜などを裁断する場所となっております。

それからあと、丸いものを調理室2のところ、丸いものが上から4つ、ちょっと離れて2つあります。これは330リットルの、上が4台となっております。ちょっと離れて400リットル2台、これは電気釜になっておりまして、電気釜が設置されます。4台の電気釜で約3,000食の調理が可能であり、下の2つの電気釜については、ソース作り等を行っていくと、このようになっております。

それからあと、和え物室が下のほうにあります、ここでスチームコンベクションオープンということで、中心温度を測るオープンがございまして、それとボイル用の電気釜を設置して、食材別に使い分けます。この和え物室でございますけれども、いろいろと小さなものを書いてあって、よく見えないんですけれども、瞬間消毒機能を持った和え物釜を、ちょっと丸いものがありますけれども、そういったものを設置しております。和え物等に使用する食缶につきましては、冷却機能付きの消毒保管庫で使用前に冷却いたしますので、和え物等は冷えた状態で各学校まで配送されます。

それからあと、今度は右のほうに行きまして、洗浄の関係のほうなんですけれども、これは青いラインになっておりまして、下のほうからトラックで運んできて、そこから真ん中辺で洗浄機がございまして、食品洗浄機、それからあと食缶洗浄機、コンテナ洗浄機ということで、それで、その洗う場所で洗浄していきます。

食器洗浄機のほうですけれども、これはかごと洗浄をするシステムでありまして、食器に一切触れる必要がないということで、非常に衛生的であります。洗浄後はそのまま上のほうに消毒庫、保管庫がありまして、そこで熱風消毒後、保管をします。

それからあと、食缶の洗浄機のほうでございますけれども、粉碎シンクというものがありまして、そこでいわゆる全部水分を取って洗浄をいたしまして、そして食べ残しなどを細かく裁断して、その右のほうのごみのほうで、そこから廃棄処分として出していくと。このよ

うになっております。

あとコンテナ洗浄機のほうでございますけれども、その上のほうでございますけれども、空になったコンテナをキャタピラのコンベアの上に乗せるだけで自動的に投入、洗浄、すすぎ洗浄を行って、洗浄機の出入り口のほうに除滴装置、つまり滴を、水分を取る装置がありまして、送風によってコンテナに残る水滴の除去を行うと。

また、コンテナだけでなく、調理場内で使用する運搬台、移動調理台の洗浄も行えます。消毒保管につきましては、そこにありますように、食器は翌日行う食器をコンテナに積み込みまして、コンテナごと消毒保管をします。そして食缶につきましては、調理室に接続している消毒保管庫でそれぞれの消毒保管を行います。そして配缶時は、そのドアからパススルーということで、両面扉ということで、そういう形で外に出すようになっております。こういった形で、しっかり調理をする場所と洗浄をする場所がはっきり分けられております。

なお、先ほど申し上げましたように、汚れ物を扱う場所と一切汚れ物を扱わない場所ということで、先ほど申し上げましたように、検査をする場所、下処理室、洗う場所、ここがいわゆる汚れ物を扱う場所、それから、調理を行う場所と真ん中辺にありますコンテナからコンテナを出す部分、この辺が全部、一切、細菌、汚れを扱わないという場所ではっきり分けております。

あと事務室、左下でございます。その辺が事務室、あるいは男性更衣室ということで、なお、更衣室やトイレの前にはすべて滅菌ですか、消毒をする設備が整っております、いわゆる衛生面を非常に重視したという形でつくられております。

なお、7ページにつづってありますこの各機器でございますけれども、先ほど申し上げましたそれぞれの部屋ごとにこれだけの機材といいますか、施設を設置しております。全部で191になろうかと思えます。191の設備をこの中に配置していくということでございます。

簡単でございますけれども、補足説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○委員長（向後悦世） 担当課の説明は終わりました。

議案第25号について、質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すばらしい給食センターができるということで、本当にうれしい限りなんですが、いちやもんをつける気はないんですけれども、ちょっと民間というか、素人考えで、これは24年の9月予定と言われましたよね。それで、厨房関係というのが搬入されるのはいつごろになりそうなんです。来年の3月までに入ってしまうんですか。

それと、要するにこの9月オープンという話は、外構とかいろいろあるんでしょうけれども、ひょっとしたら3月、4月くらいから入ってくるのかなと、厨房設備は。

それと、合計で11億5,000万円ぐらいですか、大ざっぱで。厨房設備だけで約2億5,000万円ですよ。新しく作るのに、古いものを使えとは言いませんけれども、今まであった給食センターでも、かなりもう古いんでしょうけれども、例えば近々に買った冷蔵庫とか何か、これは素人考えで申し訳ないんですけども、そうすると、厨房設備だけで2億5,000万円かかるわけですから、今まであったところにあったやつが全部使えなくなってしまうのか、搬入することができないのかなと、素人考えでちょっともったいないかなと。そっちはどうするのかと。それがちょっと気になったものですから、その辺のちょっと説明をしていただけると。

○委員長（向後悦世） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、厨房のほうでございますけれども、建設が先になりますけれども、今のところ、来年の4月、5月ぐらいに一応設置をしていくというふうな予定であります。

それからあと、今、ご質問がございました、中の施設用品と申しますか、それについて、使えるものについては第一学校給食センターのほうへ持っていくということで考えております。ただ、新しいところにつきましては、1つのシステム的な部分で動いておりまして、昨年の学校給食の運営委員会のほうでもその辺はよく検討したということでございますので、なるべく無駄のないように、今、第一給食センターもございますし、実は今、給食センターは干潟の分が入っております、ちょっと多くなっているところもあるんですけども、なるべく無駄にしないように活用していきたいと、このように考えております。

○委員長（向後悦世） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、議案第25号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

○委員長（向後悦世） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

議案第12号、平成23年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

議案第13号、平成23年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

議案第20号、工事請負契約の締結について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

議案第21号、工事請負契約の締結について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

議案第22号、工事請負契約の締結について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

議案第25号、財産の取得について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（向後悦世） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告してください。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石井 繁） それでは、高齢者福祉課のほうより、介護保険サービス利用者自己負担額の減免期間の延長についてご報告させていただきます。

この東日本大震災の被災者に対する介護保険サービスの減免の取り扱いですが、去る7月の第2回定例会の所管事項報告において一度ご報告させていただきましたが、今回、期間を延長いたしましたので、改めてご説明させていただきます。

当初は、住宅の被害の程度が全壊の場合は平成23年8月31日まで、また、半壊の場合は平成23年5月31日まで、また、施設を利用した場合の食費及び居住費の自己負担分については、全壊、半壊とも23年5月31日までといたしておりましたが、サービス利用料の自己負担額につきましては、今回、全壊、半壊とも平成24年2月29日まで減免期間を延長することといたしました。

また、施設を利用した場合の食費及び居住費の自己負担分については、厚生労働大臣が定める日までの期間までと改めさせていただきました。

これにつきましては、国のほうで、当初8月31日ごろまでを指針として出ておりましたが、9月1日以降も継続するというので、期間のほうは明示されておられませんので、今回、食費、居住費については厚生労働大臣が定める日までとさせていただきます。

減免期間の延長につきましては、2月29日まで延長いたしますので、ご報告いたします。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鏑木友孝） それでは病院のほうから用意した資料をご説明させていただきます。A4判横の3枚組みでございます。こちらのほうになります。

こちらのほうでありますけれども、病院が現在行っております再整備事業につきまして、その改修工事の状況と今後のスケジュールをご報告させていただきます。

まず、1枚目でありますけれども、こちらのほうは改修工事の状況を示したものです。赤く色をつけました棟です。3か所ありますけれども、こちらのほうは現在工事中のところでありまして、1号館は主に6階部分を、それから、2号館と7号館は全面改修を行っております。それで、赤い字で改修後の診療科や病棟を示しております。

また、緑で示しました部分ですけれども、現在、仮に移転しているところでありまして、改修工事終了後には1号館、2号館に戻ります。1号館、2号館、7号館の改修工事は11月末の完成を目指しております。

それでは、2枚目のほうをお願いいたします。

こちらは改修工事、この後なんですけれども、3号館の改修工事、それから4号館の一部解体工事を来年の3月末まで行います。来年3月から8月末までは渡り廊下の増築工事を、それから、9月からは解体工事と外構工事を予定しております。

それでは、3枚目をお願いいたします。

3枚目は、ただいまの2枚目のスケジュールを図面で示したものです。23年度改修工事を言う1、2、3、7号館のエリア、それから23年度、4号館の一部を先行解体するエリア、そして、この一部分、一部解体後に2号館から7号館までを渡り廊下を増築するエリア、そして、24年度に解体する4、5、6号館のエリアを示しております。

以上、簡単ではございますが、報告を終わります。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、私のほうから資料はお配りしてございませんが、子育て支援課のほうから日の出保育所の災害復旧工事について、報告させていただきます。

災害復旧工事につきましては、建築土木工事と、それから給排水設備工事に分けて実施いたします。今回の工事は、建築土木工事でございます。給排水設備工事は10月下旬に発注する予定であります。

分けて発注する理由といたしましては、当初設計業務では、屋内給排水設備は被害がないということで進めてまいりましたが、調査を実施したところ、地盤沈下により配管が破損していることが分かったために、追加によって設計業務を実施し、10月下旬に発注するとしたものです。

今回の建築土木工事につきましては、9月20日に入札した結果、契約候補業者は旭市ニの1469番地1、株式会社伊藤工務店で、請負金額は7,455万円、工期は平成24年3月25日までとしております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ほかに所管事項の報告はございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） それでは、所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

次に、陳情の審査を行います。

子育て支援課以外は、退席してください。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時48分

再開 午前11時10分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

陳情の審査

○委員長（向後悦世） 去る9月9日の本会議におきまして、本委員会に付託されました陳情は、陳情第2号、「子ども・子育て新システム」導入に反対する意見書を国に提出することを求める陳情、陳情第3号、公設公営保育所への特定財源の復活に関する意見書を国に提出

することを求める陳情、陳情第4号、県の「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条例化にあたり市町村が独自に設定している上乘基準などの反映を求める意見書提出に関する陳情の3件であります。

それでは、陳情第2号の審査に入ります。

子育て支援課より参考意見がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、「子ども・子育て新システム」導入に反対する意見書を国に提出することを求める陳情について、参考意見を述べさせていただきます。

子ども・子育て新システムは、子どもの育ち、それから子育て家庭を社会全体で支えるために、市町村が制度を実施し、国・県が支える仕組みとして構築されています。

国、県、市、それぞれの役割としては、市町村は子ども・子育てに関するニーズを把握し、給付事業の需要見込量、それから見込量確保のための方策等を盛り込んだ計画を策定し、この計画を基に給付事業を実施します。県は広域自治体として市町村を支援します。国は子ども・子育て包括交付金の交付と事業が円滑に運営されるような必要な措置を講じます。

給付の設計としては、1つとしては、すべての子ども・子育て家庭支援、いわゆる基礎給付として子ども手当・一時預かり事業、妊婦健診事業、乳幼児全戸訪問事業、そして市町村独自の事業ということが見込まれております。

2つとして、両立支援・保育・幼児・教育給付としては、幼保一体化のための給付や育児休業給付等、幼保一体化を含めた仕事と子育ての両立支援と、それから保育サービス、幼児教育を保障するために妊娠から出産、育児休業、保育サービスの利用、放課後対策、要するに放課後児童と言われる部分まで、切れ目のないサービスを提供する事業が見込まれております。

費用負担といたしましては、社会全体で子ども・子育て支援を支えるという観点から、社会全体、国、地方、事業主、個人等により必要な費用を負担するものとしております。

国は子ども・子育て包括交付金、仮称でございますけれども、そういった名称で市町村に対して必要な費用を包括的に交付すると。市町村は、国から交付された交付金によって、子ども・子育て特別会計を設置して、子ども・子育ての全施策を行うということにされております。

幼保一体化につきましては、幼稚園、保育所、それから現在、認定こども園の3種のものがございりますが、この垣根を取り払って、新たな指針に基づいて幼児教育と保育をともに提

供できるこども園に一本化しますということです。

こども園につきましては、学校法人、それから社会福祉法人、株式会社、NPO等の参入を可能とするということで国は考えております。

現在、旭市では19か所の保育所がございますが、公立保育所の入所率は88%、私立保育所は115%となっております。全体では95%の入所率です。これに対して私立幼稚園は、市内に4か所ございますが、入所率は56%となっております。

幼保一体化によって、旭市としては23か所のこども園が存在することが見込まれますが、現在、希望が増えている3歳未満児、とりわけ産休、育休明けのゼロ歳児、1歳児ということの途中入所が大変増えておりますけれども、そういったものについては入所しやすくなるのではないかとこのように考えております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは審査をお願いいたします。

林委員。

○委員（林 七巳） ちょっと参考までにお聞きしたいんですが、そういう方向に移った場合、今、旭市ではどのくらいの非正規職員がいるのか、それと、今、やっている保育士さん、それがそのままの今の免許でそれがやれるのか、この2点をお聞きします。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 現在、旭市には正規職員が101人おまして、臨時職員さんもかなり多いんですけれども、正規職員というのは101人ということです。

非正規職員は50人。3分の1が非正規という形の流れになっております。これは全国的というか、千葉県下でもそういったところが多いようですが、それが決していいことではないと思いますが、そういった現状です。

それから、資格の件につきましては、新たな資格を設けるというふうに今、国は進んでおりますが、ただ、現在、保育士の資格、それから、幼稚園教諭の資格、2種類あって、今、最近入ってくる方はほとんど両方資格を持っていらっしゃるんですが、保育士だけの資格しかないという方も、旭市内で二・三名は公立保育所の中にいらっしゃるの、その方たちにはその幼稚園の資格も取って、将来の統一された資格に備えようよということで、保育所のほうには啓発しております。

基本的には今の職員はそのまま当面はいけるということです。

○委員長（向後悦世） ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、続いて陳情第3号の審査に入ります。

子育て支援課より参考意見がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、陳情第3号に入ります。

公設公営保育所への特定財源の復活に関する意見書を国に提出することを求める陳情について、参考意見を述べさせていただきます。

平成16年度に実施された国の三位一体改革によって、公立保育所の建設やその運営に対する国・県の助成制度が廃止され、公立保育所に係る経費はすべて一般財源で賄うということになっております。ちなみに平成22年度決算における公立保育所費、人件費を含んだ経費といたしましては、8億3,400万円余り、保育料収入などを除いた5億7,000万円余りが一般財源となっております。

一方、私立保育所については、施設整備に県が2分の1を補助して、運営費についても国が2分の1、県が4分の1を負担しているという状況でございます。22年度の私立保育所6か所に対する国庫負担金としては、1億2,900万円、県負担金は6,400万円、合計4億2,300万円というふうになっております。

職員の配置状況につきましては、公立保育所、先ほど申し上げましたが、22年度では正規職員が101人、臨時職員50人の合計151人でございまして、3分の1が臨時職員ということになっております。これは千葉県下、全国的にも同じような状況となっているというふうに聞いております。

旭市には公立、私立、合わせて19か所の保育所がありますが、公立保育所の入所率は88%、私立は115%ということで、全体では95%の入所率ということで、待機児童はないということで判断をされております。

先ほども申し上げましたけれども、現在、国が進めようとしている子ども・子育て新システムは、市町村は事業計画を作って、それから、その事業計画を実施するために特別会計を作って、国は事業が円滑に運営されるように包括交付金を市町村に対して交付すると。市町村は交付金を基に市の一般財源と合わせて、子育てのすべての施策を実施していくという仕組みに変わっていくというふうに今は考えられております。

幼保一体化ということがスムーズにいくかどうか、大変今、微妙な話も出ておりますけれ

ども、幼稚園と保育所の壁を取り払うことによって、保育の量的拡大ができるというふう
考えられております。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは審査をお願いいたします。

林委員。

○委員（林 七巳） 正規職員と非正規職員の役割分担というか、仕事の内容。結局、非正規
職員になりますと、責任がないわけですから、どういった仕事をしているのか。また、それ
をカバーするようにして、正規職員がどういうことを、その辺をちょっとお聞きいたします。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 林委員さんもよくご存じだと思いますが、実際に非正規職員
は、正規職員の補助的役割をするのが本来の目的であるはずではありますが、現実、
旭市については非正規職員であってもクラスを持っているという方も、すべてではないです
けれども、何人かはいらっしゃいます。

ただ、その非正規職員と正規職員の仕事の差は全く、要するに現実的にはないということ
なので、その辺はいろんな議論がありますけれども、職員の体制をどうとるかというのは非
常に難しい現状ではあります。

以上でございます。

○委員長（向後悦世） ほかにありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） かなり難しい問題なんだろうと思うんですけど、今の公設の正規職員、
それから非正規職員ですよね。職員の待遇、身分の保障ということから見れば、公設公営と
いうのはいいんでしょうけれども、例えば自治体病院がそれぞれ破綻していったように、多
くの自治体病院が破綻していったように、公設の保育所でもそういった問題が出てくると思
うんですね。要は人件費の違い。公設公営、要するに公務員としての身分で採用すれば、通
常民間の二・三倍の人件費になるわけで、全部それでやろうとすれば、要するに経営が成り
立たなくなる。

だから、ある程度は、施設は公で建ててやって設備してあげて、運営は民間に任せようと。
今、旭市でも公設民営が、こひつじ幼稚園とか、進んでいるわけですよね。

今、例えば3分の2が正規職員、非正規というのは公務員なのかどうなのか分からない。

待遇がきちっと公務員の身分は保障していないんでしょうし、それで、その中で特別会計という言葉がさっきも出てきましたけれども、どういうふうな特別会計を組もうとしているのか、ちょっとその辺を説明いただければと思います。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 国が今示している段階では、介護保険のイメージをとらえていただくと分かると思うんですが、要は一括で国がお金を上げますよ、その中ですべての事業をやりなさいと。そのやる中には、市町村が例えば一般財源を投入して、市単独の上乗せ給付も可能ですよという形で今、考えられています。

それで、特別会計そのものがどういうふうな、実際に25年に本当に動くのかどうかというのは大変微妙ではありますが、1つ考えていただければ、例えば介護保険だと介護サービスはすべて特別会計で出しますが、その、市が単独でやっている高齢者施策は、例えば一般会計から出しているということもあるんですね。今、現実。

ただ、この子育て新支援システムになったときには、そういったことまで含んで一つの会計で運営していくというふうな、今は考えられているようです。

先ほど言いましたけれども、その一番ベースになる基礎給付部分というのは、今やっている子ども手当であるとか、本当の通常保育所に入っていない子どもまで含んだすべての子どもに対するサービスをその基礎給付という部分でやりますから、そこがまさしく今、一番分かりやすいのは子ども手当、それから、誰でも利用できる保育所の一時預かり、それから、今、健康管理課がやっています、乳幼児の全戸訪問事業とか、とにかく子どもが生まれて、すべての子どもに平等にいろんなことをしなさいということがまず1つの基礎給付として、通常1階部分というふうな考えられますが、それがありまして、その上の上乗せ部分として、その保育所に関する経費、こども園、それから、今、保育所がやっている通常保育以外の特別保育事業をその2階建て部分のその給付をするよということで、それをトータルでひっくるめた特別会計を設置するということになっています。

それで、職員というか、公設民営の話がちょっと出ましたけれども、干潟保育所が今、公設民営でやっております。

旭市は公立保育所が非常に、旧旭の地区にかなり多いので、旧旭市の時代から保育所は民営化というか、民間に委託しろよということでずっと進んできた経過がありまして、そういったこともあって、いずれは民間に行くんだからということで職員採用を大分控えてきて、結果として合併して、臨時職員さんがいっぱい増えてしまったという難しい状況もあります

ので、ただ、その職員を採用していただくことは、本当は正規職員で回していれば一番いいんですが、それは難しく、一挙に何十人もの保育士はなかなか採用できないということがありますから、今、うちのほうは少なくとも保育士については退職した分だけの補充はしてくださいよと。一般事務職は退職の3分の1とか2分の1とかと減らしていますけれども、有資格者である保育士については退職補充はしてくださいねということで人事担当のほうにはお話ししてはしまして、ただ、将来的に公設民営でいくところが仮に出てきたときには、確かにその公務員の身分というのがなくなるというか、必要なくなる場合もありますので、極端な増やしはできないかなとは思っています。

以上です。

○委員長（向後悦世） 佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） まだ先ほどの話で特別会計という姿はまだちょっと私もよく見えませんが、要するに運営を民営化したならば、例えば干潟なら干潟でこひつじならこひつじで、きちっと会計報告してもらって、こちらで市のほうから出したお金、それだけで済む、要するに会計が楽になるといいですか。逆に公設公営であれば、職員が何人でもいろいろ経費等、公設公営のほうはあくまでも、要するに役所の会計、かなり施設ごとに、例えば滝郷診療所の施設勘定みたいに、単独でぱっとやれば分かりやすいんですが、こひつじ、干潟、それぞれで会計をやって、交付金で出たものだけが出るんですよね、一般会計から。公設公営になると、一般会計の中でそれをまた特別会計のほうへ分けるわけですか。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） お答えになるかどうか分かりませんが、今、国が想定しているのは、今、保育所の入所というのは、市が入所を受け付けて、保育を公立の保育所でやるか、民間に委託するかということでやっています。ですから、入所は当然市に決定権があって、ただ、保育だけを委託しますよということで、例えば私立の保育園であれば委託した人数、年齢と人数に応じて運営費というものを交付しているわけですが、今度、今、国がはっきりは分かりませんが、今、考えられているのは、保育の必要な度合いは市が決めなさいと、それで、必要な度合いを例えば、介護で想定していただくと分かるんですが、介護度を決めます、必要な度合いを決めました、では自分は市内のどこの保育所に行こうかというのは、保護者が自由に選んでいただいて、そこへ直接契約でいきます。そうすると、直接契約ですから、その辺の保育料の支払いに関しても、市はお金を云々では

なくて、保育の必要度合いを決定するだけの権限を持つということになって、実際のやりとりは対個人と保育所という形になるというふうに、今の段階では考えられています。

ですから、若干ちょっと今お尋ねのお金の流れとは違うのかなというふうに思っています。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、続いて陳情第4号の審査に入ります。

子育て支援課より参考意見がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） それでは、県の「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条例化にあたり市町村が独自に設定している上乘基準などの反映を求める意見書の提出に関する陳情について、参考意見を申し上げます。

平成21年12月15日に閣議決定された、地方分権改革推進計画の関係法律の整備については、地方自治体の条例整備が必要なものについては、平成24年4月1日が施行期日とされております。これによりまして、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準については、県条例に24年4月1日から委任されることとなりますが、これの保育所に関する主なものについて申し上げます。

現在、国が定める最低基準としては、2歳未満児の乳児室は1人につき1.65平米、ほふく室は3.3平米、2歳以上児の保育室または遊戯室は1.98平米、屋外遊戯場は3.3平米が基準とされております。

一方で、千葉県が保育所設置認可等の基準に関する指針として定めているのは、2歳未満児の乳児室・ほふく室合わせて4.95平米、2歳以上児の保育室・遊戯室合わせて3.0平米ということで、遊戯室単独の基準としては設けてございません。屋外遊技場としては、国と同じ3.3平米となっております。

保育士の人員の基準でございますが、これは国、県ともにゼロ歳児3人に保育士1人、1・2歳児は6人に1人、3歳児は20人に1人、4・5歳児は30人に1人という基準となっております。これらいろいろな基準がございますけれども、すべての基準において、旭市は独自に上乘せ基準として定めているものはございませんで、すべて千葉県基準のとおり実施しております。

以上です。

○委員長（向後悦世） ありがとうございます。

それでは審査をお願いいたします。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） 旭市は千葉県基準で今やっているというお話ですがけれども、旭市で現状の基準でやっていて、何か不都合等、あるいは父兄からいろいろ注文とかありますか。

○委員長（向後悦世） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（林 芳枝） 特に不都合はございませんし、保護者からもそういった苦情はいただいておりません。

以上です。

○委員長（向後悦世） よろしいですか。

（発言する人あり）

○委員長（向後悦世） ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、ここで執行部は退席してください。

ご苦労さまでございました。

しばらく休憩いたします。

休憩 午前11時35分

再開 午前11時43分

○委員長（向後悦世） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き陳情第2号について審査を行います。

ご意見がありましたらお願いいたします。

林七巳委員。

○委員（林 七巳） 確かにこの趣旨はいいものだと自分では思いますが、今の国、それから旭市の状況を見ますと、今のところスムーズに進んでいるということで、もう少しこのままの状態で行きたいと思えます。

以上です。

○委員長（向後悦世） ほかに何かありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、陳情第2号の審査を終わります。

続いて、陳情第3号について、ご意見がありましたらお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 今、林副委員長さんが言われましたけれども、私もこの3号に関しては、2号も3号も4号も同じようなあれかなと思っております。

○委員長（向後悦世） もう少し社会の動向と国の動向を見きわめてということで。

ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、陳情第3号の審査を終わります。

続いて、陳情第4号について、ご意見がありましたらお願いいたします。

林七巳委員。

○委員（林 七巳） 3号も4号も確かに趣旨はすばらしい趣旨ですが、今のところ、この旭市の状況を見ますと、今までのとおりもう少しこのまま見きわめていきたいと思います。

○委員長（向後悦世） ほかにご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） 特にないようですので、陳情第4号の審査を終わります。

陳情の採決

○委員長（向後悦世） 次に、討論を省略して採決をいたします。

陳情第2号、「子ども・子育て新システム」導入に反対する意見書を国に提出することを求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 賛成者なし。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、陳情第2号は不採択と決しました。

陳情第3号、公設公営保育所への特定財源の復活に関する意見書を国に提出することを求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 賛成者なし。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、陳情第3号は不採択と決しました。

陳情第4号、県の「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条例化にあたり市町村が独自に設定している上乘基準などの反映を求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 賛成者なし。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（向後悦世） 全員賛成。

よって、陳情第4号は不採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（向後悦世） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（向後悦世） 以上で審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午前11時50分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 向 後 悦 世

総務常任委員会

平成23年9月26日（月曜日）

総務常任委員会

平成23年9月26日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第11号 平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第15号 市長等及び教育長の給与の特例に関する条例の制定について
- 議案第16号 旭市災害復興基金条例の制定について
- 議案第17号 旭市税条例等の一部を改正する条例の制定について
- 議案第18号 旭市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第19号 旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第23号 財産の取得について
- 議案第24号 財産の取得について

出席委員（7名）

委員長	島田和雄	副委員長	飯嶋正利
委員	林正一郎	委員	林俊介
委員	柴田徹也	委員	太田将範
委員	大塚祐司		

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 林 一哉

説明のため出席した者（28名）

副市長 増田雅男 秘書広報課長 伊藤 浩

行政改革推進課長	林 清 明	総務課長	神原房雄
企画政策課長	米 本 壽 一	財政課長	加瀬正彦
企業支援被災室長			
税務課長	佐藤一則	市民生活課長	斉藤馨
会計管理者	花香寛源	消防長	佐藤清和
監査委員局長	馬淵一弘	その他担当員	17名

事務局職員出席者

事務局長	堀江通洋	事務局次長	向後嘉弘
主 査	榎澤 茂		

開会 午前10時 0分

○委員長（島田和雄） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

暑さ寒さも彼岸までという言葉がございますけれども、きょうで彼岸も終わりといった中で、本当に一気に秋らしくなっただけで、大変過ごしやすい陽気になってきました。東日本大震災からもう半年以上経過しているわけでありまして、まだまだなかなか復旧については市民の中では進まないといったような思いを持っている人も多いといったようなことで、関係者の皆様には、今後とも一層のご尽力をお願いを申し上げます。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

なお、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 2分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 2分

○委員長（島田和雄） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、林議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

○議長（林 一哉） おはようございます。

総務常任委員会開催、大変ご苦労さまでございます。もう文教福祉、建設経済の2委員会終了いたしましたわけでございますけれども、どうかよろしく願いいたします。

総務常任委員会には、本会議におきまして8議案を付託いたしましたわけでございます。どうか十二分に審査していただきまして、ご理解を賜りますようお願いを申し上げまして、簡

単ですが、あいさつとさせていただきます。ひとつよろしく願いいたします。

○委員長（島田和雄） ありがとうございます。

議案等説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

副市長。

○副市長（増田雅男） おはようございます。

本日は、総務常任委員会の開催、大変ご苦勞さまでございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、議案第11号の一般会計の補正予算、議案第15号、議案第16号の条例の制定、議案第17号、議案第18号、議案第19号の条例の一部改正、議案第23号、議案第24号の財産の取得についての8議案でございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方のご質問に対しましては、簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案可決くださいますようよろしく願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

本日はご苦勞さまでございます。

○委員長（島田和雄） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（島田和雄） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月9日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第15号、市長等及び教育長の給与の特例に関する条例の制定について、議案第16号、旭市災害復興基金条例の制定について、議案第17号、旭市税条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第18号、旭市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について、議案第19号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第23号、財産の取得について、議案第24号、財産の取得についての8議案であります。

初めに、議案第11号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算（第3号）について、補足説明を申し上げます。

まず予算の規模でございますが、今回の補正額は14億9,600万円でございます。全体の予算規模といたしましては321億8,800万円となります。前年度の同時期と比較いたしますと15.5%の増ということになります。

補正予算書の9ページをお願いいたします。

歳入の一番上になります。普通交付税でございます。本年度の普通交付税でございますが、去る8月5日に決定されまして、交付決定額は83億1,548万6,000円となりました。前年度と比べまして1億2,724万8,000円の増となっております。当初予算計上額が76億円でございますので、予算と比較いたしますと7億1,548万6,000円の増となっております。この増のうち、本補正予算に必要な1億1,673万7,000円を財源として計上したところでございます。残りにつきましては、今後の補正予算の財源として留保するものでございます。

以上で財政課からの補足説明を終わりにさせていただきます。

○委員長（島田和雄） 総務課長。

○総務課長（神原房雄） それでは、議案第11号の中の総務課所管の補足説明を申し上げます。12ページをお開きください。

歳出の一番上になります。2款1項1目一般管理費、説明欄1の庁舎改修事業2,939万2,000円でございますが、主なものは本年の東日本大震災を教訓にいたしまして、海上支所に設置しましたサーバールームがありますが、停電時に備えての非常用発電設備設置工事費でありまして、金額については2,727万7,000円でございます。

キュービクルの規模については450キロボルトアワーということで、停電時の対応としまして、支所への自動切り替えができるということと同時に、災害対応として海上公民館、保健センターにも発電可能という部分でございます。

以上です。

○委員長（島田和雄） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 12ページをお願いいたします。

真ん中辺です。4目財政管理費です。災害復興基金積立金4億8,612万円でございます。これは、議案第16号との関連がございます。基金を積み立てまして、復旧・復興事業の財源とするものでございます。

その財源でございますが、前のページ10ページと11ページをご覧になっていただきたいと思います。

思います。

初めに10ページです。真ん中やや下、16寄附金、1目の一般寄附金の2節災害見舞金、これです。旭市の復旧・復興のために使ってほしいということで、一般寄附53件分がこの金額でございます。

それともう一つ、11ページです。ちょうど真ん中です。3目の雑入にあります。これは説明欄にありますが、財団法人千葉県市町村振興協会から復興のために使ってもらいたいという見舞金でございます。

以上で補足説明を終わります。

○委員長（島田和雄） 消防長。

○消防長（佐藤清和） それでは、議案第11号の中の消防本部分についてご説明を申し上げます。

補正予算書15ページをお願いします。

非常備消防費の中の説明欄です。千葉県市町村総合事務組合負担金の増額でございますが、このたびの東日本大震災により消防団員の死者、行方不明者が251名に上りました。その多くが公務中であったため、市町村が消防団員等公務災害補償等共済基金に対し、平成23年度に限って特別な掛金を支払うことによりまして、被災した消防団員に公務災害補償の確実な実施を確保するためでございます。

掛金につきましては、消防団員の条例定数による1人当たりの掛金1,900円を平成23年度に限り2万2,800円引き上げ、2万4,700円とするものでございます。

旭市の負担金でございますが、差額分といたしまして、2,398万5,600円でございます。

なお、この特別な掛金による市町村の負担増につきましては、特別交付税により措置されることとなっております。資料をお配りしてございますので、参考としていただきたいと存じます。

以上です。

○委員長（島田和雄） 秘書広報課長。

○秘書広報課長（伊藤 浩） それでは、12ページをお開きいただきたいと思います。

文書広報費の中の震災記録誌作成支援業務委託料。議案質疑でもちょっと出ていたんですが、内容的なものでちょっとお話させていただきます。

この委託料につきましては、すべて業者に作成を委託してしまうと。補助金の流れが緊急雇用創出臨時特別基金補助金ということで、この委託業者が請け負った中で、4人の人件費

を必要としています。そのうちの緊急雇用対策としまして、新たに3名の新規の雇用をするということで予定しております。どのようなものを作るかといいますと、ここにありますように旭市の市勢要覧ですね、これ2008年版があるんですが、これで60ページの刷り物で作成したいというように考えております。それで作成枚数は2,000部です。

以上です。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） 災害復興基金なんですが、今後これはどのくらいの期間、どのくらいの額を積み上げていくのか。また、この災害復興基金、今回の震災にあたって特定ではなくて、今後これからも災害というのはあると思うので、そういったものにも使われていくのか、その辺のところをよろしくお願いいたします。

○委員長（島田和雄） 飯嶋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） どのくらいの期間、どのくらいの金額をというご質問でございます。

どのくらいの期間というのは、まず今回の震災にはもちろん復旧にも復興にも使いたいと思っています。ただ、このまた16号の条例でもあるんですけども、その後、仮に災害が起きても使えるような条例を作っております。これが16号であります。ですので、何年という決め方はしてございません。でも先ほど説明したここの復旧・復興に使ってもらいたいという寄附された方の意図を受けまして、この震災を中心とした使い方になろうかと思っております。ですので、何年というお答えはできませんけれどもよろしくご理解をお願いします。

あと金額ですけれども、取りあえず今の金額を基金とします。でも、これから先にまだ義援金やら来ますので、それを加えてということになろうかと思っております。

以上です。

○委員長（島田和雄） 飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） そうすると、特別の見舞金とかそういったもの以外は入れていかないということですか、財源としては。

○委員長（島田和雄） 飯嶋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 現在のところ、そういう考えでおります。

○委員長（島田和雄） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第11号の質疑を終わります。

続いて、議案第15号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

総務課長。

○総務課長（神原房雄） 議案第15号につきましては、本会議で説明したこと以外に補足して

説明することはありませんので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第15号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第15号の質疑を終わります。

続いて、議案第16号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） それでは、議案第16号、旭市災害復興基金条例の制定について、補足説明申し上げます。

これは先ほど11号の補正予算で申し上げましたけれども、基金の財源として4億8,612万円を使うための条例制定でございます。

補足説明は以上です。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第16号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第16号の質疑を終わります。

続いて、議案第17号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

税務課長。

○税務課長（佐藤一則） それでは、議案第17号、旭市税条例等の一部を改正する条例について、補足説明を申し上げます。

本議案に関しましては、本会議においてその詳細についてご説明いたしましたので、大きく変わった点、3点について申し上げます。

1点目は、市民税の納税管理人の不申告に関する過料を3万円から10万円に引き上げるものでございます。このほかにも過料の引き上げが6件、過料の新設が3件ございます。いずれも過料を10万円とするものでございます。

2点目は、寄附金税額控除の改正でありまして、控除の適用下限を5,000円から2,000円へ引き下げるものでございます。

3点目につきましては、肉用牛の売却による事業所得に係る市民税の課税の特例でありまして、第1項は特例の適用期限を平成24年度から平成27年度へ延長し、条文の整理を行うものであります。課税対象につきましては2,000頭から1,500頭に変更するものでございます。また、施行期日につきましては、本会議でご説明したとおりでございます。

以上で、議案第17号についての補足説明を終わります。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第17号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第17号の質疑を終わります。

続いて、議案第18号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
税務課長。

○税務課長（佐藤一則） 都市計画税については、文言の整理でございますので、補足説明はございません。

以上でございます。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は終わりました。

議案第18号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第18号の質疑を終わります。

続いて、議案第19号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） 本会議でご説明したとおりでございますので、本委員会での補足はございません。

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、議案第19号の質疑を終わります。

続いて、議案第23号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
消防長。

○消防長（佐藤清和） 議案第23号につきましては、本会議で財政課長がご説明申し上げました。そのとおりでございますので、特別ございません。

○委員長（島田和雄） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 質疑については特にないようですので、議案第23号の質疑を終わります。

続いて、議案第24号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
消防長。

○消防長（佐藤清和） 議案第24号に関しましても先ほどと同様でございます。特別ございません。

○委員長（島田和雄） 担当課の説明は特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 質疑、特にないようですので、議案第24号の質疑を終わります。
以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（島田和雄） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第11号、平成23年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第11号は原案のとおり可決されました。

議案第15号、市長等及び教育長の給与の特例に関する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、旭市災害復興基金条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第17号、旭市税条例等の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

議案第18号、旭市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

議案第19号、旭市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

議案第23号、財産の取得について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

議案第24号、財産の取得について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（島田和雄） 全員賛成。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(島田和雄) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長(島田和雄) 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長(林 清明) それでは、行政改革推進課から、3点ご報告させていただきます。

最初に、旭市公共施設の活用方針について、お配りした資料をご覧いただきたいと思えます。A4縦でちょっと厚いものです。

これは昨年度、調査、検討してきたもので、去る2月16日に開催していただいた議会全員協議会で概要をご説明したものでありますが、その後、ご意見をいただいたところであり、その時点では、年度内に行政改革推進委員会を開催し、遅くとも5月には決定するということをご説明したものであります。ところが、3月11日の東日本大震災発生によりまして、被災した公共施設が出まして、一部見直しが必要になりました。そのため、決定が8月3日にずれ込んだものであります。

本日は、被災によりまして内容の変わった施設についてのみご報告させていただきます。

活用方針の32ページをお開きください。

1番下になります96番、旭市営飯岡海浜プールについて。これについて、被災したことから、下の米印の部分のように被害を受けたことを加筆したものであります。

結果として66ページをお開きください。

1番下の96番、旭市営飯岡海浜プールですが、従来存続となっていた活用方針を休止といたしました。

ほかの変更した施設につきましては、活用方針のみ報告させていただきます。

67ページ、100番、農産加工室（横根地区）です。この施設も従来存続となっていたんですが、今回廃止といたしました。これは、修復不可能と思われる甚大な被害を受け、既に取り壊しをしたものであります。機能につきましては、干潟地区にあります農産物処理加工センターで補完できる見込みであります。

続いて68ページ、107番の食彩の宿いいおか荘です。こちらも従来存続となっていた活用方針を休止と変更いたしました。当面は、政務報告、それから一般質問等でもありましたとおり、企画提案型の公募型プロポーザル方式での民間委託や賃貸などができないか、検討していくということになっております。

次に、70ページをお開きください。

125番、1番下です。下永井公衆トイレ。これも従来存続となっていた活用方針を廃止といたしました。これは、被災の修復にかかる経費を考えたとき、すぐ近くにありますいいおかみなと公園内に公衆トイレが設置されていることから、廃止することとしたものであります。

最後になりますが、71ページ、129番、旭市消防署飯岡分署をお願いいたします。これは、従来存続となっていた活用方針を移転としたもので、もともと早期に移転等の検討をすることとなっていたことから、被災を機に飯岡支所内に移転することとしたものであります。

以上で震災に伴う活用方針変更点のご報告を終わります。

今後は、この活用方針にのっとり、さまざまな検討がなされ、活用されていくこととなります。

次に、行政改革アクションプランの進捗状況についてご報告いたします。

お配りしたA4横の資料をご覧ください。

本日はご報告する進捗状況は、昨年度を初年度とする第2次行政改革アクションプランの取り組み、進捗状況を調査したものです。取り組みの最終目標に対する進捗度ではなく、1年目に予定した取り組みが実施できたかどうかを調査したものであることから、今回よい評価が出ているものが即目標達成に近いというわけではありませんので、ご了解をお願いいたします。

今回、進捗状況を調査、評価するにあたりまして、まず取り組み項目ごとに進行管理表なる5年間のスケジュール表を作成していただきました。そこで、当該年度、平成22年度に予定した作業等が予定どおり進んだかどうかの調査、評価をいたしました。

1ページをお開きください。

4行目からにありますとおり、星印の完了したもの、それからDのほとんど進行していないものまで5つの区分に評価いたしました。また、アクションプランに定めた60項目の取り組みのうち、複数の課にかかわるものについてはそれぞれ別に評価したことから、表の合計欄にありますとおり、67の項目について評価をしたということでもあります。

結果は、表に記載のとおり、星印の完了、それからAの計画どおり、さらにBの概ね計画どおり、これらを合わせますと87%となり、順調な滑り出しかなというふうに考えております。

象徴的な項目としては、3ページ、7の職員数の削減をご覧ください。

平成22年度中の退職者が予定より多かったことから、削減目標だった8人の減に対しまして、実績では16人の減となりました。

逆に、15ページをお開きください。

49、未利用資産の活用方針の策定ですが、これは残念ながら委員会の立ち上げに至らず、遊休市有地の活用・処分のあり方について、検討がまだ始まっていない状況であります。

このように、計画どおり進捗していないCランクの評価となったものが、もう一度1ページにお返りいただきたいんですが、9事業ございます。これらを踏まえまして、今年度以降もこの作っていただいた進行管理表、これに沿った着実な遂行に向けてしっかりとしたチェックと推進を図ってまいります。

進捗状況については以上です。

資料ございませんが、最後に、昨年度から試行として実施している事務事業評価について、今年度の現状をご報告いたします。

昨年度の主要事業を中心とした評価に対しまして、今年度はソフト事業を中心に128事業を抽出し、7月から調査を開始いたしました。現在、昨年同様、2次評価まで終えたところですが、本年度は新たな試みとして市民目線による外部評価も試行することとし、取りあえず本年度は行政改革推進委員会の委員の皆様にご覧いただき、幾つかの事業を見ていただくことといたしました。外部評価を終えましたら、改めて結果を取りまとめ、ご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

行政改革推進課からは以上です。

○委員長（島田和雄） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） それでは、3件の資料についてご説明申し上げます。

1つ目ですけれども、平成22年度地域資源価値創造事業報告書という白い薄い冊子がございます。間にちょっとパンフレットが入っているようにしています。これは、事業の目的として旭市の潜在的な文化・観光資源を新たな目線で調査し、全国に向けての情報発信を試みるため、研究・開発を行ったものであります。この報告書は3年間事業を行った記録でございます。2年目と3年目には市内農業者、漁業者、商業者と14名で構成されましたブランドづくり委員会というものを立ち上げまして、研究していただいたものでございます。

旭市においては、資源、旭中央病院による健康の「健」、農業という農業の「農」、それから観光や漁業の「海」を、誰もが認める大きな資源として位置づけているものであります。

1点目は以上でございます。

次に、2つ目、厚い冊子がございます。この道の駅等設置基本調査業務報告書という、この厚い冊子でございます。

本件につきましては、7月に農水産課から企画政策課に担当を引き継いだものでございます。この報告書の内容ですけれども、大きく分けて7項目ございます。ページに1の何々と振ってある、この大きく分けて7項目ございますので、1つ目は設置目的の整理をしてございます。2つ目は、必要機能の検討をしました。3つ目は、施設の検討。あとは4つ目に設置場所の検討をしてございます。5つ目には、運営形態の検討を行いまして、6つ目に事業手法の検討、7つ目最後ですけれども、推進委員会や分科会の内容を記録して、この厚い冊子ができております。

以上、2点目は終わりにします。

最後に3つ目ですけれども、旭市復興計画骨子（案）という冊子がございます。それをご覧になっていただきたいと思っております。

先月19日、第1回復興計画検討委員会を開催いたしました。委員長には、千葉科学大学の船倉教授が就任しまして、市から提案しました計画骨子のたたき台を提出しまして、各委員さんから意見をいただいたところであります。その委員さんからいただいた意見を加えたものが本日お配りした骨子（案）でございます。4つの基本方針ごとに施策を分けて、102の事業を記載してございます。ただ、第2回検討委員会を来月の10月12日に開催する予定になっております。その場所でこのたたき台というか、骨子（案）をまとめたという考えであります。ただ、これはあくまでもまだ未完成のものでありますので、ご了承をお願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（島田和雄） それでは、所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

大塚委員。

○委員（大塚祐司） 公共施設の活用方針ですけど、大変よくできていると思うんですけど、上水道の水道管、道路、橋などのインフラについてトータルに見て、公共施設と同様に全部同じ土俵で評価している自治体もあるんですけども、旭市の場合、伊藤保議員が上水道管について、老朽化について質問したことがあると思うんですけども、そちらのいわゆる公共施設と違うインフラのほうについてはどのようになっているか、教えていただきたいんですけども。

○委員長（島田和雄） 行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（林 清明） 今回策定しました公共施設の活用方針の中では、インフラについての検討はなされておられません。ただ、それぞれ水道事業、それから道路等の建設課のほうでは形、紙にはなっていないということですが、取りあえずの検討はしているというふうには聞いております。

以上です。

○委員長（島田和雄） 大塚委員。

○委員（大塚祐司） ありがとうございます。

もう一つあるんですけども、道の駅これ、ざっと見たところ、地元の小売業、飲食店に対する影響について書いていなくて、こちら市の持ち物と上下分離して運営するんですけど、税金を投入して小売業、飲食店を圧迫するのではないかという危惧が私はあるんですけど、その地元の小売業、飲食店に対する影響力について検討がなされたのかどうか教えていただきたいと思います。

○委員長（島田和雄） 答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 今、大塚委員さんから地元の圧迫にならないようにと、検討したのかということでございます。あくまでも推進委員として活性化のために一生懸命検討をいただきました。大塚委員さんが今おっしゃっている地元対策につきましては、これから今度は検討委員会を作っている議論したいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（島田和雄） 大塚委員。

○委員（大塚祐司） 道の駅自体は反対じゃないんですけど、トータルで旭市を宣伝しなきゃいけないと。実は、旭市というのは知名度は上がっているんですね。インターネット調査をやって、再現性のある非常に信頼できる調査、今年の7月にされたんですが、旭市の知名度はかなり上がっている。それで、じゃ、旭市に来たいか、旭市のものを購入したいかという点については落ちているんですね。要するに、いいことで知名度が上がらなければ、幾らお金かけても意味がない。ただ、私は片手落ちだと思っているのは、民間のオイシックスなど野菜を売っているところでは、いまだに放射能検査しています。出荷するもの。旭市はそれをやめちゃっていますね。それから、病院についてもほうっておいておく。これ12月で別の話題出ししますけど、トータルにやらないと、道の駅だけやっても片手落ちかなというふうには思っています。反対もしませんし、やるんだったら応援はしますけれども、やはりここだけピンポイントでわあっとやってもあまり意味がないのかなという気がします。特に答弁は不要です。

○委員長（島田和雄） そのほかありませんか。

太田委員。

○委員（太田将範） 道の駅の話が出ましたけれども、震災前と震災後で、周辺の道の駅の集客力というのは相当落ちているんじゃないかと思うんですね。ですから、震災前と震災後の影響もきちっと調査をしてみてください。よろしくお願いします。

○委員長（島田和雄） 答弁は。

（発言する人あり）

○委員長（島田和雄） いいですか。

林委員。

○委員（林 正一郎） 道の駅ですが、私はこれだけの冊子をお金をかけて、道の駅がこの役所が経営して、経営形態まだ読んでいないけれども、そろばんが合うのかなと。いいおか荘と同じで、毎年5,000万円、1億円ずつ赤字をため込んでいるようなことにならないかなと。まず場所はどこへやるんだか知りませんが、私は要するに道の駅の構想は、20年前から反対してきました。今、これ補助金ないと思うんですね。当時は道の駅ブームでありましたからどんどんやってきましたが、これを道の駅、経営形態、私見てはおりませんが、役所が道の駅を経営したって、赤字になるのはもう100%なるよ。人口が減っていくわけです。この東総地域、要するにそれと北総地域、人口がどんどん減っている。人のないところに商売は成り立たないわけです。そこらを計算して、この道の駅構想というのをやっているのか。

これでも中央病院さえ毎日1,000人以上来る、これらのお客を利用して活用してやるという計画だったら、またどうかもしれませんけど、先ほど大塚先生が申したように、民を圧迫しないのか、そういった問題。それで、今大企業の競争によってどこが勝つか、今の段階、旭市の状況下ではスーパータイヨー、あれが1番利用客が多いと言われている。それと、ニトリがまた来ますね、サンモールの前に。そういった大企業がどんどん進出して過当競争の時代に、少くらしい野菜を売ったくらいで、これは商売になるのか。私はそれが疑問なんです。これだけは慎重を期してやらないと大変なことになる。いいおか荘でも同じよう、お荷物を持つような形になります。経営形態をまだ私も読んでいませんが、こんな厚い冊子を作りながら、作る価値が何であったのか、お金をかけて。要するに、親方日の丸的な発想で事業をされたら困るということです。私はそれだけは言います。その点を踏まえて、この道の駅構想というものを練っているのかどうか、これもお答え願います。

○委員長（島田和雄） 副市長。

○副市長（増田雅男） ただいま貴重なご意見ありがとうございます。

確かに林委員さんおっしゃるように、やはりこれから大分厳しくなってくると思います。ただいまいただきましたご意見を踏まえまして、これからよく検討して進めてまいりたいと、そのように考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長（島田和雄） 林委員。

○委員（林 正一郎） 副市長さんね、慎重を期してやっていただかないと、これは大変なことになるわけです。マーケットはどんどん縮小されていくわけですね。先ほど言ったように人口減っていくわけですから。銚子市なんかもどんどん減りますね。香取市なんかも1番減っているでしょう。だから全部道の駅やっても全部ペイしないわけですね、要するに。多古もペイしていないわけですね。要するに、農産課が給料払っているから、だからペイしているわけですね。だから、私はそこらをやはり役所もやるからには、これから次世代にツケを回すような事業計画というものは、やはり考える必要があるのではないかな、私はそんなふうに思います。

それと、やはりそろばんが合うのか、ペイするのかということがまず私は大事だと。要するに、やることに意義があるではやはり困るということをしかりと頭の中に入れて、再度計画を練っていただきたい。

以上です。

○委員長（島田和雄） 答弁いいですか。

（発言する人あり）

○委員長（島田和雄） 副市長。

○副市長（増田雅男） ありがとうございます。

ただいまご意見いただきましたように、経営の方法だとか内容の問題、慎重を期してこれから進めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○委員長（島田和雄） 林委員。

○委員（林 正一郎） ちなみに、この冊子は、課長さん、お幾らかかったの。ちょっとお願ひします。

○委員長（島田和雄） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） この冊子は幾らということで、コンサル料が388万5,000円、これは業務委託料であります。この冊子を作るためというよりも、全体のコンサル料として、この冊子を含めたコンサル料が388万5,000円ということでございます。

○委員長（島田和雄） 林委員。

○委員（林 正一郎） 課長さんね、コンサルというのはお金もうけなんですよ。それ行けどんどんなんです。コンサルの言う話聞いてやってたら、企業は全部つぶれちゃいます。はっきり言って。コンサルを利用するだけのあなたにノウハウがない限りは、コンサルを利用しても何の価値もない。いいおか荘と同じですね、JTBと。自分に能力がなくてJTBを使って何千万とお金を払っちゃった。それと同じことになりますよ。コンサルを使うだけのあなたに発想、想像性豊かな人間でない限りは、コンサルを使えないの。商売というのはアイデアですから。アイデアなくて商売は成り立ちませんから。380万どぶに捨てたのと同じになりますよ。私、これ読んで、また12月にあなたと試合をしたいと思えますよ。

○委員長（島田和雄） 企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） ごもつともなご意見でございます。本当にそのように頑張らせてもらいますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（島田和雄） そのほかございませんか。

柴田委員。

○委員（柴田徹也） やっぱり道の駅のことなんですけれども、まず施設の検討をされていますけれども、今うまくやっているところというのは大体その経営者がいいんですよ。道の駅とみうらのことがちょっと書いてありましたけれども、要するに施設をどんなに造ったって

成功するわけじゃなくて、やっぱりそれを生かす経営者というか、ノウハウがないと、うまくいっていないと思うんです。房総辺り見ても、大体は回収の時点で大変になっているような感じがします。ですから、今、林委員からも話がありましたけれども、施設先行じゃなくて、逆を言ったら、小さい施設で始めてやっぱり大きくしていく。私はそのほうが安全だと思うんです。いきなりどんとこんな何十億かけたからペイするだろうと、そういう問題じゃなくて、私はやっぱりソフトから入るべきじゃないかなと思います。今、大体の道の駅が苦戦していますよ。これ見れば見るほど。それを新しいあれにこんな立派な施設を、構想を作って、報告書を作ってやられているんですけども、そこから始められたほうが私は失敗しないんじゃないかなと思いますので、よろしく検討をお願いいたします。

○委員長（島田和雄） 答弁をお願いします。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） これは、あくまでも各推進委員さんからいろんな議論がありました。施設を小さくしてだんだん大きくしていくんだよという意見もありました。この辺は十分これからの検討のご意見にさせていただきたいと思います。

ありがとうございます。

○委員長（島田和雄） 柴田委員。

○委員（柴田徹也） 林委員さんの意見と私はそこは本当に同じなんですけれども、コンサルというのはやっぱり動かさないと商売にならないんです。ですから、コンサルに相談すると、ここを変えろ、あそこを変えろといっぱい変えさせます。変えたほうがいいんです。ですから、お店をちょっと売れるお店にしたいというんだったら、いっぱい金をかけさせて金を使わせるわけです。それがコンサルのやっぱり持って行き方なんですよね。動かないと商売にならないものですから。ですから、本当にコンサルの言うがままやっていたら、本当に大変なことになります。今、日本じゅうの旅館、全部コンサル頼んでいます。じゃ、みんな景気がいいかというところじゃなくて、その中でやっぱり売れる旅館というのは本当に一部でございまして、その辺をどうぞ皆さん肝に銘じてよろしくお願ひしたいと思います。

では、ちょっともう1回答弁をお願いします。

○委員長（島田和雄） では、答弁をお願いします。

企画政策課長。

○企画政策課長兼被災者支援室長（米本壽一） 本当にありがとうございます。今のご意見、本当に肝に銘じて、これから仕事したいと思います。よろしくお願ひいたします。

○委員長（島田和雄） そのほかございませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田和雄） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

○委員長（島田和雄） それでは、以上をもちまして本委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

閉会 午前10時54分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会総務常任委員会委員長 島田和雄